

# 稲門フィラテリー 36～40号目次

## 36号

四国 88ヶ所巡礼記 2008-2010	長谷部 晃	539
爛漫の花に、雪が降り 平成 22 年度稲門フィラテリー 見学旅行記	上田 克己	544
坪内逍遙晩年の住居・雙柿舎訪問記	池澤 克就	548

## 37号

稲門フィラテリー 10 周年		551
10 のあゆみ 会報、切手教室、見学旅行、常設展示、講演会 「二番じゃダメですか？」 巡業先の夜	青柳 次男	557
手彫切手の楽しみ NO.8 幕末一明治初期の日本の外国郵便	坂下 泰一	564
宗教家の切手	木辺 円慈	569
邪馬台国夢想	野島 正顕	572
切手偏見 10 切手描かれた場所と文化財の所蔵先		575
落語に切手を想う	小川 義博	580

## 38号

人力車が教えない浅草の一年	住吉 忠男	583
切手に描かれた建物	占野 靖長	588
稲門フィラテリー第 11 回総会報告	額賀	591
「都の西北 郵便から見た早稲田大学史」展から		593
切手偏見 切手の額面価格		595
サマーペックス '10 見学記	諸田 志郎	597
2010 年日本切手発行状況		598

## 39号

大杉先生ありがとうございました	小西邦彦	602
上海万博 2010 を訪ねて	和田文明	603
正田幸弘著「文献散歩道」	小林彰	607
"平成 22 年秋「都の西北～郵便から見た早稲田大学史～」展 "新しい図案になった新宿北風景印が使用開始に至るまでの 経緯と解説"	磯野昭彦	613
東北新幹線青森へ初乗り	甲斐正三	617

## 40号 大杉先生追悼特集号

大杉先生の思い出	橘 喬一	622
大杉先生を偲んで	根岸 昭二	624
大杉先生の叙勲	黒川 清知	625
生涯、集めっ気盛ん	青木 常男	627
大杉先生を偲んで	林 輝子	629
大杉先生の思い出	藤田 弘道	629
大杉先生の思い出	住吉 忠男	631
大杉先生の思い出	渡辺 勝正	632
大杉先生との出会いと思い出	小林 彰	633
浜松の人 大杉先生	井上 武志	634
大杉先生と共に	稲葉 良一	635
お世話になった大杉先生	鎌倉達敏・さゆり	638
大杉先生の思い出アルバム		639

# 稲門フィラテリー

第36号

2010年6月1日発行

四国 88カ所巡礼記 2008～2010

長谷部 晃

## 四国への思い

1960年8月、国定公園シリーズの足摺岬が発行された。この切手を私は三宅島坪田郵便局で買った。切手研



の三宅島合宿で三宅高校に滞在中のことだった。国定公園シリーズは風景に踊りや旧跡を配した斬新なデザインで評判になっていた。この切手も遠景に足摺岬の灯台と海、近景に遍路の親子を描いていた。この景色をいつか見たいものだと思った。その年の秋、短編「足摺岬」を書いている田宮虎彦が長編小説「赤い椿の花」を刊行し、翌年テレビドラマや映画にもなった。小説では「霧岬」となっているが足摺岬を舞台としていた。映画をみてさらに足摺岬への興味を深めた。それが実現したのは1963年の春休みだった。切手研の岡田、中川、池山と4人で四国一周旅行をした。夜行列車と連絡船を乗り継いで高松に入り琴平、松山、宇和島、宿毛を経て足摺岬にゆき二泊した。金剛福寺に行った記憶があるが、これが八八カ所札所で唯一訪れたところだった。桂浜で坂本龍馬の銅像に登るとか小豆島土庄港の待合室で麻雀をするなど学生ならではの愚行をしながらの10日間だった。帰りにはお父さんの転勤で宝塚に帰省していた島村にあい、甲子園の選抜大会（埼玉代表の上尾高校が出場）を見て帰郷した。四国一周は三宅島合宿とともに忘れられない学生時代の貴重な経験だった。

## 札所参り

秩父高校に就職して間もない時期、生徒と話していて「俺の家は13番の近くだ」「俺のと

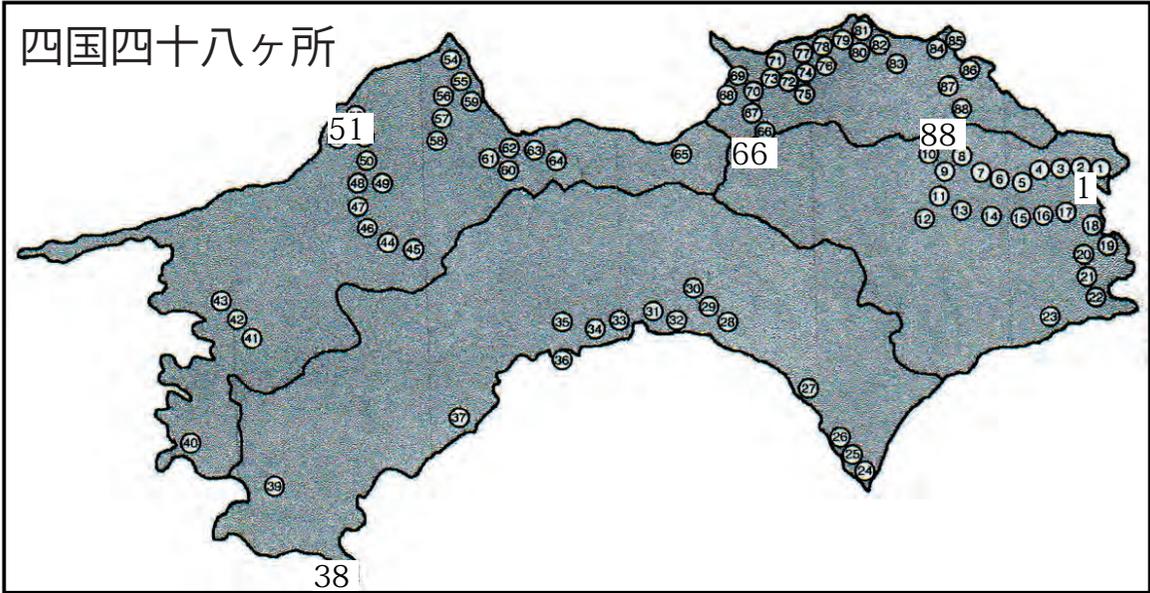
こは23番の下だ」という会話を聞いて「何番てのは何のことだ」と聞いたら「先生は秩父人じゃないから知らないんだな」といわれ初めて札所巡礼のことを知った。秩父34カ所巡礼は板東33



桂浜坂本龍馬像 ☆

カ所、西国33カ所と併せて100観音巡礼の最後となるという。その元祖として四国88カ所巡礼がある。2000年からふるさと切手で「四国88カ所の文化財」シリーズが発行されている。シリーズとして90枚というのは日本では記録になる。もっともその後ふみの日で「百人一首」シリーズが始まったのでいずれ記録は破られるだろうが、完結には20年かかるから当面トップが続くだろう。でもこんなに切手を発行していいんだろうかとも思うが。

定年退職した2002年に午年総会開帳ということで秩父札所の秘仏も公開された。退職記念に分割して廻ってみた。車で駐車場のある札所に行き数カ所を徒歩で廻る。これを繰り返し6回で全部を廻った。その後NHKBSで「街道てくてく旅四国88カ所巡礼」が放映され今度は四国巡礼をしようということになった。妻と妻の兄夫婦も加わって4人組、飛行機にレンタ



琴平の3人 ☆

カーを組み合わせ、四国を4回に分けて回ろうという計画。(時には妻の元同僚も加わって6人の時も)併せて「功名が辻」「龍馬伝」「坂の上の雲」「天下御免」などNHKのドラマゆかりの地をも訪ねてみようということになる。

阿波の国 発心の道場 2008.10

四国巡礼第1番は阿波の国の霊山寺。まず羽田から徳島空港に降り立ち第23番までを第一



秩父札所総開帳記念するフレーム切手

回とした。羽田発8時台の飛行機に乗るのは長瀨を3時に出て熊谷から空港行き的高速バスに乗る。そうすると10時には徳島に着きほぼ一日分の行動ができる。朝は早いが巡礼は効率的にできる。鳴門にホテルを取って3連泊した。初日は第1番霊山寺から順打ちで第10番まで回った。納経帳とお札を求めて記名する。本堂と大師堂にお参りしお札を納めお賽銭を上げる。その後納経所で墨書と朱印をもらう。これが最小限の参拜で、お経を読むとか鐘を撞くとかいろんな作法があるそう。それほど信仰心があるわけではないので最小限の作法ですませた。2日目は第23番薬王寺にまず行き徳島にもどるというコース、3日目は焼山寺など奥地を回ったが、この日は天候が悪く足下がぬか



巡礼のスタート・霊山寺（左二人目筆者）

るみ難儀した。最終日は大鳴門橋から渦潮をみた。本四連絡橋はすべて渡る計画になっている。廻ってみて印象的だったのは遍路さんのおおいこと。バスの団体ツアーもあるし、我々のような車組も多い。結構歩き遍路も見かけた。

#### 土佐の国 修行の道場 2009.4

二回目は高知の龍馬空港に降り立ち室戸岬に向かう。室戸の第24番最御崎寺（ほつみさき）に参拝、次に番外の御厨人洞（みくろど 八八カ所の文化財切手に89番目にある）に入る。洞窟の外は空と海が見えるだけ、ここから空海の名が生まれたとか。阿波の国とは違ってホテルは毎回変わる。高知市の郊外に泊まり2日目に高知市内を廻った。途中桂浜による。坂本龍馬の銅像がある。昔と変わらないが、台座の上によく登ったものだと思う。

この日第37番岩本寺に着いたのが午後5時半頃、納経は午前7時から午後5時までとなっている。特別に頼んで納経させてもらった。次の第38番金剛福寺までは車で2時間はかかるし、宿は足摺岬に取ってある。納経ができないと次の日に戻って来なければならない、そうすると半日つぶれ、伊予の国の行程に支障が出る。便宜を図っていただいたことに感謝し、足摺に向かった。6時を過ぎると道は真っ暗になる。椿らしい常緑樹に囲まれた街灯のない道をすすむので心細い。「赤い椿の花」はこの道のできる前の悪路をバスを走らせる若い運転手とバスガイドの物語だ。足摺のホテルは電話しておいたので午後8時過ぎの到着を待っていてくれた。翌日早朝金剛福寺を参拝、すぐ納経所にゆくと「納経は参拝をすませてからするものです」とたしなめられた。団体客も多いと納経所が混雑するので先回りをしたつもりだったが、参拝

のしきたりは守らなければならない。足摺岬の灯台は昔のままだった。遠く太平洋を望み感慨にふける。海のない埼玉県人ならではの思いだ。駐車場近くに中浜万次郎の銅像があったが、龍馬といい平賀源内（志度町）、大久保某（琴平）など四国には巨大な銅像が多いと思った。観自在寺を最後に土佐を後にするが、室戸から足摺まで土佐の海岸は長かった。伊予の国の南の札所を廻って道後温泉に泊まる。松山では「龍馬伝」と「坂の上の雲」の幟旗が林立していた。ドラマにあやかる商法と見た。「坂の上の雲」記念館を見ようとしたがあいにく月曜の休館日だった。翌日伊丹十三記念館をみて松山空港から帰路についた。

#### 伊予の国 菩薩の道場 2009.10

第三回目は広島空港からしまなみ海道を利用して四国にわたった。その途中の生口島で平山郁夫美術館に寄った。シルクロードや仏教伝来などの作品で知られる平山画伯はこの島の出身で主な作品や文化勲章を展示する美術館がある。しまなみ海道を描いた連作が興味をひいた。午後今治に入り第55番～第59番をまわる。宿泊は前回の最後の道後温泉に連泊する。第2日に第51番石手寺から逆に第45番まで廻る。石手寺には不戦の誓いの碑があった。仏教は不殺生を戒律とするが戦時中に軍部に協力した過去もある。戦争放棄の憲法の下、不戦や平和祈念の誓いを刻む札所も少なくない。そのあと砥部焼きの窯元に寄る。湯飲み茶碗などを買ったが、店の2階で墨画展がひらかれていた。88カ所の連作が展示されており迫力のある作品だったので絵はがきを買った。

第3日は第60番横峯寺から第67番まで、第66番雲邊寺は香川・徳島の県境に位置する。ここへはロープウェイで昇る。この日の宿舎は琴平。こんぴらさんのすぐ麓。ここの仲居さんは若い人だったが、客扱いが手慣れており、皆が気に入った。「来年も来る予定なので、是非泊まりたい」「おまちしております」ということで分かれた。第四回の予約の時このホテルに申し込み「是非係を彼女に」と申し込んだら「彼女は退職しました」との返事でがっかりした。しかしこれには後日談がある。第四回目でふれる。最終日は琴平から瀬戸大橋に出て岡山に渡った。倉敷の大原美術館に寄るためだ。あいにくの雨模様。大原美術館でゴーギャンの「か



第 51 番石手寺

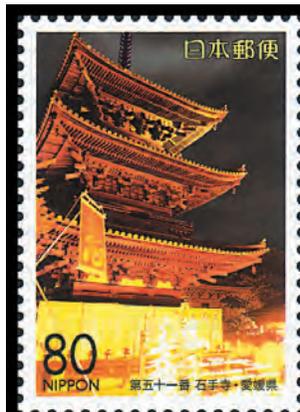
2度お目にかかれたというわけ。その後岡山空港から帰路についた。

讃岐の国 涅槃の道場 2010.3～4

満願をめざす第四回は二回、三回を休んだ妻の元同僚が病気回復で参加し3家族6人になった。6人なら秩父からレンタカーで行こうということで8人乗りを借りた。運転者は2人1,700キロを超える行程になり初日と最終日は移動日になる。4泊5日の行程、宿舎も直接申し



金剛福寺の朱印と墨書



第 66 番雲邊寺

込んだので安上がりになった。朝4時に長瀬を出て関越道から中央高速を目指したが、あいにくの悪天候、長野の諏訪湖周辺はチエーン規制がでていたので東名高速に変更した。岡崎付近で工事規制があり混雑したが夕方4時過ぎには鳴門についた。翌日第68番から順に廻る。第68番と第69番は境内と納経所を共通にしている。さらにその海岸には寛永通宝の銭形がある。寺の裏にある展望台から眺めた。途中で讃岐うどんで昼食をとる。うどんにつゆという基本に天ぷらなり天かすなりを好みでたすというシンプルなものだが結構うまく、値段も安い。この日は第75番善通寺まで、弘法大師誕生の地というだけに境内が広く、道路が通っていた。ホテルに入った後こんぴらさんにもうでる。石段が急だが一気に登るのではないから登れた。このホテル(桜の抄)で昨年の仲居さんの話をしたら「夫が居ますのでよびましょう」ということでご主人のフロントマンが現れた。「寿退社」は想像していたが職場結婚までは思いつかなかった。「気に入ってもらえてありがとうございます。約束を果たして来てくれたことを妻に伝えます。近々出産



第 38 番金剛福寺

のため退職したのです」翌日の出発のさい「妻も感激しておりました。お元気で」ということでわかれた。3日目は第76番金倉寺から第85番八栗寺まで、第81番白峯寺と第82番根香寺は山の頂上にありドライブ

ウエイを上り下りした。次の第83番一宮寺で思いもかけないものに出会った。山門の近くに郵便局の臨時出張所が出ていて「四国88カ所の文化財」を売っていた。発行されて4年もたっており、今までの寺々では見かけなかったものだ。郵便局員が「7200円でセットでないとうまくないのですが」といっていたがすぐ買った。帰りにもお礼をいわれた。出張してもそう売れる訳ではないだろうに、ごくろうさまでした。4日目はまず栗林公園をみる。40数年前修学旅行の引率で来ているが、駐車場が別なので昔の印象とは違ったが、桜や椿の花が盛りを迎えようとしていた。次に志度町の平賀源内記念館を訪ねる。源内は秩父に縁のある人物で秩父の最奥の中津川で金山開発や輸送のための筏事業にもかかわり滞在中の宿舎を自分で建てた「源内居」という旧跡が残っている。志度町の出身で旧宅跡のほかに記念館も最近作られた。ここは是非見たいと思っていたところ、念願を果たした。両施設の前の道路をまっすぐ進んだ先に第86番志度寺がある。この住職は医者でもあり志度寺診療所や老人保健施設も併設しているということは「街道てくてく旅」でも紹介されていた。ただこのときは本堂改築工事が始まっており工事現場そのものだった。

第88番大窪寺で満願になるが、ここへの道は結構遠い。田舎道を途中で間違えたりして横の駐車場に入った。山門から階段を登って本堂に参ると聞いていたがちょっと様子が違う。参拝をすませ納経帳もすべて埋まって全員で記念撮影、一人遍路の青年にシャッターを押してもらった。88カ所を参拝し終えた満足感に浸った。階段を下りてゆくとそこが山門



第88番大窪寺

だった。駐車場の関係で逆のコースになったようだ。それぞれの境内での道筋は、歩き遍路や車遍路、バスツアーでは違ったコースにもなるというものだ。

この後高松道に出て大鳴門橋から有馬温泉をめざす。満願かなって最後は有馬の湯で慰労するという計画だった。翌日朝9時に有馬を発ち中央高速で帰郷する。天気が回復し沿線は桜や新芽が春の息吹を感じさせていた。

### 88カ所巡礼満願後

巡礼にはいろいろなしきたりがあるようだ。納経帳に88カ所を廻りきったら最初にいった寺に「お礼参り」をする、弘法大師に感謝し、高野山にもお礼参りをするとあった。そういえば切手「四国88カ所の文化財」には弘法大師像(90番)があった。また5回以上巡礼をするとお札の色が変わるとか、100回巡礼の記念碑だとかいろんなものに出会った。巡礼の歴史を感じさせられた。奈良は今年開都1300年とされにぎわっているとか。平成の大修理の行われた唐招提寺も見たいので、これらを併せて高野山行きも来年計画しよう。そういえば大学1年の時奈良遷都1250年記念という切手が発行されていた。次なる旅への誘いがある。

最後にこの文の途中に挿入した1963年の写真(☆)は今は亡き旧友岡田弘之君の撮影になるものです。当時はカメラは貴重品だった。早稲田祭の終了日や四国旅行前日など何度か泊めてもらったことがあります。岡田君の冥福を祈りつつ記録させてもらいます



満願を果たして 大窪寺 (右・筆者)

# 爛漫の花に、雪が降り……

平成22年度稲門フィラテリー見学旅行

上田 克己

稲門フィラテリーの見学旅行は、昨年9月、未だ残暑厳しい「京の都」への旅であった。あれから5ヵ月、突如、今年2月に平成22年度見学旅行のお誘いが舞い込んだ。例年秋に実施される行事だったが、今回は4月16日、17日の二日間と、春に行われることになったとの由。暑かったり雨に降られたりと、天候には恵まれることがなかったため、今年から日程を春に変更したのかと勝手に解釈して、取り敢えずは“毎日が日曜日”の身の上、喜んで参加しますとの返事を書いて投函した次第である。諸田幹事からの案内文書によると宿泊は伊香保温泉の老舗旅館「横手館」とあり、久し振りに黄金色の湯が楽しめることと喜んだ。また、埼玉在住時に訪ね損なった「富岡製糸工場」が見学できるのも魅力。前回は京都まで大勢の方々にお出で頂き、転居して丁度一年目である身にとっては嬉しかったこともあり、“関東は遠い”などと云ってはいられない。初日の集合時間が「新宿駅前 午前8時20分」とあることから、大急ぎで前日の宿泊を予約した。

今年の桜の開花予想は当初、例年に比べて相当早くなりそうだったとのことだったが、予報は大きく外れて肌寒い日々が続き片付けようとした冬物を取り出す始末。見学旅行への参加にも、一体何を着て行けばよいのか出発直前まで悩まされたものである。

さて、旅の出発当日は朝から生憎の雨。こ

んな時に限って天気予報ピタリと当たる。結構肌寒く、セーターの上にコートや羽織りマフラーまで着用して丁度良い気温である。細かい雨も降り続いて止む気配もない。それでも午前8時過ぎの集合時間には小西会長以下参加者全員が揃い、幹事の諸田氏を安心させ用意されたバスに乗り込む。今年の参加者は日程が例年の秋から春に変わったせいもあったのか、残念ながら特別参加の方2名を加えても12名と少し少ない。(ただし、新潟から参加の高橋会員は途中、富岡駅で合流)いつも参加されるメンバーの顔が見えないのが寂しい。しかし、逆にバスの中は広々とゆったりとしている。予定通り新宿からスタートして高速道路に乗り一路上州路を目指す。天候は優れないが道路は渋滞もなく快調に進んだ。車中、諸田幹事からスケジュールの説明があり、群馬の銘菓「旅がらす」などの入ったおやつと小林会員より一緒に今日訪ねる「富岡製糸場」の資料が配られる。

関越自動車道を富岡インターで下り、定刻午前10時30分に上信電鉄上州富岡駅到着したが、新潟からの高橋氏は既に一行を待っていた。上信電鉄では活性化を目指して「銀河鉄道999号」を走らせているが、ここ富岡駅には機関車を模ったトイレが併設されており、明取り窓には松本零士氏のイラストのガラスが嵌め込まれ、念の入ったことに屋根の上には本物のパンタグラフまでが乗っている。参考までに、この機関車、専門的には“デキ1形”と称するモノらしい。

全員が揃ったところで早速、第一の目的地に向かう。「富岡製糸場」は明治3年に計画され、明治5年7月に完成したわが国の文明開化の一翼を担った官営工場として活躍したが、明治26年に三井家に払い下げられ、原合名会社を経て昭和13年7月片倉工業へと経営が委譲された後、昭和62年3月に永い操業の歴史を閉じるに至った。製糸場のアーチ型の入口中央には「明治五年」の文字版が掲げられてい



富岡製糸場をバックに参加者集合



製糸工場内を見学

る。現在、ここは国指定史跡となっているが、世界遺産への登録を働きかけているとのこと。敷地面積 15,608 坪 (51,596 m<sup>2</sup>) と広い敷地に長さ 140m の操糸場を中心に、乾燥場、倉庫、寄宿舎や社宅、診療所などがほぼ往時のままに残されている。これらの施設を説明員に引率されてコースに沿って見学する。製糸場の建設はフランス人ポール・ブリューナに委嘱、操業当初は 4 人の女工を含む 10 名程のフランス人に指導を受けた。日本側の女工は良家の優秀な子女が採用されたこともあって、短期間に技術を習得したとのことである。しかし、何故、東京、横浜から遠く離れたこの地にこのような工場が建設されたのかと不思議に思ったが、富岡の周辺は既に江戸時代から養蚕・製糸業が発達していたこと、近くで燃料となる石炭が採れること、さらに用地の確保、既存の用水が利用できたこと等の理由によると聞いて納得した。また、最初に建設された東繭倉庫などは木材の骨組みにレンガの壁を組み込む「木造レンガ造」であるが、そのレンガの組み方は「フランス積み」だそう、明治中期ごろまで多く見られるという。他に「イギリス積み」、「ドイツ積み」などの方式があるそうだ。

広い敷地内に様々な施設が往時のままの状態で見学し、折りしも咲き誇る満開の桜の下で、当時もこの花を目にしながら懸命に新しい技術を習得しようと励んでいたであろう人々に思いを馳せた。

製糸場の見学を終わって次に訪れたのは「富岡郵便局」。明治 5 年 7 月に富岡郵便御用取扱所として開設され、官営富岡製糸場が置かれていたことから取り扱い件数は多かったようで、現存する数多くのエンタエアからもそれが伺える。局窓口で葉書や切手を購入し、いろいろと注文を付けて風景印や日付印を押捺して貰い、

満足して再びバスに乗り込んだところで午前中の行事は滞りなく終了した。

バスが向かったのは昼食を予定している横川の「おぎのやドライブイン」である。国道 18 号線沿いの名物ドライブインで、上信越自動車道の開通でかつての賑わいはないようだが規模は変わっていない。前回立ち寄ったのは、もう 10 年近く以前だったと思うが内部は随分きれいにリニューアルされている。昼食に供されたのは勿論「峠の釜めし」。それに味噌汁や小鉢などがセットされている。この人気の釜飯は高速道路のサービスエリアやデパートの駅弁大会などでお目にかかることがあるが、味わうのは久しぶりだ。かつて列車や車で軽井沢方面に向かう途中、必ず横川駅やこのドライブインで買い求め食したことを思い出しながら美味しく頂いた。

ここに来る途中にも花を満喫したが、昼食を終えて外に出ると向かい側の土手にも満開の桜が並んでいる。幸い雨はほとんど上がっているが、この花を青空の下で眺められたらと、生憎の天候が恨めしい。

横川からは旧国道 18 号を、信越本線横川駅と軽井沢駅の間に設けられた橋梁の一つで通称「めがね橋」と呼ばれるレンガ造りの 4 連アーチ橋「碓氷第三橋梁」を見学すべく西に向かう。「めがね橋」はアプト式鉄道時代に使用されたもので 1893 年から信越本線が電化され新線が完成した 1963 年まで利用され、新幹線の開通で横川—軽井沢間が廃線となり、1993 年「碓氷峠鉄道施設」として他の橋梁や隧道と共に重要文化財となっている。現在は横川駅から「めがね橋」まで



めがね橋とその上を走ったアプト式電気機関車

レールが取り払われハイキングコースになっている。国道から橋梁の上へ登るには、アプローチ階段が整備されている。それでも老人には厳しく息を切らして上ったが、ふと見るとところどころに白いものが目に付き、木の葉に目を凝らすと「アレ！雪だ」と季節外れの現象に驚く。

橋梁やそこからの眺めをカメラに収め、元氣な参加者は橋梁を渡って隧道まで足を伸ばすなどして暫く珍しい景観を楽しんだ。

「めがね橋」を出発したのは午後2時30分頃。それから伊香保に向かった訳だが、稲フィラの旅行はそんなに素直には進まない。途中立ち寄ったのは「松井田郵便局」である。こちらの窓口でも応対された女子局員サンに、あれもこれもとお願いして記念の品々を作成したものである。

かくして漸くバスは一路、本日の最終目的地である伊香保温泉「横手館」へと急いだ。適度な揺れで眠りに誘われ気分良く浅い夢の中をさ

まよっていたが、ふと目覚めると見事な桜並木の中をバスは進んでいた。運転手さんが気を利かせて桜の名所を案内してくれたらしい。ぼんやりしていて桜の美しさは記憶にあるものの、それが何処だったかは全く判らない。そうこうしているうちに、午後4時30分、無事予定通り宿に到着した。

部屋に入ったが表はまだ十分に明るい。折角の機会だからと5、6人で散策に出掛けた。「横手館」は石段が続く伊香保温泉の最上段に近い。少し上に上ると「伊香保神社」に突き当たる。神社にお参りし、伊香保温泉のシンボルでもある石段を上り下りしたが、記憶に残っている石の階段はすっかりきれいになっていた。始めて伊香保温泉に来たのは早稲田の切手研究会で一緒になった諸田氏に率いられて数人で榛名湖へスケートに来たときのことだったと、その折一緒だった小林氏、高橋氏と「あの時は諸田氏に随分世話になったなあ」などと思い出を語り合った。

宿に戻って一風呂浴びて、地元の幸を使った夕食を堪能したあとは恒例のお宝拝見となる。

先ず、坂下氏から今回は「上野国の郵便印」、 「上野国富岡郵便局の歴史」についてのカラーでコピーされた資料が配られて貴重な解説を頂いた。また、西村氏からも「二つ折葉書の上野国郵便印」の説明を受け、貴重なコレクションを拝見させて頂きました。また、小林氏はチアガールの話で盛り上げ、一転、入手された同氏のコレクションから様々なお宝が披露され、高橋氏からは熱中している“トキ”の現況を同氏が撮影された写真とともに聞かせて貰い、美しい“トキ”の写真まで頂戴した。最後の甲斐氏からの話には感動させられた。同氏が飛行機の切手を収集するに至ったのは、ご尊父が終戦直



上野国の高崎局郵便印

坂下会員資料



設楽光弘氏「群馬県に残る初期郵便資料について」より、明治40年頃の富岡郵便局と周辺の町並みの写真と現在の富岡郵便局風景印  
坂下会員資料

前に航空機事故で逝去されたことにあり、遺品の中の絵葉書から当時の新聞記事を調べるなどされ興味深い事実を見出されたことについて熱く語られた。永く熱心に一つのテーマに打ち込んでおられる方々の熱意には、今更ながら感服させられたことである。

充実した第一日目を過ごし、目覚めると驚いたことに外は銀世界である。昨夜、チラホラと白いものが降っていると気が付いてはいたが、まさかこの時期に積雪を見るときは思いもよらなかった。これでは今日の予定である榛名湖散策は諦めざるを得ない。テレビのニュースによると高速道路も閉鎖だという。こうなれば開き直る外ない。

しかし、空は晴れて青空がのぞいている。バスの運転手サンとも相談の結果、兎に角、予定通り出発することとした。榛名湖までは到達できないまでも、途中の展望台まで上ることとなりシャーベット状になった雪道を進んだ。上るにつれて雪は多くなってきたが、眼下に伊香保の町を見下ろし、白く雪をかぶった赤城連峰や遙か彼方に真っ白く輝く谷川岳が眺められる展望台まで何とか到着することが出来た。展望台の積雪はすっぽりと足首まで埋もれるほどであったが、その絶景に見とれ、こんな機会に巡り合えたことを幸運と喜んだ。

バスはここでUターンして再び伊香保の町へ戻り、土産物屋に立ち寄った後、「水沢観音」へお参りに向かう。所々に雪が積もり、青空の下には桜が満開という滅多に見られない景色を堪能しながら両手を合わせた。罰当たりな話であるが、ここは参詣だけではなく、もう一つ目的があった。“稲庭うどん”、“讃岐うどん”と肩を並べる日本三大うどんの一つ「水沢うどん」を昼食に賞味することである。うどん屋が肩を並べているが、われらが幹事・諸田氏に案内されたのは「始祖・清水屋」。看板には“手打ちうどん”とある。一体どのように発音するのか何度か試みたが、よく解らない。要するに“このウドンは只者ではないゾ”と言っているのだろうと理解することにした。

しばらく待たされたが、前座に数種類の佃煮が登場。ついで群馬県名産の“舞茸”の油炒めが供された。真打である“うむどん”が現れるまで、これらをつまみにお酒でもどうぞ、と言うことの様だ。しかし、この前座の品々がなかなかの美味で、特に舞茸は殊更美味しかった。“うむどん”はゴマだれで頂くが、さすがに腰が

あり舌触り、のど越し共に申し分なく、大いに満足させられた。何年か前にカミサンと二人で伊香保を通りかかった際、都合で「水沢うどん」を食べ損なったことがあり、今回の旅のスケジュールを見たカミサンは何を措いても土産に買って来なさいと厳命を下した。美味しかった昼食に喜んで要望を忘れず、みやげに“うむどん”を買い求めホッとした。

昼食のあとは高崎の近くまで南へ下り、群馬県が産んだ歌人・土屋文明を記念して建設された「群馬県立土屋文明記念文学館」を訪問した。土屋文明は徳富蘆花、田山花袋、萩原朔太郎、山村暮鳥などと並び群馬を代表する文学者で、歌人として、万葉の研究者として知られ文化勲章の受章者である。

ここを訪れて、改めてその業績の大きさを教えられたが、記念館前の庭園に文明の歌碑（「青き上に 榛名を永久の幻に 出でて帰らぬ我のみにあらじ」とともに暮鳥の「風景」と題した詩「いちめんのなのはな いちめんのなのはな いちめんのなのはな ……」の記念碑があり、この詩に中学生の頃、強烈な印象を受けたことを思い出させられた。

文明記念館に隣接して前方後円形の古墳が二基復元されており、「かみつけの里博物館」も併設されている。その内の一つ、「八幡塚古墳」に上ったり、内部の石棺を見学した後、博物館に入って古墳や当時の村の復元模型などを興味深く見学した。古墳の上からはほぼ360度の眺めが得られ、赤城、榛名、妙義の上州三山に加えて荒船山までもが眺められた。（余談であるが博物館は65歳以上無料とのことで全員タダ。最近、このような老人への気配りに出会うことが多く、感謝しています。ホント）

かくして2日間に亘った見学旅行は滞りなく終了した。諸田幹事のふるさと“群馬県”は温泉ばかりの地ではないことを改めて認識させられた久し振りにアカデミックな旅でもあり、今年何度目かの花見をさせて貰った旅でもあった。更に更に、思いも寄らなかった雪見まで、それも爛漫の花の上に降り積もった雪を見ることができようとは。天候も含めて幹事に感謝！

バスは高崎駅で新潟に戻る高橋氏を見送り、前橋インターから関越自動車道に乗って出発地の新宿に何事もなく帰り着いた。また、今回特別参加された諸田幹事の友人、大川氏、後藤氏のお二人にはご満足頂けたらうか。

それでは、また来年。今度は何処へ？

# 坪内逍遥晩年の住居・雙柿舎訪問記

池澤 克就

我が校文学部の開設者であり、明治・大正・昭和の三代にわたって、文壇・劇壇の指導者であり続けた坪内逍遥は、晩年を熱海で過ごしました。逍遥晩年の住居「雙柿舎(そうししゃ)」は、今も熱海に残されています。今年の二月、この雙柿舎を訪れる機会がありましたので、この誌面を借りてその際の記録を残しておきたいと想います。雙柿舎は、毎週日曜日に一般公開されており、入場料は無料です。狭い山道を登ったところにあり、駐車場がないので、電車で出かけるか、離れたところに車を止めて徒歩で向かうことをお勧めします。

「雙柿舎」と彫られた扁額が掲げられた門をくぐると、シニアボランティアの方が迎えてくれました。扁額の文字は、会津八一(秋艸道人)の筆です。

明治44(1911)年、52歳の逍遥が最初に熱海に別荘を構えたのはこの場所ではなく、今の市街地の中に位置する荒宿という場所だったそうです。逍遥が住み始めた頃は静かな場所だったのですが、次第に賑やかになってきたため、より閑静な場所を求めて、昭和9年5月に今の場所に移動したということです。

母屋は、逍遥自身が設計しました。一見、平屋に見えますが、二階に書斎があり、創作、揮毫など特別な場合に使用したそうです。平成19(2007)年3月までは早稲田大学の厚生施設



母屋の内部

として学友が宿泊することもできましたが、建物の老朽化が激しくなったため宿泊利用は不可能になりました。その後、耐震改修工事を行い、平成19年11月から一般に公開されているとのことでした。

東館は、昭和9(1934)年に完成しました。夫人の隠居所として使われていたそうです。



東棟

敷地の庭には、逍遥が住む前から、樹齢二百年を越す二本の柿の木があり、これが「雙柿舎」という舎名のもとになりました。ただ、柿の木は、昭和54年の台風で一本が倒れ、もう一本も朽ちてしまったそうです。朽ちたほうの柿は、今では小さな藪のような茂みになっていました。茂みのように見えるのは、もともと柿の木についていた宿木だったそうです。

庭の中に、筆塚と刻まれた石が建っていました。これは昭和12年の逍遥三回忌の際、夫人の提案で立てられたそうです。自然石の筑波石に、会津八一の筆で「筆塚」と刻まれています。その下に、逍遥が使っていた毛筆



母屋の前庭に建つ筆塚

と万年筆が花崗岩の箱に入れて埋められている  
そうです。

母屋の前からは、熱海の市街地が見渡せます。  
今は建物が増えてしまい、視界がさえぎられて  
しまいましたが、以前は熱海の沖合にある初島  
の脇から朝日が昇るのが望めたそうです。

敷地には、お寺のような一風変わった建物  
がありました。これは昭和3(1928)年に建てら  
れた書庫で、和漢洋折衷の斬新な風貌です。塔  
の上には、シェークスピアの句から思いつい



書庫

たという鑄金の翡翠の風見  
が掲げられて  
います。母屋  
や東棟と違っ  
て、この書庫  
は中に入って  
見学すること  
ができました。  
現在は書庫  
ではなく、逍  
遙の生涯を  
紹介するパネ  
ルが展示され  
ていました。

雙柿舎の敷地は起伏に富んでおり、四季折々の  
植物の間に階段や坂道が配され、敷地を一巡  
するとちょっとしたハイキングをした心持にな  
ります。もともと熱海は山がちな地形で、山の  
上と下では気候も変わるようです。雙柿舎は、  
そんな山の斜面の一部を利用して建てられてい  
るので、430坪ある敷地がより広く感じるの  
かもしれません。ボランティアの方の話では、  
熱海では山の上の方はよく雪が積もり路面が滑  
るので、冬季はバスはチェーンを履いていると  
か。ところが、最近暖冬で、雪の量も減ってき  
たそうです。

雙柿舎のすぐ脇にある海蔵寺には逍遙の墓が  
あるというので、参拝してきました。山門をく  
ぐり、本堂右手の坂道をあがったところに、境  
内を見下ろすようにして逍遙の墓が建っていま  
した。自然石を利用した墓石に、「逍遙坪内雄  
蔵夫妻墓」と刻まれていました。坪内雄蔵は逍



逍遙の墓

遙の本名です。今まで、改めて訪れる機会  
のなかった熱海ですが、他にも太宰ゆかりの旅館  
「起雲閣」が一般公開されていたり、海岸近く  
には尾崎紅葉の小説「金色夜叉」にちなむ二代  
目のお宮の松が立つなど、見所はいろいろあり  
ました。温泉にでもつかってちょっとした文学  
散歩を楽しむには良い場所であることを、改め  
て感じました。

なお、最近入手した「坪内逍遙博士記念絵は  
がき」に、雙柿舎を撮影したものが二枚含まれ  
ていましたので、参考までに紹介しておきます。  
「坪内逍遙博士記念絵はがき」より



熱海雙柿舎逍遙書庫前の坪内博士夫妻

熱海雙柿舎逍遙書庫前坪内博士夫妻



熱海雙柿舎全景(左方は書庫・中央は老雙柿樹・右方は母屋)

熱海雙柿舎全景  
(左方は書庫・中央は老雙柿樹・右方は母屋)

## 切手教室

- 第68回 2月6日  
郵便に関する絵ハガキ 西村寿一郎氏
- 第71回 3月6日  
切手にトリミングされた文化財 小川義博氏
- 第72回 4月3日  
手彫期の外国郵便料金について 坂下 泰一氏
- 第73回 6月5日  
横浜にあったフランスの郵便局と外国人居留地  
小林 彰氏

## 稲門フィラテリー常設展

6月からは、6月21日に34回目の開局記念日を迎える新宿北郵便局の歴史と現状に関する展示を行います。

- 第8回 平成21年11月7日～22年2月  
「なつかしの年賀切手 75年」
- 第9回 平成22年2月10日～4月  
「エンターティナーズ」
- 第10回 平成22年4月3日～6月8日  
「最近発行の国際交流切手」
- 第11回 平成22年6月9日～9月上旬  
「新宿北郵便局物語」



第9階展示風景

## 有馬の切手文化博物館が開館5周年

稲門フィラテリー顧問の金井宏之氏が館長を勤める有馬の切手文化博物館が開館5周年を迎えました。博物館をデザインした小型印が5月14日から5月31日まで神戸市北区の有馬局にて使用されましたので印影を紹介しておきます。



## 「都の西北～郵便から見た早稲田大学史～」

### 開催概要

早稲田大学校友会設立125周年・稲門フィラテリー設立10周年記念として開催される「都の西北～郵便から見た早稲田大学史～」展について、概要が決定しました

約17坪の展示スペースを使い、早稲田ゆかりの人物の書簡や原稿、絵はがきのコレクション、まんが絵はがきのコレクションを中心に、切手研究会の歴史と稲門フィラテリー10年のあゆみをたどる資料の展示を予定しています。

会期初日はホームカミングデーであり、稲門フィラテリーの総会開催日となりますので、多数のご来場をお待ちしております。

開催期間：平成22年10月17日～11月7日

場所：早稲田ギャラリー

主催：稲門フィラテリー

協力：早稲田大学校友会

協力：早稲田大学大学史資料センター

次号にて展示内容や開催時間など詳細をお知らせします。

### 編集後記

先日、上海に出張しました。仕事ゆえ、万博を見る余裕はありませんでしたが、街全体が以前よりも綺麗になった印象です。日常生活とは離れた空間に身をおくと、いろいろな発見があるものです。

さて、今月号は、少し趣向の異なる三つの旅行記にてまとめてみました。4回に分けて四国88カ所を制覇した記録から、恒例の稲門フィラテリー見学旅行、そして坪内逍遙ゆかりの地を訪ねる文学散歩まで、旅の気分を味わっていただければと思います

発行日：2010年6月1日

発行：稲門フィラテリー

発行人：小西 邦彦

〒150-0002

渋谷区渋谷1-11-3 正栄ビル4F

(株)英国海外郵趣代理部内

稲門フィラテリー事務局

編集担当：吉沢 忠一 五十野 和男

小川 義博 池澤 克就

# 稲門フィラテリー

第37号

2010年9月1日発行

10周年記念号



## 10年ひと昔

会長

小西 邦彦

大杉先生のアイデアで発足した「稲門フィラテリー」が10周年を迎えた。毎月の切手教室、年4回の会報、恒例の研修旅行-----いずれも充実した内容で、力を貸してくださった諸兄姉に深く感謝したい。

かつて我々はこの指とまれのかけ声がかかると喜んで群れたものだった。早稲田界限からマージャン屋が消えた如く、今、ひとは孤立し、自分の世界に閉じこもる傾向にある。電車で前の席全員がケイタイに夢中といった景色が日常的になっている。昔、切手を集めていたというゆるい動機で充実した活動を続けている組織はえらいもんだと思う。しかし、何事もフレッシュなパワーが加わらないと老人力が増すばかりだ。ぜひ、いくらかでも若い方々が別のアイデアや違った観点で会を盛り上げ、次のひと昔につないで頂きたい。そして、先輩といわれるヤカラはもっぱら自分たちと異なる意見に耳を傾け、その違いを楽しむといった境地に達して頂きたいと願っている。

# 稲門フィラテリー 10 年間

## 会報「稲門フィラテリー」の 10 年間



### 1号 (2001.4.1)

ふるさと切手『早稲田大学大隈講堂』10月19日発行！

稲門フィラテリー事務局 1			
「大隈講堂切手発行記念展」企画		1	
「早稲田大学野球部 100周年記念展」		1	
稲門フィラテリーの発足を祝う 会長	花本 金吾	2	
稲門フィラテリー発会	湯川 宗昭	3	
稲門フィラテリー設立の経緯	青木 常男	4	
早大切手研究会の現状	磯野 昭彦	4	
はじめはスケート切手	井上 城	5	
とつくに会	西村 寿一郎	5	
たかが地図切手、されど地図切手	高木 実	6	
30年前 40年前の思い出	岡田 要	6	
「大隈講堂」が東京のふるさと切手になるまで	磯野 昭彦	7	

### 2号

内田武吉先生を悼む	花本 金吾	9	
内田武吉氏を偲ぶ	立花 卓	10	
内田先生と私	黒川 清知	10	
内田先生ごめんなさい	小熊 忠三郎	11	
内田先生の会長時代を偲ぶ	大西 章夫	12	
「大隈重信侯切手」請願書を再々提出	古賀 幸治	13	
「大隈講堂切手発行記念展」開催決定	磯野 昭彦	13	
大隈講堂切手発行と関連企画 「		14	
PHILANIPPON' 01 見学会ご案内		15	
大隈祭を見る	甲斐 正三	16	

### 3号

大隈講堂の切手発行される			
一ふるさと切手東京版として 10月19日に一		19	
PHILANIPPON' 01 雑感	金井 宏之	20	
フィラニッポン' 01 見学記	小林 彰	21	
PHILA ニッポンの熱い日	吉沢 忠一	22	
フィラニッポン' 01 稲門フィラテリー会員出品成績		23	
管理番号抜けの P- スタンプ		24	

### 4号 (2002.4.1)

第2回総会を終えて	小熊 忠三郎	27	
「早稲田大学野球部百周年記念行事」	磯野 昭彦	30	
くアフガン紀行記 (1) >	渡辺 洋	32	
『お札と切手の博物館』見学会		34	
「大隈講堂切手」発行記念展リスト		35	

### 5号

切手収集をおもしろくしよう！	大谷 博	37	
2002.6.14 ベッカム狂騒曲	高橋 仁	39	
くアフガン紀行記 (2)>	渡辺 洋	40	
アンケート結果のまとめ	諸田 志郎、青柳 次男	42	
分科会活動報告 (切手教室)	小林 彰、磯野 昭彦	44	

### 6号

第3回総会開催される 47			
私のウェスタン・オーストラリア切手	根岸 昭二	48	
バイバイ後の独り言	吉沢 忠一	51	

古代エジプト切手の魅力  
<アフガン紀行記 (3)>

池澤 克就 54  
渡辺 洋 56

### 7号 (2003.3.1)

切手戦線異常あり	小西 邦彦	59
郵趣で遊ぶ	黒川 清知	62
杉原千畝・追悼・サクラ公園	渡辺 勝正	64
切手収集の基本はトピカル	湯川 宗昭	68
「前島記念館」と「史跡相馬御風宅」	高橋 仁	69

8号		
方寸一途	金井 宏之	71
切手研究会創立 10周年記念展カバー	宮鍋 益治	75
分科会活動報告 (切手教室)		75
外国切手の集め方	山崎 哲夫	76
長方形の魅力 野島 正頭		78
ラデイゲとモーリシャス POSTOFFICE 切手	小林 彰	80

### 9号

前島密と相馬御風 稲門フィラテリー「前島記念館」見学会	上田 克己	83
分科会活動報告 (切手教室)	小林 彰	87
自分だけの世界	高馬 邦夫	88
続・戸塚スタンプ物語	中川 孝昭	90
郵便局巡り	木元 淳一郎	92

### 10号

稲門フィラテリー第4回総会報告		95
これからの英語教育と辞書の役割	花本 金吾	96
野球とともに「切手の虫」健在	市川 鴻之祐	98
ギリシャ神話の切手	青木 幹多	100
鳥切手とバードウォッチング (探鳥)	諸田 志郎	102
サザエさん家系図	磯野 昭彦	104

### 11号 (2004.3.1)

お年玉付郵便はがき	西村 寿一郎	107
年賀状・年賀はがき【概略】	西村 寿一郎	109
海辺の生活と切手	青木 常男	110
フィラテリーの原点と絵葉書	鎌倉 達敏	111
早稲田が建立した杉原記念碑	渡辺 勝正	114
主要国郵便 & 切手情報	小西 邦彦	116

### 12号

「本庄早稲田駅開業記念カバー頼末記」	長谷部 晃	119
横浜洋菓子事始め (日本経済新聞掲載)	小林 彰	121
KENYA UGANDA TANGANYIKA (ケニア・タンザニアの旅)		
	杉山 光雄	122
切手のおかげ	小川 義博	126
漁業、大空襲、そしてカーナビ (その1)	府川 宏昭	128
かわうす祭り	磯野 昭彦	131

13号			22号		
『杉原千畝記念館』を訪ねて	第2回稲門フィラ見学旅行会		第7回稲門フィラテリー総会報告	青柳 次男	239
	上田 克己	135	私感・モーツァルトその人	黒川 清知	240
地下鉄の切手	明城 興一	138	わたしのモーツァルトさま	吉沢 忠一	247
ケアの切手とカンボジア	甲斐 正三	140	教科書の話	額賀 健	249
KENYA UGANDA TANGANYIKA II (ケニヤ・タンザニアの旅)	杉山 光雄	142	高窓のある家	長谷部 晃	251
漁業、大空襲、そしてカーナビ (その2)	府川 宏昭	144	白虎隊と板東収容所切手	井上 武志	255
			思い出の走馬灯	須藤 淳八	257
14号			23号 (2007.3.1)		
第5回稲門フィラテリー総会報告		147	映画特集号に寄せて	小林 彰	260
早稲田と郵便 (明治編)	稲葉 良一	148	ハリウッド映画再開 60周年記念切手展を終えて	甲斐 正三	261
KENYA UGANDA TANGANYIKA3 III (ケニヤ・タンザニアの旅)	杉山 光雄	151	無線通信の面白さと驚き、映画「空と海の間に」	府川 宏昭	267
写真付切手	五十野 和男	154	映画「早稲田大学」	黒川 清知	269
漁業、大空襲、そしてカーナビ (その3)	府川 宏昭	156			
15号 (2005.3.1)			24号		
スワンリバースタンプショー	根岸 昭二	159	目で考える切手の発行	小川 義博	272
切手と共に50年	坂下 泰一	162	私とオーストリア切手	藤田 弘道	279
何故かよいかい譚	池山 眞彦	164	振り込め詐欺の話	野島 正顕	281
16号			「切手教室」50回を振り返って	宮鍋 益治	283
切手文化博物館一開館記念式典の風景一	吉沢 忠一	167	本誌発行までの切手教室内容	編集担当	284
Pacific Explorer 2005 World Stamp Expo	小西 邦彦	169	25号		
電気通信・テレフィラテリーの世界	小熊 忠三郎	170	早稲田大学創立125周年記念 稲門フィラテリーの企画、稲門		
アイスランドについて	岸 浩一	172	フィラテリー会員への記念官葉、記念カバーの頒布について		288
漁業、大空襲、そしてカーナビと切手<その4>	府川 宏昭	174	都の西北 ~早稲田大学125年のあゆみ~	池澤 克就	289
17号			ウラジオストクからハバロフスクまで	シベリア鉄道の旅	297
切手文化博物館開館に当たって	金井 宏之	179		西村 寿一郎	297
受賞に寄せて	林 輝子	180	国際切手展 Washington 2006 への出品と参観メモ		
切手研最初の最後のエラー?!	磯野 昭彦	181	早稲田大学 創立125周年記念フレーム切手発行	和田 文明	300
文化大革命当時中国にて切手収集等の変った体験	渡辺 浩章	182			302
マダガスカル郵趣家協会	小林 彰	184	26号		
電気通信・テレフィラテリーの世界<その2>	小熊 忠三郎	188	早稲田大学創立125周年記念事業に稲門フィラテリーが大きな		
18号			役割果たす	磯野 昭彦	304
第6回稲門フィラテリー総会報告		191	総会報告+雑感少々	青柳 次男	307
稲門フィラ研修旅行「切手文化博物館」	杉山 光雄	192	『雨が降る、降る…』三浦半島周遊 稲門フィラ見学旅行記	上田 克己	309
老眼をパソコンでたのしむ	小川 義博	194	六十余年 切手を集めた人生は一鉄鋼マンの軌跡	田中 駿一	311
六千人の命のビザ」 「スタンプマガジン」12月号紹介		200	S C O U T運動100年に寄せて	五十野 和男	315
井上武志氏 古い絵葉書を宮城学院に寄贈		201	趣味の王様	中川 孝昭	321
三井記念美術館展「美の伝統三井家伝世の名宝」		202	外国の国名や都市名の漢字表記	小林 彰	324
19号 (2006.3.1)			リアアモーターカー時速503Km 体験記	小川 義博	325
水杉物語	橋浦 愛武	204	27号 (2008.3.1)		
中島健蔵先生と大谷博君の受賞	渡辺 勝正	208	日本の野球 昔と今一 郵趣でふり返る	市川 鴻之祐	328
ギリシア郵便局めぐり	池澤 克就	210	人との出会いと切手人生	慶應大学 OB 正田 幸弘	335
20号			朱鷺 ~再び大空へ~	高橋 仁	337
會津八一の故郷へ 稲門フィラ見学旅行	上田 克己	215	『雨が降る、降る…』そのII三浦半島周遊 稲門フィラ見学旅行記	上田 克己	339
切手雑感	古怒田 共子	219	渡辺勝正氏 ミュージカルを監修		
世界の切手発行をふりかえる	小川 義博	220	日本のシンドラー杉原千畝物語	S E M P O	343
切手屋アルバイト記	小林 信博	224	切手偏見 1 シートを裏面から偏見		344
マダガスカル郵趣家協会創立20周年記念切手	小林 彰	225	早稲田大学 大学125年記念写真記録集作製		345
21号			懐かしきキャンパス2		346
切手と登山	和波 久基	227	28号		
「愛・地球博」追っかけ3年	市川 鴻之祐	232	『南蛮のみち』バックパッカー二人旅	鳥谷越 明子	348
動転	馬場 恒浩	234	なににもようせい傳	池山 眞彦	355
ローランド・ヒルの追悼記事	小西 邦彦	236	切手偏見 2 ふるさと切手を偏見		363

29号		
手彫切手の楽しみ NO.1	坂下 泰一	368
『南蛮のみち』 バックパッカー二人旅 2	鳥谷越 明子	371
ニューヨーク旅行記 ーワルド・トレードセンターの思い出ー		
	三村 正光	379
切手に厠の香を聞く(1)	小川 義博	383
切手偏見 3 慶応大学150年切手から切手を偏見		387
東京中央郵便局建て替え、稲門フィラテリー常設切手展		390
30号		
震災切手でカムバック ー学生時代の思いを30年後の全日展でー		
	鎌倉 達敏	394
稲門フィラテリー第9回総会報告	青柳 次男	403
懐かしきキャンパス3		404
閑話	小林 英昭	405
湖国、滋賀の旅日記	府川 宏昭	407
切手偏見 4 切手の美の壺 カットの美		414
31号(2009.3.1)		
横浜洋菓子事始	小林 彰	418
手彫切手の楽しみ NO2 創業期の郵便料金の変遷		
	坂下 泰一	427
「野球早慶戦とラグビー早慶戦」比較	磯野 昭彦	432
丑年に因んで	渡辺 勝正	435
切手偏見 5 連刷切手偏見でみると		437
32号		
何もようせい傳 ふたたび	池山 真彦	442
二人の収集家	木辺 円慈(本磨)	451
慶應義塾郵便切手研究会、慶應義塾郵研三田クラブ150周年記念号を発行		454
手彫切手の楽しみ NO3 房黄2銭(版別法と楽しみ方)		
	坂下 泰一	455
クイーン・メリー2 横浜来港	野島 正顕	459
切手に厠の香を聞く(2)	小川 義博	461
切手偏見 切手の原画とカットを偏見		468
大隈講堂切手 原画作者 藪野 健氏芸術院賞受賞		472
33号		
切手偏見 7 日本切手データベース完成		474
切手の個展あれこれ	長谷部 晃	479
手彫切手の楽しみ NO4 製造面を中心に 破損とレタッチ等		
	坂下 泰一	483
"Ameri Stamp Expo 2009"	和田 文明	488
世界遺産とカジノ	西村 寿一郎	493
34号		
総会報告	青柳 次男	498
京の都への旅	上田 克己	500
卓球を描いた新中国切手	渡辺 浩章	505
日本切手2009年の発行状況		508
手彫切手の楽しみ NO5 手彫り切手に観る二重丸型日付印		
	坂下 泰一	509
江戸を偲ぶ舟遊び	池山 真彦 小川 義博	513
切手偏見 8 文化財・スポーツ切手を偏見		516
35号(2010.3.1)		
ゴルフ切手(蒐集事始め)	杉山 光雄	522
手彫切手の楽しみ NO6 長崎の初期郵便印:不統一印とN1B1印	坂下 泰一	527
三宅島の記	池山 真彦	531
お年玉くじ付年賀はがき等のあたり目について		
	佐藤 隆之	525
切手偏見 9 切手発行日を偏見		527

36号		
四国88ヶ所巡礼記 2008-2010	長谷部 晃	539
爛漫の花に、雪が降り 平成22年度稲門フィラテリー		
	見学旅行記 上田 克己	544
坪内逍遙晩年の住居・雙柿舎訪問記	池澤 克就	548
37号		
稲門フィラテリー10周年		551
10のあゆみ 会報、切手教室、見学旅行、常設展示、講演会		
「二番じゃダメですか?」巡業先の夜	青柳 次男	557
手彫切手の楽しみ NO.8 幕末ー明治初期の日本の外国郵便		
	坂下 泰一	564
宗教家の切手	木辺 円慈	569
邪馬台国夢想	野島 正顕	572
切手偏見10 切手描かれた場所と文化財の所蔵先		575
落語に切手を想う	小川 義博	580
切手教室の10年間		
2002.4.14 第1回		
切手の保存と整理	宮鍋 益治氏	
私流切手の楽しみ方	甲斐 正三氏	
2002.6.1 第2回		
切手収集の仕方	宮鍋 益治氏	
郵便業務の自動化	磯野 昭彦氏	
2002.7.6 第3回		
普通切手の楽しみ(日本)	宮鍋 益治氏	
アフガン紀行	渡辺 洋氏	
2002.8.3 第4回		
切手整理(リーフ作り)の実践	甲斐 正三氏	
2002.9.7 第5回		
英国王室と切手	小西 邦彦氏	
古代エジプト切手の世界	池澤 克就氏	
2002.10.5 第6回		
西オーストラリア	根岸 昭二氏	
郵便と電子通信	小熊 忠三郎氏	
2002.11.2 第7回		
国際切手展出品	西村 寿一郎氏	
占領軍による検閲郵便	宮鍋 益治氏	
2002.12.7 第8回		
トピカル収集の楽しみ		
スポーツ切手を中心として	湯川 宗昭氏	
ルーマニア初期の不思議な切手	渡辺 勝正氏	
2003.2.1 第9回		
前島密と早稲田大学	渡辺 洋氏	
前島密と切手	宮鍋 益治氏	
外国切手の集め方	山崎 哲夫氏	
2003.4.5 第10回		
切手を楽しく集めよう	宮鍋 益治氏	
2003.6.7 第11回		
郵便物集配自動化機械の現状について		
	磯野 昭彦氏	
	小林 彰氏	
カナダ・アドミラル・イッシュ		
2003.7.5 第12回		
普通切手(日本)の楽しみ	宮鍋 益治氏	
外国普通切手の楽しみ方	甲斐 正三氏	
2003.8.3 第13回		
切手収集の楽しみ	宮鍋 益治氏	
アニメ切手	磯野 昭彦氏	
2003.9.6 第14回		
昭和切手の楽しみ	宮鍋 益治氏	

砂糖の話	野島 正顕氏	日本切手を集めるときに	宮鍋 益治氏
2003.10.4 第15回		2005.10.1 第35回	
パソコンで楽しむ切手収集	池澤 克就氏	アフリカの自然と切手	渡辺 洋氏
漁業、大空襲、そしてカーナビと切手(前編)	府川 宏昭氏	外国の郵便料金の推移	甲斐 正三氏
		2005.11.5 第36回	
2003.11.1 第16回		手彫切手の楽しみ	坂下 泰一氏
切手と印刷よもや話	吉沢 忠一氏	世界の切手発行をふりかえる	小川 義博氏
切手のデザイン	小西 邦彦氏	2005.12.3 第37回	
2003.12.6 第17回		昭和切手各シリーズの特徴	宮鍋 益治氏
漁業、大空襲、そしてカーナビと切手(後編)	府川 宏昭氏	年賀切手	日比 茂春氏 (足立北郵趣会)
		2006.2.4 第38回	
年賀・年賀状解説	西村 寿一郎氏	初心者のオーストリア切手	使用済み切手を中心に 藤田 弘道氏
2004.2.7 第18回		飛ぶもの郵趣	飯野 明氏 (葛飾郵趣会)
切手図案のいろいろ	小西 邦彦氏		
フランス横浜郵便局	小林 彰氏	2006.3.4 第39回	
2004.3.8 第19回		手彫り二つ折り葉書	西村 寿一郎氏
切手も切れぬえにし	黒川 清知氏	2006.4.1 第40回	
切手収集の楽しみ	宮鍋 益治氏	手彫切手 消印の楽しみ	坂下 泰一氏
2004.4.3 第20回		通信教育郵便の変遷	宮鍋 益治氏
郵便物自動読取区分機の解説と見学会	磯野 昭彦氏	2006.6.3 第41回	
		映画と切手	甲斐 正三氏
2004.6.5 第21回		文化人切手	池澤 克就氏
私の中の切手	中川 孝昭氏	2006.7.1 第42回	
切手の楽しさ三題	甲斐 正三氏	海外旅行と郵趣(アテネ)	池澤 克就氏
2004.7.3 第22回		2006.8.5 第43回	
切手を楽しく集めるには	宮鍋 益治氏	ローランド・ヒルの追悼記事	小西 邦彦氏
切手のウンチク	小川 義博氏	目で考える切手の発行	小川 義博氏
2004.8.7 第23回		2006.9.2 第44回	
切手のアルバム の作り方	宮鍋 益治氏	マダガスカル の郵便事情	小林 彰氏
消印	大西 章夫氏	2006.10.7 第45回	
2004.9.4 第24回		手彫り切手の楽しみ	製造面から 坂下 泰一氏
ケアと切手	甲斐 正三氏	2006.11.4 第46回	
郵便で知る横浜洋菓子事始	小林 彰氏	切手貼り絵教室 年賀状を作る	奥山 初代氏 (葛飾郵趣会)
2004.10.2 第25回		2006.12.2 第47回	
モンゴルと切手	西村 寿一郎氏	切手のモーツアルト	黒川 清知氏
奈良の国宝切手	諸田 志郎氏	2007.2.4 第48回	
2004.11.6 第26回		タイの切手	甲斐 正三氏
世界の切手印刷事情	小西 邦彦氏	2007.3.3 第49回	
郵便料金の変遷と切手	宮鍋 益治氏	郵趣文献	小林 彰氏
2004.12.4 第27回		2007.4.7 第50回	
写真付切手	五十野 和夫氏	手彫切手の楽しみ	手彫切手カタログ 改定版発行をふまえて 坂下 泰一氏
新・切手を整理する道具	甲斐 正三氏	2007.6.2 第51回	
2005.2.5 第28回		切手に聞く 厠の香り	小川 義博氏
老眼で切手を楽しむ	小川 義博氏	2007.7.7 第52回	
PCで楽しむ切手収集	池澤 克就氏	早稲田大学創立125周年	池澤 克就氏
2005.3.5 第29回		この間、会場の都合で中断	
外国向け郵便料金の変遷	宮鍋 益治氏	2008.6.7 第53回	
2005.4.2 第30回		外国切手の中の日本	甲斐 正三氏
新 中国観光事情	渡辺 洋氏	2008.7.5 第54回	
私製マウントの作り方	原口 辰夫氏 (葛飾郵趣会)	手彫切手の楽しみ	坂下 泰一氏
2005.6.4 第31回		2008.8.2 第55回	
ボーイスカウトジャンボリー切手	五十野 和夫氏	楽しい切手集め	宮鍋 益治氏
2005.7.2 第32回		2008.9.6 第56回	
国立公園と国立公園切手	岡田 格朗氏 (松戸郵趣会)	切手と飛行機	金成 嘉一氏 (葛飾郵趣会)
		2008.10.4 第57回	
電気通信と切手	小熊 忠三郎氏	郵便物自動読取区分機見学会	磯野 昭彦氏
2005.8.6 第33回		2008.11.1 第58回	
旅と郵趣	甲斐 正三氏	英語であつめナイト	小西 邦彦氏
切手貼り絵うちわ教室	奥山 初代氏 (葛飾郵趣会)		
2005.9.3 第34回			
文化大革命初期に中国で切手収集を始め 変った体験をした話	渡辺 浩章氏		

- 2009.2.7 第 59 回  
切手を PC に集めよう 小川 義博氏
- 2009.3.7 第 60 回  
アメリカの郵趣雑誌から 小熊 忠三郎氏
- 2009.4.4 第 61 回  
日本の城と切手 甲斐 正三氏
- 2009.6.6 第 62 回  
切手展作品鑑賞の壺 長野 行洋氏  
(葛飾郵趣会)
- 2009.7.4 第 63 回  
手彫切手の楽しみ 創業期の郵便料金の変遷について  
坂下 泰一氏
- 2009.8.1 第 64 回  
郵便料金の変遷と切手 宮鍋 益治氏
- 2009.9.5 第 65 回  
韓国の有形・無形文化財 孫 敬子氏  
(葛飾郵趣会)
- 2009.10.3 第 66 回  
ちょっと変わった外国のカバー 甲斐 正三氏
- 2009.11.7 第 67 回  
切手に描かれた建物 占野 靖長氏
- 2010.2.6 第 68 回  
郵便に関する絵はがき 西村 寿一郎氏
- 2010.3.6 第 69 回  
切手にトリミングされた文化財 小川 義博氏
- 2010.4.3 第 70 回  
手彫切手の楽しみ 坂下 泰一氏
- 2010.6.5 第 71 回  
横浜にあったフランス郵便局と外国人居留地 (1)  
小林 彰氏
- 2010.7.3 第 72 回  
横浜にあったフランス郵便局と外国人居留地 (2)  
小林 彰氏
- 2010.8.7 第 73 回  
新宿北郵便局物語 磯野 昭彦氏

## 見学旅行

- 2003.5.31 ~ 6.1  
新潟県上越市 前島記念館 見学会
- 2004.5.29 ~ 30  
岐阜県八百津町 杉原千畝記念館
- 2005.9.11 ~ 12  
兵庫県有馬温泉 切手博物館
- 2006.3.11 ~ 12  
新潟県新潟市 會津八一記念館
- 2007.9.30 ~ 10.1  
神奈川県三浦市 前島密墓参、横須賀
- 2008.9.26 ~ 27  
滋賀県大津市 琵琶湖周遊
- 2009.9.27 ~ 28  
京都府 宇治市、京都市

## 総会時の講演

- 第 3 回 2002.10.20 方寸一途 金井 宏之氏
- 第 4 回 2003.10.19 これからの英語教育と辞書の役割  
花本 金吾氏

- 第 5 回 2004.10.24 西オーストラリアのスワンリバー  
スタンプショーに参加して 根岸 昭二氏
- 第 6 回 2005.10.23 切手研究と杉原研究 渡辺 勝正氏
- 第 7 回 2006.10.22, 早大入試にみる英語問題の変遷  
花本 金吾氏
- 第 8 回 2007.10.20 切手教室で 20 年 宮鍋 益治氏
- 第 9 回 2008.10.26 震災切手の楽しみ 鎌倉 達敏氏
- 第 10 回 2009.10.18 早大切手研究会と私の切手人生  
稲葉 良一氏

## 稲門フィラ常設展のあゆみ

会場 新宿北郵便局

- 2008.6.7 ~ 8.12  
第 1 回 日本・カナダ同時発行赤毛のアン切手
- 2008.8.13 ~ 10.31  
第 2 回 洞爺湖サミット記念 切手展
- 2008.11.1 ~ 2009.2.6  
第 3 回 クリスマス切手と日本年賀切手
- 2009.2.7 ~ 4.7  
第 4 回 切手で辿るアメリカの大統領とその歴史
- 2009.4.8 ~ 6.9 予定  
第 5 回 切手趣味週間はじまる
- 2009.6.10 ~ 7.31  
第 6 回 日本開港 150 年と緑の季節
- 2009.8.1 ~ 9.30  
第 7 回 南極・北極の極地保護切手  
米国終戦記念の切手
- 2009.10.1 ~ 2010.2.9  
第 8 回 なつかしの年賀切手 75 年
- 2010.2.10 ~ 4.3  
第 9 回 エンターティナーズ
- 2010.4.3 ~ 6.8  
第 10 回 最近発行の国際交流切手
- 2010.6.9 ~ 9.5  
第 11 回 新宿北郵便局物語

## その他の特記事項及び活動

- 2000.11.18  
稲門フィラテリー発会式 大学校友会館
- 2001.10.1 ~ 21  
「大隈講堂切手」発行記念切手展  
「世界の大学切手」 大学資料センター
- 2003.9.  
関東郵趣連盟に加盟
- 2001.11.  
早稲田大学大学野球部創部 100 周年記念行事に協力  
記念カバー、官葉制作、写真展資料提供
- 2004.3.13  
上越新幹線「本庄早稲田駅」開業記念カバー作成
- 2004.4.1  
早稲田大学 1 2 5 記念募金に寄附
- 2007.10.21 ~ 22  
早稲田大学創立 125 周年記念事業に協力  
記念カバー、官葉制作 構内で販売  
記念展「著名まんが家絵はがき展」  
新宿北郵便局ロビー

# 「二番じゃダメですか？」 巡業先の夜

青柳 次男

「歩くと30分くらいかかりますよ。」  
ビールのつまみでも買いに行こうと、コンビニへの道を尋ねた私に、フロントの女の子は、呆れたような顔を向ける。外は漆黒の闇。時折、車のヘッドライトが、その闇を裂いて遠ざかる。サーチライトってこんなものかもしれない。見たことは無いけれど。

とっくに定年を過ぎた年齢だというのに、まだ、巡業と称して国内行脚を続けている。だいたい1回につき、2日から5日間の日程。永いことヒコーキ会社の世話になっていたにも関わらず、交通手段は常に鉄道。東京・札幌10時間、東京・熊本6時間52分。この時間は、仕事の準備そして後処理に最適。それにしても、巡業先の夜は長い。訪問する会社の殆どは、人里はなれた商工業団地。宿泊するホテルもその団地の中。1日の仕事が終り、18時には、もうホテル。歓楽街への好奇心や探究心は、まだまだ十分に残ってはいるものの、肝心の「場所」が無い。

「お客様、どうされますウ？」

気だるそうに、女の子が私の顔を覗く。

「真暗だね。」

「ハイ・・・・・・・・」

「やめとくワ」

部屋に戻る。窓外に広がる闇の中から、風に乗って太鼓の音が、時に近く、時に遠く響いて来る。「お祭りが近いから、練習しているようです」フロントの女の子が言っていた。退屈しのぎにパソコンのキーを叩く。総理大臣が、ミゾユウと云ったとか云わないとか、ニュース画面が目に入る。この国は、政治までが芸能ニュース的扱いになってしまったようだ。嘆かわしいがどうしようもない。ふと、画面の隅の文字が目に残る。「オークション」。チョット覗いてみるか、夜は長いし。

この時、私にとっての「未曾有」の夜が始まった。

<二番じゃダメ・憧れの48文>

パソコン、本、食料品、衣類、子供用品など、何でもある。不動産や役務まであるのにはビックリするばかり。古い家を建て直したすぐ後だったこともあり、不動産にアクセスしてみる。日本全国の一戸建、マンション、土地が表示される。自宅近辺を検索すると、比較的至近距離にある物件が、5,000万円を出ている。まだ、入札件数ゼロだ。売れるのかな。こうした高額で手の届きそうもない物は、早々に諦め、多少とも可能性のある物はないかと物色しているうちに、「アンティーク・切手・官製はがき」という項目に出くわす。そうだ、私も切手を集めていたんだ（いるんだ?）。どんな切手が出品されているのだろうか。早速、「日本・普通切手」のコーナーに飛び込む。菊切手、慶弔切手、航空切手、産業図案切手、手彫切手、小判切手などのカテゴリーがある。躊躇わず、手彫切手のカテゴリーへ。切手を集め始めた時からの憧れ、切手商の広告や切手の雑誌に必ず登場する高嶺の花、日本最初の龍切手48文。画面に表示される小さな画像を、上から1枚、1枚、確認。龍切手、桜切手のオンパレード。手彫だからあたりまえか。40数年前、ある切手商からアルバム一杯の手彫切手（偽物）を見せて貰って以来のご対面。あった。龍切手48文第1版、初期値15,000円。更にページを進めると、全部で4～5枚出品されている。価格は、8,000円～48,000円。オークションの初期値だから、競り合いによって最終的にどの程度の価格になるかわからない。しかし、もう、高嶺の花ではない。夜の宴会を何回か我慢すれば何とかなる額だ。手に入れるチャンスがあるかもしれない。そうすれば、永いこと忘れていた少年時代の



60年来の憧れ。でも2級品

夢を、60年近い年月を経て初めて実現できる。よし、思い立ったが吉日、挑戦！ 意気込んでみたものの、入札方法が分からない。若葉マークの付いた「買い方ガイド」を見つけ、手続き

を開始。時計を見ると、真夜中近い。いけない、明日は仕事だ。今日はこれまで。

翌日の夜、待ちに待った初入札を敢行。競り合いの末、何とか龍48文を落札。60年来の「恋人」に、やっと逢うことができる。一つ目的を達成すると、欲が出てくる。他にも片想いがあったなど、薄れかけた記憶を辿る。ビクトリア女王を忘れていないではないか。さらに、カナダのビーバー、喜望峰の三角、ブラジルの牛の目、アルゼンチンの漫画のような顔、西オーストラリアの黒鳥などなど、各国の一番切手がどんどん思い出される。二番じゃダメ、一番じゃなければ。よし、次は、世界の一番、ビクトリア女王だ。新しいターゲットを決め、ヨーロッパ切手のカテゴリーを開くと、何と幸運。待っていたかのようにブラックペニーが出品されている。初期値3,000円。出品者曰く。「切手のことは素人です。良く知っている方に購入して頂きたい」 それにしては、消印がどうの、マージンがどうのとかなり詳しい説明が付いている。競り合いは締切日に向けて激しくなり、私は、5,000円台で討ち死に。結局、落札額は10,000円を超え、彼女とのデートは、その後、数か月待つことに。

#### <準備は万端>

ビクトリア女王に振られたことで、少し冷静になる。ただただその場の状況に煽られ、競り合いを続けるほど資金があるわけではない。飲み代を振り向けているのだから、自ずと限界がある。賢く対応しよう。その為には、1回あたりの入札限度を決め、絶対にそれを守ることだ。

限度額を決めるにはどうするか。ターゲットとする商品の市場価格を知ることが第一。それなのに、この時点まで、カタログすら開いていないことに気が付き愕然とする。自宅に戻り搜索の結果、出て来たのは40年以上前の変色し始めた「日本切手カタログ」。役に立ちそうもない。そうだ、数年前に「デキゴコロ」で購入したスコットがあるはずだ。搜索続行。やっと見つかる。全く手つかずで、購入当時の梱包状態のまま。開梱して、パラパラとめくってみる。“アレッ！”おかしい。目が見えない。いくら目をこすってみても、字が読めない。虫メガネを探す。読める。なんのことはない、確実に齢を重ねてきた証拠。この年になるまで、メガネのお世話になったことは無いけど、これからはダメなのかな、と暫し茫然。(この時の搜索で、ブラジル、イスラエル、ドイツのカタログ〔其々1965年版〕が出てきた。当時、現地の友人達から贈られたものだ。懐かしい。)

せっかく苦勞して探し出したものの、日本切手には、あまり役に立たない。そこで、AMAZONなどを検索し、「日本切手カタログ2009」と「さくら2009」、そして、「日専：戦前編2009-10」(稲葉会員が編集にかかわっているのを、初めて知る)を入手。後になって、「手彫切手専門カタログ2007」が加わり、日本切手に関しては、万全?の準備が整う。準備は整ったものの、その後は連戦連敗。2枚目の手彫になかなか手が届かない。そればかりか、待ち焦がれる外国切手にもお目にかかれない。

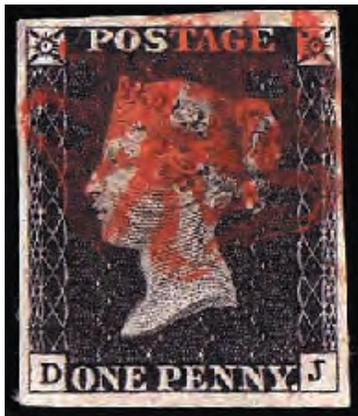
そんな時、「他にもオークション、ありますヨ」、と教えてくれたのは、ある雑誌の若い編集長。「イーベイ」って云うんです。ネットですぐ出てきます」英語では、eBayと綴り、米国で最大のオークションサイトらしい。日本にも公認サイトがあり、sekaimon(セカイモン)と称している。一直線に日本語サイトのsekaimonにアクセス、目指すは、切手のみ。カテゴリーの中に、「海外の切手」を見つけ、クリック。アメリカ合衆国、オーストラリア、カナダ、イギリス連邦、イギリス、ここまでは国別のカテゴリーが並び、それ以外は、アフリ



い。詳細にチェックをしても、パソコン上の画像では、判断が非常に難しいのが現実。「参考」、「模造」の文字のない手彫も、ルーペを使い隅々まで精査。約4割がどうも臭い。後日、手彫切手に造詣の深い坂下会員にチェックをして頂き確認。全ての花が散ることはなかったものの、夢は萎み、気持ちが殺がれ、「さよならだけが人生だ」状態。そうは云っても、出張の夜は、また廻って来る。しかたがない自業自得だ。まっ！暫くは手彫とサヨナラして、ビクトリア女王に会いに行こう。

### <ポリープの女王>

世界最初の切手・ペニーブラック（ブラックペニー：どちらが正式な愛称なのか？）。資金不足で逢瀬を阻まれた彼女に、どうしても会いたい。sekaimon オークションのイギリス・ビクトリア女王の扉を開く。そこには、女王様の左を向いた顔がずらりと並んでいる。何でみんな、左向きなんだろう。女優の写真は、殆どが左側面から撮影されている、と聞いたことがある。一番良い表情を捉えられるからだとか。ビクトリアの昔からそうだったのだろうか。そんなことを考えながら1枚1枚、小さな画像を追う。レッド、ブルー、ブラックと、いろいろな女王様が微笑みかける。しかし、どの女王様も御年160歳以上。顔全体がボンヤリしていたり、目元が黒く汚れていたり、あるいは、枠がヨレヨレだったり、なかなか素敵な姿に会うことができない。赤い消印が、まる



ポリープの女王

アメフトのヘルメットを被つてる

で頬紅をさしたような黒い女王様が忽然と現れる。実に美しい。即決価格\$200。アーッ、4回分の飲み代か。もう少し探してみよう。今度は、黒い消印にも拘ら

ず、横顔のすっきりした御姿。初期値1¢。入札者10名、現在価格\$55。よし、先ず手始めに、この女王様にアタックしよう。高値になると予想される商品は、出品者が初期値を1¢とか9¢など、低価格に設定していることに、暫くしてから気が付く。この横顔すっきり女王様も結局、私の手をスルリとすり抜ける。それではと、意を決して頬紅女王様に。しかし、時、既に遅く、どなたかの元に走り去った後。女王様と酒、やはり、二兎を追っては、一兎をも得られない。一途な気持ちが無ければ、女王様も振り向いてはくれないのだ。

「ポリープ2つ。切除しましょう」出張の合間の健康診断。悪性か？結果待ちの2週間。女王様のことも忘れ、ひたすら良性であることを祈る。「今回は問題ないでしょう。でも、今後は1年に1回、検査すること」医者の言葉に、ホッ！と胸をなでおろす。友人から結果を尋ねる電話が入る。「どうだった。相変わらず悪運が強いな。医療保険、申請できるぞ」早速調べると、2種類の医療保険に加入している。必要書類を揃えるのに四苦八苦して保険金の支払いを申請。折から、保険金の不払いが社会問題になっていたためか、すんなりと申請は認められ、生まれて初めて保険金を頂戴する。正に、臨時収入。そうだ、これを資金にすれば、女王様に会えるかもしれない。わが身を削ってでも会いたいという一途な気持ちが通じるかも。1カ月ほどして、60年来の想いが成就。ビクトリア女王(私にとっては、ポリープの女王か)は、170歳近いとは思えないほど美しい。

### <米国本土へ>

sekaimonを検索していると、頻繁に取扱対象外商品に出くわす。即ち、sekaimonでは、仲介をしてくれない商品。母体オークションであるeBayで、独自に入札しなければならぬ。この対象外商品の中に、入札したい商品が多々存在する。でも、英語だからと、足を踏み入れるのを暫く躊躇。しかし、怖いもの見たさと、ビクトリア女王への想いを遂げた高揚感が、その壁を乗り越えさせる。越えてみてビックリ。

sekaimon では4,000種類だった日本の切手が、その倍以上の約10,000種類も出ている。その他の切手も、当然、sekaimonより充実。出張先の夜だけでは、到底、時間が足りなくなる。また、お得なことも発見。sekaimonでは、商品代金のほか、日本への国際宅急便料金（意外とバカにならない。通常、1,200円～2,000円）、手数料（商品代金の15%）、その他が必要になる。1,000円の商品を購入しても、手数料はともかく、国際宅急便料金が、商品価格以上かかってしまう。eBayであれば、商品が切手であるかぎり、送料は、高くても書留料金で済み、15%の手数料もかからない。考えてみれば、躊躇させる英語も、読み書きだけで会話ではない。ならばと、sekaimonからeBayに変更決定。出張の携帯品に英和・和英辞書が必須になる。パソコンだけでも重たいのに。それにしても、辞書の字は、なんでこんなに小さいのだろう。

#### <ビーバーか、美婆か>

英和と和英というお供を連れた夜遊びの成果は徐々に上がっていく。

喜望峰の三角（図柄はビクトリア女王なのだ）は、永い間、恋い焦がれたのが嘘のように、見えない恋敵とバトルを繰り返すことなく（人気が無いのだろうか）、私の云うことを聴いてくれた。

牛の目は、まさか口蹄疫騒動に巻き込まれたわけではないだろうが、長いこと足止めされたものの、殺処分を免れ、3頭とも無事に到着している。

サッカーの世界カップ・南アフリカ大会



三角形は切り難いのか。まともなマージンは少ない気がする。

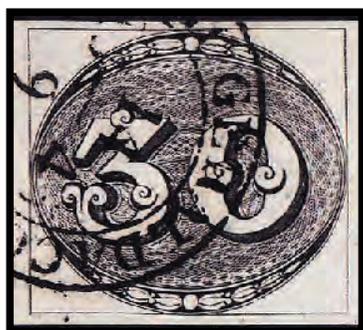
で、派手なパフォーマンスを披露したマラドーナとは正反対に、素朴で、子供が描いたような稚拙さが私にとって魅力のアルゼンチンの一番。一般には人気が無いいためか、あまり姿を見せてくれない。それでも、マラドーナのアルゼ



この素朴さが魅力

ンチン・チームが、南アフリカを去る前に、何とかゴール。

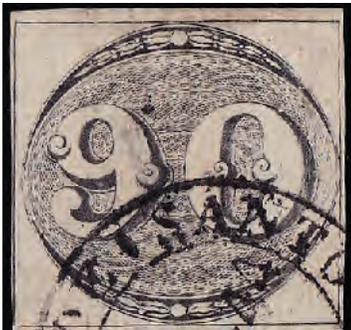
黒鳥は、「捕獲」してみてもビックリ仰天。全面真っ黒で、まるで「闇夜のカラス」。黒鳥の姿が見えない。これでは、小さな紙切れを、黒マジックで塗りつぶしたのと変わりがない。再度、目に見える黒鳥を捜しに eBay の海原に船



牛の目3兄弟の末っ子



牛の目3兄弟の二男



牛の目3兄弟の長男。  
気のせいか萎びている。



薄暮のブラックスワン

を出す。捕獲できたものの、「薄暮のカラス」程度。まだ、満足できないでいる。

ビーバーの搜索は、難渋を極める。若いビーバー（目打ちあり）は、頻繁に出没するのに、年輩のビーバー（無目打ち）は、ほとんど姿を見せない。Beaver Canada #1 と入力し、何度か「指名手配」を試みる。しかし、網にかかるのは、若輩ばかり。ある晩、客先との宴席（時には、このようなこともある）を終えホテルに戻り、パソコンを開く。酔眼のままメールを確認後、ビーバーの搜索状況をチョット覗いてみる。オッ！ 年輩ビーバーが1匹、捕捉されている。着替えも忘れて画面を凝視。小さくてよ



何故、左下隅の数字は傾いているのか？



消しゴムでも作れそうなチベットの一番切手

く見えない。あわてて拡大。無目打ち。まぎれもなく年輩ビーバー。年齢相応の雰囲気画像からうかがえる。解説に目を凝らす。こちらにも読みにくいので拡大。Canada Scott #4。アレッ!? 何で#4なの。間違いじゃないの。幾ら目をこすってみても、画面を再表示してみても、#4は#1に変わらない。英和・和英のお供は居ても、こればかりは役に立たない。自宅に戻り、早速、スコットを開く。カナダの1番は勿論、ビーバー。そして、なんと4番もビーバー。全くもって不勉強の極み。結局、1番の捕獲には、その後数カ月を要したものの、時間をおかないで4番の捕獲にも成功することができた。私事で恐縮ですが、わがカミサンのニックネーム（若い頃）は、ビーバー。カナダのビーバーは、150歳超。カミサンは、アラコ（アラウンド古希）。カナダのビーバーは、年を重ねるに従い価値が上がっていく。わがカミサンも、せめて、「美婆」になってくれたらと願っている。

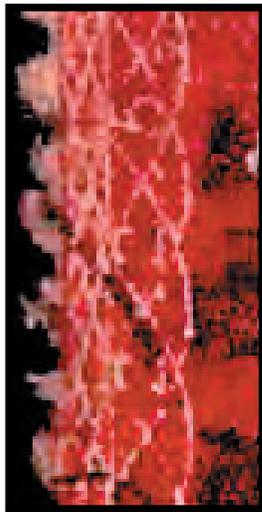
<これからも・・・・・・>

出張の夜の過ごし方に苦労していたのが嘘のように、いま、子供時代の夢を追うことで、かえって時間が足りなくなっている観すらある。衰え始めた目を、カッと見開き、単純に、オークションの画面を追っているだけではあるものの、いろいろなことに出くわしたり、忘却の彼方に消えていたものが、蘇ってきたりして飽きることが無い。

先日は、チベットの1番切手に遭遇。チベットがチベットとして存在していた証であり、私の目指す「1番」でもあるため、バトルに参入。ほぼ、無血状態の戦いで勝利。



両側にプレート番号がある。  
下・プレート番号拡大  
225と読める



プレート77（存在しているのだろうか）とプレート225を除いて、価格は二束三文。数ヵ月後、難関の1枚、プレート225にやっと会うことができる。残るは、幻？のプレート77。完成は難しいかな。手元に古びた手帳がある。開くと各ページに縦横の罫線が引かれている。学生時代に使っていた手帳で、前述のカタログ検索時に出てきた。あるページの上欄外に、Indiaと下手糞なイタリック体の字。そして、その下の小さな舐目の左端に、番号と思われる数字。その右に、1a,2aの文字。その隣に✓。左端の数字は、

ビクトリア女王へアプローチしている際には、その昔、全てのプレート番号（1864～1879：1P）の収集を夢見た頃を思い出し、試しに、オークション内を探してみると、プレート番号毎に出品されている。プレート77（存在しているのだろうか）とプレート225を除いて、価格は二束三文。数ヵ月後、難関の1枚、プレート225にやっと会うことができる。残るは、幻？のプレート77。完成は難しいかな。

スコットの番号、次が切手の額面、そして、✓は、所有していることを表している。学生時代、このような手帳を作成し、✓印を1つでも増やしたいと思っていた。Indiaのページには、上の方に2つだけ✓印が付いている。大学近くにあった「戸塚スタンプ」で購入した英領インド時代のビクトリア女王の切手に違いない。ブラックペニーには手が届かない。でも、ビクトリア女王の切手は欲しい。そんな気持ちで、購入し、手帳に✓を付け、「よし、これからだ」と意気込んだことが、昨日のこのように思い出される。出張先の夜の仕事には、このビクトリア女王捜索も含むことにしている。しかし、かなり人気が高く、高値で取引されていて、私の所にはなかなか来てくれない。でも、これからも、このインドのビクトリア女王を追い続けるつもりでいる。

#### < Let's try Auction >

時間つぶしを目的に、おっかなびっくり始めたオークション。失敗も数多くあるけれど、まだ、破産もせず続けている。稲門フィラテリー会員の中には、自身のコレクションの行く末についていろいろ考えておられる方も多いかと思う。処分するにしろ、更にコレクションを充実させるにしろ、このオークションは、大変有効な手段の一つかと思われる。ただ、のめり込まないことと、ハラハラ、ドキドキすることもあるので、心臓に問題のある方や高血圧の方は注意した方が良くもしいろ。かくいう私は高血圧ですが、稲門フィラテリーの中に、オークション担当部門を設け、会員のコレクションの処遇を考えてみるのも面白いかもしれない。現に、私より若い会員の中には、オークション経験者が多く見受けられるので、可能性は高いのではないだろうか。

この拙文が会報に載る頃、私は、秋の巡業先の九州、大阪、名古屋で、パソコンを眺めているかもしれない。メガネの使用は、まだ思案中ですが、



戸塚スタンプ・ツーショット

## 幕末から明治初期の日本の外国郵便

坂下 泰一

### 日本の開国

220年に及んだ徳川幕府の長い鎖国政策も、ペリー提督率いるわずか4艘の黒船艦隊の強大な圧力の前にあっさりとその幕を下ろすことになった。

ペリーの浦賀来航の翌年、1854年(安政元年)には、日米和親条約が結ばれ、下田と函館の開港を約束。1858年(安政5年)に、日米修好通商条約を締結、横浜、長崎、函館、新潟、兵庫の5港を開港した。アメリカに続き、オランダ、ロシア、イギリス、フランス各国とも同様の条約を結んだ。

### 開港地における在日外国郵便局

横浜の外国人居留地には、1859年(安政6年)、早くも英、仏、米3国の領事館が開設され、そこには、郵便業務を担当する郵便係も置かれていた。最初のうちはまだ切手も郵便印もなく、領事館印を郵便印の代わりに用いたり、中継地である香港や上海等で消印した。この時期の郵便を領事館郵便(またはスタンプレスカバー)と呼んでいる。図1は、1866.1.10 横浜差立、米 国宛で、神奈川米 国領事館印で押印したスタンプレスカバーである。間もなく、開港地には英、仏、米の郵便局が設置され、切手及び郵便印も備えられ、本国や開港地相互間の通信や郵便業務を取り扱った。こうした郵便局を在日外国郵便局と呼んだ。図2は、在日外国郵便局



図2 在日外国局使用の切手と消印

で使用された切手と消印である。上の2列は横浜英国局の<Y1>印、3段目は横浜仏国局の<5118>印とJAPON入りの日付印、下の1枚は兵庫米 国局の小型HIOGO印。

### 日本の近代式郵便の開始

1871年(明治4年)に、日本に近代式郵便制度が前島密の発案により開設され、雌雄の竜を描いた4種の切手(48文、100文、200文、500文)が発行された。創業期には、まだ外国との郵便交換条約が締結されていなかったため、日本の切手を貼った郵便を

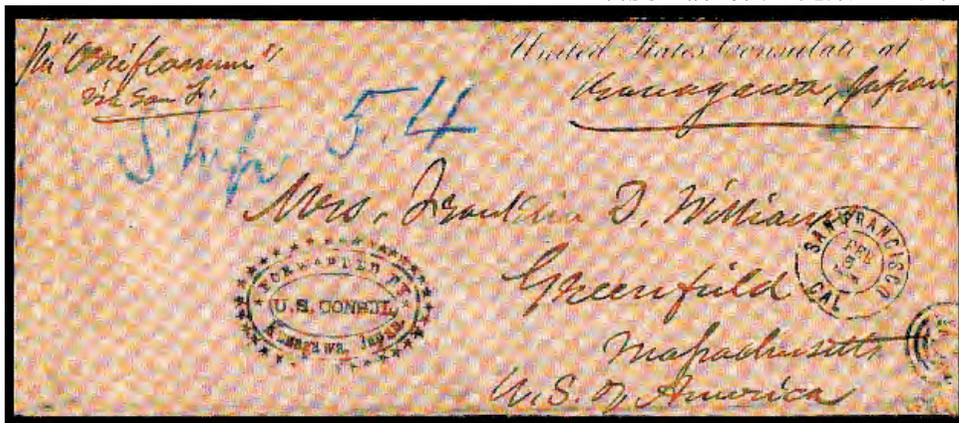


図1 神奈川米 国領事館印付カバー(白井二実氏蔵)

海外へ差出すことはできなかった。また、海外から日本に来る郵便物(到着便)も、日本の郵便網を利用して送達する事もできなかった。受取人(又はその代理人)が直接、横浜の各外国局へ行って受け取るか、受取人がいない時は、郵便物は差出人へ送り返されていた。



図3 在日米国局到着便

このような不便に対する対策として前島が考え出したことは、横浜郵便役所が駅通寮の名義で在日外国局から私書函を借り受け、そこに日本宛の郵便物を入れてもらい、後で一括してそれを受け取り、日本の郵便網に乗せ、料金先払いで配達する、と云うものであった。図3は、在日米国局の到着便。1871年(明治4年)8月22日、ウエスト・ニュートン(ボストンの西約10キロ)より差立。同年9月24日サンフランシスコを経由して10月23日横浜到着。宛先のS.R. ブラウンは明治の初めに日本に来た宣教師の1人。約20年間日本の伝道に尽くし、またヘボンと共に聖書を日本語訳するのに大いに貢献した。

### 「海外郵便手続」による外国郵便



図4 外国郵便差出願 外封筒見本

明治5年3月の郵便規則から「海外郵便手続」という項目が設けられ、二重封筒方式により、在日外国局を利用して海外へ郵便を出すことができるようになった。外国に差出す封筒(内封筒)を、それより一回り大きい封筒(外封筒)に入れ、図4のように、国内料金と規定の外国料金を日本切手を貼って納め、「外国郵便差出願」と朱書して、

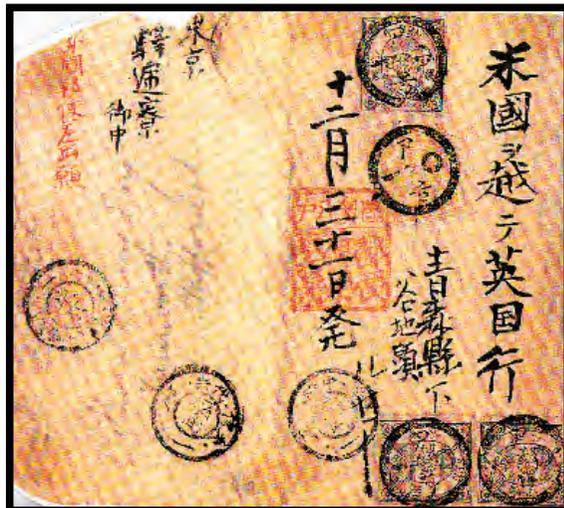


図5 現存唯一の外封筒「八戸カバー」(谷 喬氏蔵)

駅通寮宛に出せば、あとは駅通寮が外国局へ行き、外国の切手を貼って海外に差立ってくれる。図5は、現存する唯一の外封筒。明治7年末、陸奥・八戸より差立てたもので、「八戸カバー」として知られている。外封筒は駅通寮が受け取った後、破棄されるのが普通であるので、現物が残っているのは極めて珍しい。

が、このように面倒な「二重封筒」方式によらなくても、簡単に外国に手紙が出せる便法を、当時のフランス横浜郵便局長のアンリ・デグロンが考案した。図6を見てみよう。「横浜本町五丁目/仏国飛脚船会社社長/デグロン君」と記された木製の印判がカバーの左下に押されており、左上にはフランス切手3枚(セレス25Cx2+80C, 合計IF30C)と桜黄2銭仮名トが貼られている。この1フラン30サンチームは横浜からフランスまでの英国郵船による外国料金で、手彫の2銭が国内料金である。この2銭



図6 「デグロン君カバー」

料金によって、日本国内どこからでも宛先のフランス横浜局へ届けられ、フランスまでの外国料金が納られているので、フランスの宛先へ届けられる。従って、二重封筒方式によらなくても、このようにデグロン印を押し、日仏切手を混貼することによって、簡単に外国に送達出来ると云うわけである。「デグロン君カバー」は東京在住のフランス軍事顧問団の軍人達が故国に手紙を出す際に多く利用した。中でも、ルボン砲兵大尉や、ミュニエ中佐等のカバーが多く残っている。「デグロン君カバー」は5～6種類のタイプが知られているが、このカバーのように枠の無いもの(タイプ1)が一番多い。

次に、消印を見てみよう。3枚のフランス切手は在日仏国横浜局の、〈5118〉印で抹消。洋紙黄2銭仮名トには記番印「イ四九号」が押ししてある。この記番印は7年の12月の初め頃から使用された

カバーの下方に横浜局日付印が証示印として押されている。消印は全体に色が薄く読みにくい、次のように判読できる。「YOKOHAMA Bau FRANCAIS 74.DEC.14」。この74.DEC.14の数字は「鳴美」(出版社)の出した「デグロン君カバー」のリストの中では「12月11日」と紹介されている(「たんぶるぼすと」Vol.20, No12, 増刊号 No.13)が、ルーペで拡大して見たり、他の横浜局日付印の数字の11と14を比べてみても、14が正しいように思われる。ルボンは大変几帳面な人で、毎週同じ曜日(月曜日?)に故国の母親や姪に(当時まだルボンは独身)手紙を出すのを習慣にしていた。月曜日に投函するのは、翌日の火曜日には、英、仏の郵船(P&O,M.M.)のどちらかが、横浜を出航することに決まっていたからだ。ちなみに12月の11日は金曜日で、14日は月曜日にあたる。また、カバーの右手中央にプリンデシの中継印がある。これは次のように読める。「PAQ.ANG.V.BRIND.A.MOD.75.1.23」(British Packet-boat via Brindisi, Mobile Office from Modane 『イギリス郵船から郵便物をプリンデシで揚陸し、モダーヌからフランスに入国、郵便車内で押印』)

#### 日米郵便交換条約の締結と外国郵便の開始

日本の近代式郵便制度が発足して4年が経過しても、日本の切手を貼った手紙を自由に海外に差し出すことはできなかった。郵便を交換するためには、日本と相手国との間に郵便

交換条約を結ぶ必要があった。駅通寮は、英、仏、米の3国と郵便条約の交渉をすべく、お雇い外人サミュエル・エム・ブライアンを雇い入れた。彼は、アメリカで郵便の実務の経験もあり、仕事に対する取り組みも意欲的で、かつ有能であった。彼は日本の全権団の中心となって活躍、そのお陰で、明治6年(1873年)8月6日、日米郵便交換条約の締結に成功(明治8年1月1日に条約の施行)。在日米国局は明治7年(1874年)12月31日を以て閉局することになった。日米間で交わされた条約には、双方が対等の条件で郵便を取り扱うことが取り決められていた。これにより、日米間に関しては通信主権は回復したと言えるだろう。しかし、英国及び仏国との交渉は難航した。日本が強くと在日郵便局の撤退を求めたが、なかなか同意が得られず、ようやく明治12年(1879年)12月31日に、英国が、明治13年(1880年)3月31日に仏国が、それぞれ在日郵便局を閉鎖した。これでやっと通信主権の問題は一段落ついた。明治8年の1月1日、日米郵便交換条約が施行され、12銭(雁)、15銭(鶺鴒)、そして45銭(鷺)の3種の鳥切手が発行された。ここに来てようやく美しい日本の手彫切手が、海の向こうへ羽ばたいて行くことが出来るようになった。ヨーロッパの諸国にもアメリカを経由して送達することが出来た。図7は、鳥切手3種の発行を伝える太政大臣三条実美の布告第一号であるが、布告の日付は何故か発行日より遅い1月4日になっている。



図7 鳥切手発行布告および鳥切手

**表 1** 外国郵便料金表

この表は書状 1 通 1 5 グラム（4 匁）以下の主要国宛の料金を示す。

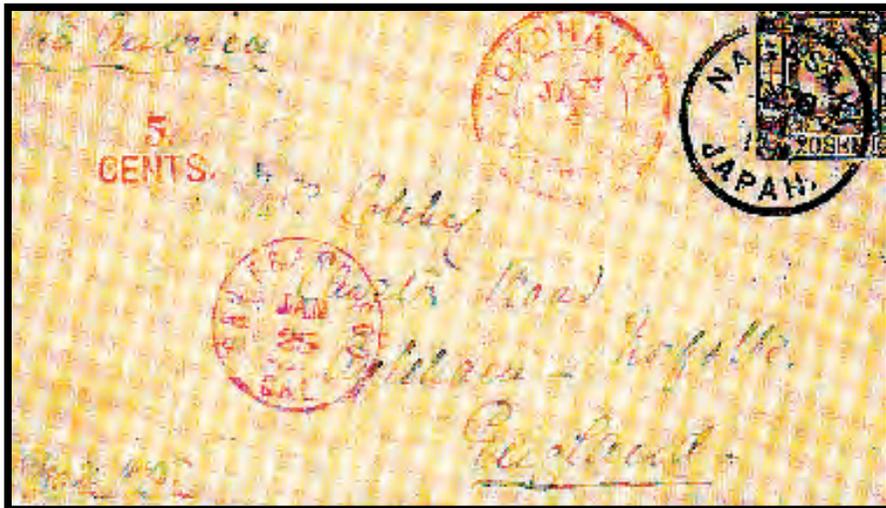
あて先	米国	上海	英国	ドイツ	仏国	イタリア
明治 8(1875).1.1 ~ 8(1875).6.30	15 銭	6 銭	21 銭	21 銭	25 銭	25 銭
明治 8(1875).7.1 ~ 8(1875).9.9	15 銭	6 銭	21 銭	21 銭	24 銭	25 銭
明治 8(1875).9.10(*1) ~ 8(1875).12.31	15 銭	6 銭	20 銭	20 銭	24 銭	20 銭
明治 9(1876).1.1 ~ 9(1876).3.31	12 銭	6 銭	17 銭	17 銭	17 銭	17 銭
明治 9(1876).4.1 ~ 10(1877).6.19	5 銭	5 銭	10 銭	10 銭	10 銭	10 銭
明治 10(1877).6.20 (*2) 以降	5 銭	5 銭	10 銭 12 銭(*3)	10 銭 12 銭(*3)	10 銭 12 銭(*3)	10 銭 12 銭(*3)

\*1. U.P.U の成立による \*2. 日本の U.P.U 加盟による \*3. 香港経由料金

**UPU 条約成立後の英国宛 2 0 銭料金**

長崎 (明治 8.12.21) → 横浜 (9.1.4) → 米国 (サンフランシスコ) (9. 1.25) 経由 → ノフォーク (英国)

**表** 抹消印: 欧文日付印「NAGASAKI JAPAN/ DEC 21 12M」洋紙紫 20 銭仮名ホ貼り (規定料金) 証示印: 欧文日付印「YOKOHAMA PAID



ALL/JAN 4」朱印 5CENTS 朱印 郵税の配分 [米国 1 5 c, 英国 5c]

: 欧文日付印 SANFRANCISCO CAL/JAN 25」赤茶印

**裏** 証示印: 小型欧文印「NORWICH C3/FE 12 76」他に不明印が 1 つある。UPU 条約により, 8 年 9 月 10 日から 21 銭が 2 0 銭に 1 銭値下げになった。

**日米間料金改定によるドイツ宛 10 銭料金**



東京 (明治 10.3.29) → 横浜 (10.3.30) → 米国 (サンフランシスコ) (10.4.29) 経由 → ドイツ

**表** 抹消印: 白抜十字 (東京) 洋紙改色 10 銭仮名ホ貼り (規定料金)

証示印: 東京 ◎ N2B2/10.3.29 5CENTS 朱印: 欧文日付印「YOKOHAMA PAID ALL/MAR 30」朱印: 欧文日付印「SANFRANCISCO CAL ST SHP (蒸気船?)」

**裏** 証示印: 横浜 ◎ KB2/3.29 不明印 2 つある 日米間の料金改定により, 7 銭値下げで 5 銭に、ヨーロッパ料金もそれに伴い 7 銭値下げで、10 銭になった。

## 日本の UPU 加盟後のドイツ宛 2 倍重量便



横浜 (明治 12.11.12) → 香港  
經由 (12.11.20) → ベルリン  
(12.12.27?)(ドイツ)

**表** 抹消印: 枠無しの十字印  
(無声印) 証示印: 小型欧文印  
「YOKOHAMA ★ /NOV 12 1879」  
洋紙改色 20 銭チと小判緑 4 銭貼  
り 合計 24 銭は規定料金 12 銭の 2  
倍重量便

**裏** 証示印: 小型欧文印「HONG  
KONG/NO 20 79」「27/12 V」の  
○印は、12 月 27 日の事か?

郵便の重量が規定の 4 匁 15 グラ  
ムを越えたときは重さに応じて重  
量税を徴収した。

## 英国宛 3 倍重量便



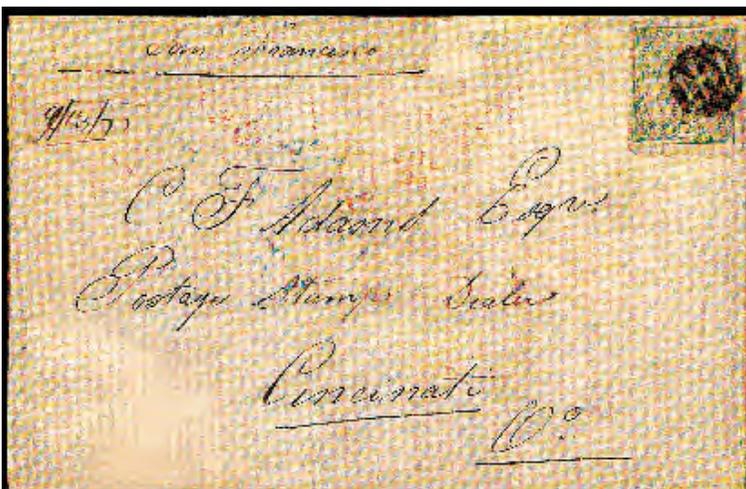
神戸 (明治 19.1.11) → 香港經由  
(19.1.18) → リーズ (19.2.22), ヨーク  
シャ (英国)

**表** 抹消印: 神戸のイニシャル印  
鳥 15 銭仮名口 2 枚と玉六仮名子 1  
枚計 36 銭, 香港經由の規定料金は  
12 銭であるから 3 倍重量便。

証示印: 小型欧文日付印「KOBE  
JAPAN/11 1886」

**裏** 証示印: 小型欧文日付印「HONG  
KONG/A JA 18 86」: 小型欧文日付印  
「LEEDS 219 22 FE 86」不明印 1 つ

## 日米間 5 銭料金



大阪 (明治 10.7.23) → 横浜  
(10.7.25) → サンフランシスコ  
(10.8.11) 經由 → シンシナチ (オ  
ハイオ州)

**表** 抹消印: 白抜記番印〈子  
一〉 洋紙緑 5 銭貼り, 日米間  
の規定料金 証示印: 欧文日  
付印「YOKOHAMA PAID ALL/  
JUL25」朱印 全体に色が薄い

**裏** 証示印: 大阪 NIB2/ 明  
治 10.7.23 ほ: 欧文日付印  
「SANFRANCISCO PAID ALL/  
AUG 11」赤印 不明印 2 つ

この緑 5 銭は 9 年以降の米国  
宛書状用に発行された最後の手  
彫切手である。

# 宗教家の切手

木辺円慈(本磨)

當誌 30 号に府川氏が滋賀の旅をお書きくださり、拙の住職を致しております錦織寺のことをうまくまとめて、ご紹介くださいました。また、佛教のお話も、すべてではないものの、要点は 34 号に、「二人の収集家」という題でお話し致しました。今回それらと重複する所もあるかと思いますが、しばらくお目を拝借します。

来年は親鸞聖人七百五十回忌の年になります。親鸞聖人の師匠の法然上人も 800 回忌を迎えます。東京ではその両師を冠した展覧会が、上野の東京国立博物館で開かれる予定です。しかし、両師に関係する寺院は京都に多いので、慶讃記念行事などは京都を中心に開かれます。

年忌なのに慶讃なのかって? そりゃ 800 年も慕って大事にしてきたお方なのですから、そういう行事が 50 年ごとに連綿と続いてきているのです。他の宗教でも同じでしょう。お伊勢さん(伊勢神宮)、も明治天皇さんだっってそれぞれの神宮で御祭しています。

拙寺、錦織寺ではこの 11 月 21 日から 28 日まで、親鸞聖人七百五十回忌法要を他派に先駆けて営ませていただきます。御参詣下さい。

ところで切手は出ません。フレーム切手なども宗教にかかわるものはダメなんだそうです。文化財的なものはよいというのですが、それもかなり面倒な感じで、それで日本切手には、ことに宗教家ものはおそらく一件もないのではないのでしょうか。乃木さん東郷さんもそれをお祭りする神社はありますが、あの切手は宗教家



第 1 次昭和切手

乃木大将

東郷元帥

(宗教家ではおかしいのですが、祭られているので)としての切手ではありませんね。現代では巨大宗教教団があるので、その創始者の顔切手などを、教団の財力でどんどん出されてはかないませんが、教科書にも出てくるような何百年も昔の人物の切手などは、発行してもいいのではないのでしょうか。

そういえば、天皇さまの肖像切手は、今上帝(きんじょうてい)の皇太子のときの御成婚



日清戦勝記念

有栖川宮

北白川宮



錦織寺

親鸞聖人七百五十回忌法要の案内

記念を嚙矢\*としますね。明治の頃神功皇后の切手もありましたけど、このときはすんなり発行されたのですかね。不敬という問題や感覚はありませんでしたのでしょうか。おそらく想像



にもとづく絵画であるから許されたのでしょうか。その前後に宮様が登場して



新大正毛紙  
神功皇后

帝(みかど)のものは一貫してないですね。その原因とされている宮内庁さんの意見は、消印を押されては不敬であるという感覚でした。その不敬という感覚を歴史上の人物にもなっている

宗教家に当てはめる考えは、それぞれの宗教教団にはないと思いますが、しかし肖像権なるものを、この頃は寺院でも言い出しており、仏像などの写真もそれが適用されて、専門家の撮影した写真の公表は難しいことがあるようです。

建造物、仏像などの切手はたくさん出ていて、いまさら言うことではありません。これはあくまで文化財だそうです。それも国宝級のものばかりです。諸外国で、クリスマス切手などを拝見するとキリスト教に係わる聖人などの切手も多



広隆寺百済観音 国宝第1号



1999年オーストラリア  
クリスマス切手

く発行されていることは、会員諸兄師はご存知のことでしょう。どうして現代日本では宗教を忌避するのかな。戦時中には日蓮上人の書でしたかね、敵国降伏なんてのが出てました、また靖国神社のもありますね。その反動かしら。



勅額 第3次昭和切手 靖国神社

### 大漁

朝焼小焼だ

大漁だ

大羽鰹の (いわし)

大漁だ。

漁は祭り

のやうだけど

海のなかでは

何万の鰹の

とむらひ (葬式)

するだらう。

この詩を読んで、あなたはどう感じましたか。私は、鰹(いわし、鰯)を食べる度に思い出し、すまんな、すまんなと食べ、一・二匹で止めます。(一杯飲んでるとそんなこと忘れて、むしゃむしゃ、ですからいいかげんです。)

これは宗教的感覚があるかないかの試験紙ですねえ。あの口蹄疫で何十万の牛豚が、殺され埋められました。気の毒にと牛と豚に涙が出てきます。いつかは、人に食われる為に殺されるのでしょうか、無益に殺されていくのは気の毒、かわいそうです。でもどうしようもないのも事実です。そのジレンマにすまんな、すまんな、と言えるかどうか。外遊して浮かれているような農

\* 嚙矢(こうし) 物事の最初、はじまり、(編集子)

水大臣には通じない宗教世界です。

口蹄疫といえば、あれは中国や韓国から輸入した藁を食わせていたといわれています。全部じゃなくて、発生初めの頃の牧場の話です。怖いですよ。人間の食料品どころか牧畜飼料もばい菌つきで輸入です。（閑話休題）

先の詩の作者の名前はご存知でしょう。金子みすずさんです。切手（ふるさと切手、山口県）になっていますね。



みすゞとふるさと長門  
(金子みすゞ生誕100年)

### お魚

お米は人につくられる  
牛は牧場で飼われてる  
鯉もお池で麩をもらふ

けれども海のお魚は  
なんにもせわにならないし  
いたずら一つしないのに  
かうして私に食べられる。

ほんとに魚はかわいそう

お魚にとっても同情しています。彼女は山口県の仙崎という漁港の町の人。今でも蒲鉾が名産品でおいしいです。（閑話休題）

この心の優しさを生み出したのは、この町が持っている浄土真宗という宗教的風土でした。それは、私はみんなに支えられている、というよりはみんなは私を支えて下さっているという受身の世界です。だから悪いことはしない。してはいけないという命令でなくできない。そし

てみんなに何らかのお返しを日常に心がける世界です。だから勤勉で、欲張らない。独り占めしない。人には優しく接する世界です。親にもお返しをする。世間は親孝行といいますが、そんな構えたことではなく日頃に心がける世界です。昨日の新聞見て驚いた。100歳以上の長生きしているはずの人が十数人も行方不明だなんて、一体、家族はどうなっているのでしょうかね。みすずの世界からは考えられない状態です。

幕末、明治に日本に来た外国人は驚いた。控えめで優しく、賄賂など全く取らない節操高き日本人の民度の高さにぞっこんになり、ラフカデオ・ハーンなどは帰化してしまった。

もう戻ってこないかもしれない、静かな、落ち着いた、心配りにあふれた世界です。それが浄土真宗の念仏の世界。それは他の宗が僧侶になって修行の結果、みんなに語って指導して、人々はそれに従うという世界ではなく、一人ひとりが自らでそのような信心を得ていく教えが浄土真宗です。表面に現われる結果は同じかもしれませんが、念仏のもつ深さが底にあるのです。次の詩はその世界を示すものでしょう。

おっと草取りをしなくっちゃならんわい。広

### 土と草

母さん知らぬ  
草の子を  
なん千万の  
草の子を、  
土はひとりで  
育てます。

草があをあを  
浅ったら  
土はかくれて  
しまふのに。

い境内の草は大変です。草といえども、土に育てられて、一生懸命に生きてきたのにむしりとられます。気の毒ですが、カンベンしてくれと草に謝りつつ、作業してきます。さようなら。

# 邪馬台国夢想

野島 正顕

歳月を重ねて来たせい、時としてこの国の遠い昔に思いを馳せる。

我々の祖先が正史に初めて登場するのは中国の漢書という。紀元前後「楽浪海中に倭人あり。分かれて百余国をなし、歳時をもって来たり献見す」と記される。楽浪は今の平城あたり。続いて後漢書、1世紀のこと「倭奴国奉貢朝賀す。皇帝印綬を賜る」と。この印綬に相当する「漢委奴国王」の金印が江戸時代に博多湾の志賀島で発見され国宝



人物画像鏡

になった。水稻農耕の弥生文化が成熟しムラがクニに発展して、権力者が中国皇帝の後ろ盾や銅鏡その他の珍しい財物を目当てに朝貢する様子が窺える。

次に中国文献に載るのが200年近く下った3世紀。魏志東夷伝の倭人の条、有名な「魏志倭人伝」である。中華から見た周辺国の記録にすぎないが、北九州まで来た使節の見聞をもとに女王国に至る方角、距離、日数、更には習俗、産物、制度等が二千字程かなり詳しく記されている。ここに女王卑弥呼と邪馬台国が登場する。

「ふるくは百余国、漢のとき朝見する者あり。いま使訳通ずる所三十国。・・倭国乱れ、相攻伐すること歴年、すなわち共に一女子を立てて王となす。名を卑弥呼という。鬼道につかえ、よく衆を惑わす。」と。時代は弥生晩期にあたり、九州の銅剣・銅鉾文化と近畿を中心とする銅鐸文化が終焉した3世紀初頭の話である。水田稲作は東北にまで広がり各地に豪族や首長が登

場し、争いが続いた時代のようなのである。

連合王国の盟主となった卑弥呼は魏に二度朝貢している。皇帝からは「親魏倭王」の金印、銅鏡百枚、その他豪華な品々が贈られた。志賀島で出土した「漢委奴国王」が支社長印とすれば、卑弥呼が貰った印綬は友好企業の社長印に相当しよう。不仲の狗奴国との争いを訴えて錦の御旗まで下賜されたり、なかなか隅に置けない。何やらクレオパトラの知恵にも似ている。

ところが肝心の邪馬台国が何処にあったのか判らない。倭人伝には、朝鮮半島の帯方郡から、対馬、壱岐経由、北九州に入り末盧国、伊都国、奴国・・と三十の国が列記されている。奴国までは地名と遺跡で判っているが、続く不弥国以降の国々が何処にあったのか決め手が無い。女王国の東の海の向うも倭種で、小人国、裸国、黒齒国があるというからまるでお伽話の世界だ。

「女王国に至るまで万二千余里・・南、投馬国に至る、水行二十日。南、邪馬台国に至る、女王の都する所、水行十日、陸行一月。次に斯馬国有り。・・」

記述通りに辿れば、九州を抜けて南の海に出てしまう。琉球説があるのも頷ける。南は東の、あるいは一月は一日の誤りであるとか、起点、方角、距離、日数を変えた様々な解釈が出て来る。いわば海



吉野ヶ里遺跡 1994年

賊の宝探しの地図のようで確かにロマンを誘う。

記される習俗も面白い。「入れ墨、貫頭衣、酒を嗜み、死すれば喪主は哭泣し他人は歌舞飲酒す、一夫多妻だが夫人は淫ならず、泥棒、訴訟少なし、法を犯すや妻子を没し、門戸宗族を滅す・・・」と南国ユートピア風だが罰則はなかなか厳しい。魏志に続く中国の記録は200年近く下った宋書で、倭の五王が登場する大和王権拡張期の話である。

肝心の日本側の文献は、魏志から500年遅れて8世紀の古事記、日本書紀まで待たねばならない。朝廷によって編まれた最古の国史であるが、倭人伝は日本書紀の神功紀に注記されている。神功皇后は夫の仲哀天皇の没後に新羅征伐をした伝説の女傑だが、子の応神天皇は4世紀末の河内王朝説や騎馬民族説に絡む大王である。

「魏志倭人伝」と「記紀」はその他に接点が無い。従って卑弥呼を大和朝廷と関係のない九州の女酋としたり、神功皇后をさかのぼる崇神紀の巫女ヤマトトヒモソヒメに比定したり諸説紛々である。

皇祖神のアマテラスに擬す説も興味深い。天岩戸に姿を隠した話は卑弥呼が人前に姿を現さなくなったことや、独り身で弟がいたところが似ている。八百万の神々が集まって相談したことは、倭国の王たちが女王の擁立を協議した話にも通じる。



紀元2600年高千穂の峰

1940年に、神武天皇の即位を西暦前660年として皇紀2600年が祝され記念切手も発行されたが、もしアマテラス

＝卑弥呼とすれば、神武東征や大和朝廷の成立を卑弥呼死去とされる西暦248年頃より下った時代と見ることになる。

邪馬台国の所在地探しは古くは江戸時代の新井白石や本居宣長の頭を悩ませたが、明治大正期に入ると東大の白鳥庫吉の九州説と京大の内藤湖南の畿内説が対立して論議を呼んだ。早大の津田左右吉は王権東遷説に絡めた。戦前は天皇家の歴史を古く見る傾向があり、いずれも大和朝廷との関連に苦慮している。

皇国史観の呪縛から解放された戦後間もなく江上波夫の大和王権騎馬民族説が話題を呼んだが、大和朝廷の成立を卑弥呼没後100年以上も下る応神朝とした。早大で津田左右吉や横光利一の「日輪」の影響を受けたといわれる宮崎康平は、家業の島原鉄道に就く傍ら「まぼろしの邪馬台国」を著し、郷土史家やアマチュア参加の邪馬台国探しブームを巻き起こした。彼の情熱は先年映画化され、目の不自由な夫の手足となった妻を吉永小百合が好演して記憶に新しい。

20年ほど前に佐賀県の吉野ヶ里遺跡が発掘され、すわ邪馬台国かと騒がれた。小生も大隈侯の旧宅を訪ねた折に足を延ばした。「古代史疑」で推理力を発揮し九州説を唱えた松本清張ですら、倭人伝に描かれる「宮室、楼観、城柵巖かに設け・・・」は中国風の空想と考えたが、筑紫平野を望む丘陵にまさに倭人伝が描く情景がパノラマのように姿を現していた。倭人伝に記される末盧国(松浦)や伊都国(糸島)に近い城塞風の



吉野ヶ里遺跡 2000年  
20世紀シリーズ切手

期の環濠集落と見られている。

九州説をとれば、シャーマン卑弥呼は「皆女王国に統属す」とあるように九州の有力首長の信認を得たことは自明として、吉備、出雲、近畿、東海と広範囲に亘る列強との関係はどうだったのか。「女王の境界の尽くる所。その南に狗奴国有り。・・女王に属せず。男王ともとより和せず」とある抵抗勢力は九州南部の土豪か、あるいは出雲や畿内の豪族か。九州説では建国神話と結び付いた卑弥呼＝皇祖神アマテラス説が生きてくるので、卑弥呼と「もとより和せず」の男王は出雲に渡ったスサノオかと想像は膨らむ。いずれにせよ死後「径百余歩」の墓が造られたとあるので、卑弥呼が眠る巨大墳墓が九州の何所かに存在することになる。

遺跡の発掘調査や年代測定法が進むに従い畿内説が優勢となってきた。2009年秋、奈良県桜井市の纏向遺跡の発掘により、邪馬台国と同時代の2世紀後葉から3世紀に亘る類を見ない大型建物群の跡が発見された。これこそ卑弥呼の宮殿に相応しいとマスコミは大きく報じた。卑弥呼の都は戸数7万余を擁すとあるが、纏向遺跡はかなり広く未発掘地域が残るので今後更なる展開が期待される。

纏向遺跡に隣接する巨大な前方後円墳の箸墓古墳は崇神朝のヤマトトヒモモソヒメの墓とされるが、これを卑弥呼の墓と見る専門家も少なくない。古墳のなかでも前方後円墳は大和朝廷と密接な関係があると考えられており、これらの築造は卑弥呼や後継女王壺与の没後間もない3世紀後葉から4世紀に始まったと見られている。しかし箸墓古墳を



埴輪 挂甲の武人

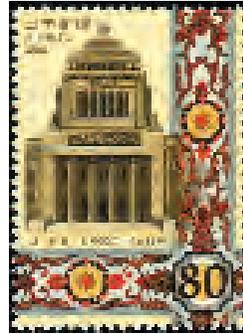
始め大和から河内にかけて点在する大型古墳は戦前から皇室陵墓に指定され宮内庁管理下であり調査が出来ない。

記紀神話にある日向の高千穂峰に降臨した天孫族が渡来人と関連するかどうかは判らないが、神武東征に象徴される九州勢力の東遷は史実であろう。朝鮮半島との密接な交流を背景に鉄器や最新の武具を蓄えた九州の集団が、より良き土地を求めて吉備、出雲その他の勢力を抑えながら東漸し、河内あるいは熊野から畿内に入り、豊かな奈良盆地を支配する豪族を鎮めて大和王権を成立させたことが想像される。

邪馬台国が畿内にあったとすれば、九州勢力の侵攻は248年頃に没した卑弥呼以前だったのか後だったのか、それによって卑弥呼のイメージが変わる。畿内侵入が既に終わっていたのであれば、卑弥呼は大和朝廷の始祖とも見られている崇神天皇の巫女ヤマトトヒモモソヒメに重なり、箸墓古墳＝卑弥呼の墓の可能性が高まる。他方、侵入が卑弥呼没後であれば建国神話や巨大前方後円墳との関連は薄くなる。しかしシャーマン女王の強烈な記憶が、はるか筑紫、日向の皇祖神アマテラスに投影されることはあるかも知れない。

神話を文学と見るか史実と見るか意見が分かれるところだが、文字の無い遠い昔の伝承が姿を変えたメッセージとして残ることはある。ドイツの貿易商シュリーマンが古代ギリシャの詩人ホメロスの叙事詩を信じてトロイを掘り当てたように。

女王に推されて以来人前に姿を見せなかった卑弥呼は、弟スサノオの乱暴を恐れて天岩戸に隠れた皇祖神アマテラスと結びつくのか？卑弥呼に先だった九州の銅剣・銅鉾文化や近畿の銅鐸文化の突然の終焉の意味は？邪馬台国女王の鬼道と皇室の祀りごとや三種の神器との結び付きは？と古代への夢想は尽きない。



稲門フィラテリー 34 号で我国の切手に描かれたものを大きく分類、整理した。今回、もう少し偏見の角度を強めて、描かれたもの(切手になったもの)がどのような特定施設、機関に現存、保管されているのか、整理、分類し検討してみた。また、切手になった文化財等がどのような所に所蔵されているか、整理もしてみた。

まず、特定施設、機関で 4 種以上の切手になった施設は表 1 のように整理された。寺院、神社、城がほとんどで、国会議事堂が国、立法、条約のシンボルとして切手になっている以外では合掌造民家棟(民家をまとめて)、二条城(住居として国宝指定)がみられるに過ぎない。

種々の切手にデザインを変えて描かれる国会議事堂(下、内部の天然大理石モザイクとステンドグラス)

い。国会議事堂を除くと寺院、神社で京都、奈良の世界遺産に指定された寺社が多く切手になっている。しかし、寺社によって建築物が主に切手になっているか、所蔵する文化財が主に切手になっているか見分けることが出来、その寺社が歴史的立場か、観光資源としての立場かその扱われ方のウェイトの違いがうかがえる。法隆寺、厳島神社の建物が多く描かれているがこれはある特定の建物が描かれたためであり、実際は法隆寺は文化財が圧倒的多く、厳島神社は両者が半々となっている。法隆寺では終戦直後の五重塔普通切手の種類の多さ(6種)、厳島神社は海に建つ鳥居がおおく描かれているため(7種)である。特定の建物が多く描かれている例としては清水寺の本堂(舞台)と、陽明門の7種がある。

施設	切手種類			合計	対象物	
	ふるさと	特殊	普通		建築物	文化財
法隆寺		9	13	22	11	11
国会議事堂		22		22	18	4(内部)
厳島神社	2	15	3	20	15	5
東大寺	3	9	4	16	4	12
合掌造民家	3	11		14		
東照宮		7	6	13	8	5
平等院		4	7	11	5	6
興福寺	1	9		10	2	8
春日大社	2	4	4	10	7	3
薬師寺	1	7	2	10	4	6
首里城	6	3		9	9	
中尊寺	2		6	8	4	4
清水寺		6	2	8	8	
名古屋城	4	1	3	8	8	
姫路城	1	4	2	7	7	
熊本城	7			7	7	
中宮寺			6	6		6
二条城		2	4	6	2	4
鎌倉大仏			5	5		5
唐招提寺		5		5	2	3
金閣寺		3	1	4	4	
醍醐寺		4		4	4	1
銀閣寺		4		4	4	
松本城	3	1		4	4	
大阪城	4			4	4	





一方、文化財の点からは、東大寺、法隆寺、興福寺、中宮寺と平等院という奈良、宇治の歴史の古い寺院の文化財が多く描かれ、彫刻の国宝126件のうち70件が奈良に存在していることをうかがわせてくれる。中でも、中宮寺菩薩像(6種)、法隆寺金堂壁画侍者観音像(4種)、興福寺の阿修羅像(3種)等が多く描かれていた。

このように1つの建造物、文化財が重複して数種類の切手になることの良し悪しは別として、遷都1300年を頭に、奈良の主だった寺社所蔵の国宝件数に限定し、その切手なった件数を整理したのが表2である。元興寺を例外として薬師寺を除くと30%程度しか切手には描かれていないのが現状である。普通切手の重複を除くと思ったより特殊切手での重複は少ないようであった。しかし、室生寺の五重塔、阿修羅のように3種に描かれているような重複は検討されてしかるべきであろう。

表2 奈良の主だった寺社所蔵国宝数とそれら国宝图案切手数

寺社	建造物		彫刻		工芸		絵画		%
	国宝	切手	国宝	切手	国宝	切手	国宝	切手	
唐招提寺	5件	1件を2種	6件	1件を2種	1件				17
東大寺	8件	2件を3種	13件	5件	4件	2件を3種			32
法隆寺	18件	3件を11種	17件	1件を2種	3件	1件			13
薬師寺	2件	1件を4種	4件	3件			2件	1件	63
興福寺	4件	2件を3種	17件	4件を7種	3件				25
室生寺	3件	1件を3種	3件						17
春日大社	1件	1件を7種			12件	2件を3種			23
元興寺	3件	3件を2種	1件	1件					100
新薬師寺	1件		2件	1件を2種					33
中宮寺			1件	1件を6種	1件				50



所蔵国宝がすべて切手图案になっている元興寺の切手3種  
元興寺は興福寺に近く、日本初の瓦が残る寺院

寺社について多い、城について表1に国宝指定の城(犬山、彦根)を加えて整理すると表3のようになる。寺社と2つの異なる点が考えられた。第1は建物の目的から当然であるが文化財関係が彦根屏風以外に切手になっておらず、寺社と全く異なっていた。しかも、文化財的観点よりも地域のランドマーク、観光資源のシンボルとして切手にデザインされている傾向である。逆に、国宝の犬山城、彦根城はシンボルとしては抵抗があるのか少ない。第2は切手の種類が圧倒的にふるさと切手に偏っていることであり、地域のシンボリックな存在として扱われている。(名古屋城は空襲で焼失した国宝名古屋城普通切手と名古屋開府350年切手の鯉をふくむ)

表3 城を描写した切手の分類

特定箇所	評価	切手			合計	対象物	
		ふるさと	特殊	普通		建築物	文化財
首里城	遺産	6	3		9	9	
名古屋城		4	1	戦前3	8	7	1
熊本城		7			7	7	
姫路城	国宝	1	4	2	7	7	
大阪城		4			4	4	
松本城	国宝	3	1		4	4	
彦根城	国宝	1	3		4	2	2
犬山城	国宝		1	国定1	2	2	

広重の浮世絵に描かれた城までを含めると約100種類の切手に城が描かれているが、70種類はふるさと切手であることも、地域のシンボルとして切手のデザインになっていることを示している。描かれている城は38ヶ所におよび、

ふるさと切手に限って整理するならば丸岡城、岡山城、伊賀上野城、岐阜城、小田原城、松江城などが表3に記載されるべき存在であった。

また、江戸城がその内部の文化財を含めて多く切手に描かれている。

次に、寺社の所蔵する仏像等に倣い、切手になった、トリミングされた絵画、工芸品等を所蔵する博物館、美術館等を整理して見たい。この



左 戦前は国宝指定を受けていた名古屋城 上 陽明門、富士山と風景切手になって文化財として位置づけられた名古屋城切手

東京国立博物館法隆寺館で常時見られる摩那夫人像  
左下 山種美術館所蔵 炎舞  
東京芸大所蔵 鮭

所蔵機関を知ることは最近の切手に関しては郵便会社のホームページ等で正確に知ることが出来るが、過去のもの是非常に困難である。日専カタログでさえ作品名、作者を知ることがやっとである。美術館で思わぬ切手の原画に遭遇することがある。せめて、切手になった作品リストを持って美術館巡りが出来ないか考えて、トリミングされた作品を所蔵する博物館、美術館等を調べた。まず、機関別に所蔵品数を整理した。すべてを確認してから検討すべきであろうが、とても困難であるので、289件で一つの試みとご容赦いただきたい。(表4. 寄託品も含む)

東京国立博物館、大名家関係博物館、都内の故人コレクションを公開した美術館の所蔵品が多く見られるが、東京国立博物館の所蔵品が圧倒的に多く、他の国立博物館の少ないことが注目された。徳川美術館は源氏物語絵巻、東京国立近代美術館、山種美術館、芸大

所蔵場所	所在	切手				合計
		ふりさと	通常	特殊	年賀	
東京国立博物館	東京	1	20	70	1	92
徳川美術館	名古屋	1		14		15
出光美術館	東京	1		13		14
平木浮世絵美術館	東京			13		13
東京国立近代美術館	東京			12		12
MOA美術館	熱海			11		11
宮内庁三の丸尚蔵館	東京			11		11
山種美術館	東京			7		7
東京芸術大学美術館	東京			7		7
林原美術館	岡山			5		5
個人			1	4		5
五島美術館	東京			5		5
永青文庫	東京			4		4
松井文庫	八代			4		4
大和文華館	奈良			4		4
逓信総合博物館	東京			4		4



美術館は近代美術シリーズ切手関係の作者の絵画、三の丸尚蔵館は伊藤若冲の絵画、出光美術館が酒井抱一の絵画を所蔵しているなど各機関の特徴が切手にも現れたことが表4の数字となっている。また、個人所蔵の文化財が数は少ないが切手にデザインされていた。更に、国宝の所蔵をみると(表5)、幾分、東京国立博物館の割合がひくくなっている。一方、徳川美術館が割合が高くなっているのは源氏物語絵巻の所蔵とそれに加えて宿木の部分が5種類の切手に描かれていることによる。特に宿木三(部分)は3種の切手にデザインされており絵画では見返り美人に次いで多く切手になっている。

表5 国宝の所蔵場所と切手数

所蔵場所	数
東京国立博物館所蔵	36
徳川美術館所蔵	11
五島美術館所蔵	3
大和文華館所蔵	3
MOA美術館所蔵	2
個人所蔵	2
出光美術館所蔵	2
彦根城博物館所蔵	2
根津美術館所蔵	1
静嘉堂文庫美術館所蔵	1
石川県立美術館所蔵	1
奈良国立博物館所蔵	1

最後に、美術館等をお訪ねの機会にポケットに持っていていただき、なつかしい切手を手にしていただければと思ひ所蔵品リストを載せておきます。多々、誤りがあるだろうと思います。ご教示下さい。本年3月の切手教室で配付されたレジュメを参考に追加、訂正しました。(編集子)

# 美術館・博物館で見られる切手リスト

## 東京国立博物館

種類	年	名称	文化財
普通	1939	第1次昭和	梅蒔絵手箱
特殊	1948	1948 切手趣味週間	見返り美人
特殊	1949	1949 切手趣味週間	月に雁
普通	1955	第1次円単位	八橋蒔絵螺鈿硯箱
特殊	1955	1955 切手趣味週間	ビードロを吹く娘
特殊	1957	1957 切手趣味週間	まりつき
特殊	1962	1962 切手趣味週間	花下遊楽図屏風
普通	1962	第2次円単位	風神
普通	1966	第1次ローマ字入り	はにわ馬
特殊	1968	第1次国宝シリーズ	普賢菩薩
特殊	1968	第1次国宝シリーズ	片輪車螺鈿蒔絵手箱
特殊	1968	第1次国宝シリーズ	平治物語絵詞
特殊	1969	第1次国宝シリーズ	秋冬山水図
特殊	1969	第1次国宝シリーズ	松林図屏風
特殊	1969	第1次国宝シリーズ	檜図屏風
特殊	1969	第16回 UPU 会議	文をよむ女
特殊	1969	第16回 UPU 会議	文読み
特殊	1970	万国博覧会'第2次	夏秋草図
年賀	1973	年賀昭和49年用	梅竹透釣燈籠
特殊	1974	1974 国際文通週間	松に鷹
普通	1974	第4次ローマ字入り	埴輪 挂甲の武人
特殊	1978	第2次国宝シリーズ	舟橋蒔絵硯箱
特殊	1978	第2次国宝シリーズ	納涼図屏風
特殊	1980	近代美術シリーズ	阿弥陀堂
特殊	1980	近代美術シリーズ	舞妓
普通	1980	花・貝・文化財	法隆寺金銅小幡
普通	1981	花・貝・文化財	法隆寺弥勒菩薩
普通	1981	花・貝・文化財	摩那夫人像
特殊	1981	1981 切手趣味週間	見立夕顔
普通	1981	花・貝・文化財	ハート型土偶
特殊	1981	近代洋風建築	表慶館
特殊	1981	近代美術シリーズ	麗子微笑
特殊	1983	近代美術シリーズ	無我
特殊	1983	近代美術シリーズ	老猿
特殊	1987	1987 切手趣味週間	化粧の女
特殊	1987	1987 切手趣味週間	髪漉ける女
普通	1989	花・貝・文化財	はにわ
特殊	1989	第3次国宝シリーズ	神人車馬画像鏡
特殊	1990	1990 切手趣味週間	星を見る女
特殊	1990	馬と文化シリーズ	芦穂蒔絵鞍
特殊	1990	馬と文化シリーズ	芦穂蒔絵籠
特殊	1990	1990 国際文通週間	鳥獣人物戯画
特殊	1992	日中国交正常化 20	色絵月梅図茶壺
特殊	1992	日中国交正常化 20	唐三彩龍耳瓶
特殊	1992	1992 国際文通週間	平治物語絵巻牛車
特殊	1992	1992 国際文通週間	平治物語絵巻弓
特殊	1994	平安建都 1200 年	観楓図
普通	1995	日本の自然	四季花鳥図巻下巻
特殊	1995	1995 国際文通週間	月次風俗図屏風
普通	1996	日本の自然	松鷹図
特殊	1997	1997 国際文通週間	隅田川堤雪の眺望
特殊	1997	1997 国際文通週間	四季花鳥図巻
特殊	1997	1997 国際文通週間	四季花鳥図巻
特殊	1997	1997 国際文通週間	四季花鳥図巻
特殊	1997	1997 国際文通週間	東海道五十三次
特殊	1998	1998 切手趣味週間	芥子

種類	年	名称	文化財
特殊	2003	郵政公社設立	四季花鳥図巻
特殊	2003	江戸開府 400 年	火事羽織
特殊	2003	江戸開府 400 年	市川団十郎竹拔五郎
特殊	2005	古今和歌集奏覧 1100	小野小町
特殊	2005	古今和歌集奏覧 1100	藤原定家
特殊	2006	2006 切手趣味週間	朝顔獅子図杉戸
ふる	2007	江戸と粋の浮世絵	姿見七人化粧
特殊	2008	源氏物語一千年紀	紫式部日記絵巻



個人所蔵ハート型土偶 三の丸尚蔵館所蔵 伊藤若冲画  
東京国立博物館寄託 紅葉小禽図  
三の丸尚蔵館

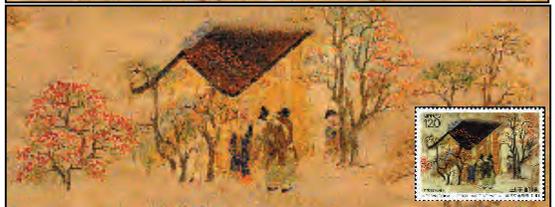
種類	年	名称	文化財
特殊	1990	馬と文化シリーズ	厩図屏風
特殊	1998	1998 国際文通週間	動植採集絵
特殊	2000	2000 切手趣味週間	龍虎図
ふる	2000	柳とカエル	小野道風
特殊	1993	日本ボルトガ友好年	南蛮人渡来図屏風
特殊	2005	2005 切手趣味週間	大鷄雄雌図

## 山種美術館

種類	年	名称	文化財
特殊	1979	近代美術シリーズ	炎舞
特殊	1979	近代美術シリーズ	裸婦図
特殊	1981	近代美術シリーズ	筍
特殊	1994	1994 切手趣味週間	ハナショウブ
特殊	1995	近代解剖教育	腑分け
特殊	1997	1997 切手趣味週間	醍醐
特殊	2008	2008 切手趣味週間	葡萄

## 出光美術館

種類	年	名称	文化財
特殊	1991	1991 国際文通週間	伴大納言絵巻
特殊	2003	江戸開府 400 年シリーズ	江戸名所図屏風
特殊	2007	郵便民営会社発足記念	十二ヵ月花鳥図屏風
特殊	2007	郵便民営会社発足記念	四季花木図屏風



出光美術館所蔵 伴大納言絵巻

### 東京芸術大学美術館

種類	年	名称	文化財
特殊	1965	1965 切手趣味週間	序の舞
特殊	1979	近代美術シリーズ	慈母観音像
特殊	1979	近代美術シリーズ	収穫
特殊	1980	近代美術シリーズ	鮭
特殊	1981	近代美術シリーズ	一葉
特殊	1991	馬と文化シリーズ	春暖

### 東京国立近代美術館

種類	年	名称	文化財
特殊	1968	1968 趣味週間	舞妓休泉
特殊	1972	1972 趣味週間	気球揚る
特殊	1974	沖縄海洋博覧会募金	荒磯
特殊	1979	近代美術シリーズ	もたれて立つ人
特殊	1979	近代美術シリーズ	金蓉
特殊	1980	近代美術シリーズ	母子
特殊	1980	近代美術シリーズ	女
特殊	1982	近代美術シリーズ	サルタンバンク
特殊	1983	近代美術シリーズ	雪柳と海芋に波斯の壺
特殊	1988	1988 趣味週間	長襦袢
特殊	1991	1991 趣味週間	序の舞
特殊	1992	1992 趣味週間	榻上の花



東京国立近代美術館所蔵 平福百穂画 荒磯

### 逓信総合博物館

種類	年	名称	文化財
特殊	2007	郵便民営会社発足記念	郵便現業絵巻



逓信総合博物館所蔵 郵便現業絵巻 第5図 東京郵便電信局の郵便為替貯金窓口ロビー

### 徳川美術館

種類	年	名称	文化財
特殊	1963	1963 趣味週間	千姫
特殊	1989	1989 国際文通週間	源氏物語絵巻竹川
特殊	2003	江戸開府 400 年	花色日の丸威胴丸具足
特殊	2003	江戸開府 400 年	初音蒔絵硯箱
特殊	2003	江戸開府 400 年	能面「中将」
特殊	2008	源氏物語 1000 年	紫式部日記絵巻

### MOA 美術館

種類	年	名称	文化財特殊
特殊	1969	第1次国宝シリーズ	紅白梅図屏風
特殊	1977	1977 趣味週間	機織図屏風
特殊	1979	相撲絵シリーズ	大童山土俵入り
特殊	1986	国際図書館連盟会議	浮世絵
特殊	1994	1994 国際文通週間	士女遊楽図屏風
特殊	1969	第16回 UPU 会議	文をよむ女

### 永青文庫

種類	年	名称	文化財
特殊	1968	1968 趣味週間	髪すき
特殊	1979	近代美術シリーズ	黒き猫
特殊	2007	2007 趣味週間	猪図



徳川美術館所蔵  
花色日の丸威胴丸具足  
平木浮世絵美術館



永青文庫所蔵  
森一鳳画 猪図

種類	年	名称	文化財
特殊	1998	1998 国際文通週間	著色花鳥版画
特殊	2003	2003 国際文通週間	東海道五十三次

# 落語に切手を想う

小川 義博

小学生の頃より、上野鈴本に連れられ、切手研時代は大隈講堂で二つ目時代の志ん朝、朝太のきわどい噺をきき、人間の楽しさを感じさせてもらい、落語でどれだけ生活を豊かにさせてもらったか感謝しつつ老いを迎えた。ふり返って、落語と切手という言葉を考えて時、切手を集めてきた頭に浮かぶことがあります。切手収集をなつかしみ、忘れていたことを思い出させてくれる話でお時間、紙面をちょうだいいたします。

初めに、切手という言葉で浮かぶのが「文七元結」という古典落語の噺です。

大店の奉公人が金を盗まれたと大川に身を投げようとしているのを見つけた左官屋長兵衛、娘が吉原に身を預け、つくってくれた50両を与えて命を助ける。翌日、大店の鼈甲問屋の主人がだるま横丁に住む長兵衛へお礼に持参するため、酒屋で“五升の切手をこさえて下さい”という件を志ん生が小学生の耳に残したのが永いこと頭の片隅に宿っていた。

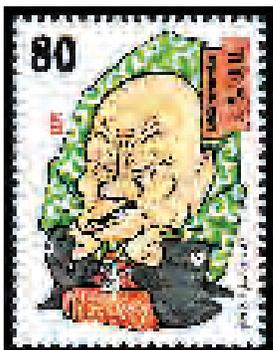
やがて、この切手が郵便切手でなく、商品券の切手であることを偶然、老舗の菓子屋の友人から教わった。通行証としての切手は知っていたが、商品券としての切手は知らないでいた。この商品券としての切手、そばや、菓子屋の切手が一般的で戦前まで、あった様であることを知り、無知を恥じた。

2番目は現在活躍中の柳家小三治の釣にまつわるこっけい噺「野ざらし」。釣道楽から本題に入っていくまくら部分で我々フィラテリストには幼い頃の情景をなつかしく思いださせてくれる切手収集の出発点ともいえる情景を描写、表現している。え～しばらくの間お付き合ひ願います。

この～よく我々の方では道楽なんてことを申し上げておりますが、近頃はあまり道楽という言葉は使いませんな、なんていうかという趣味っていいです。いい言葉ですな、。この趣

味っていうの、道楽っていうのはどうも。あのやろう道楽者だななんていわれるとなんか面目ないですけど。あの方、趣味人ですななんていうと、急に天皇陛下に会いたくなったりなんかしてこりゃ同じことだろうと思います。いろんな趣味道楽っていうものがあります。

え～ そうですな 子供の時にだれでも一度はやっただろうという趣味といいますて～と、この～切手集める趣味なんて～のは これはたいがい一度はやったことがあるじゃないかと思ひますな。あの切手を集めるのも子供の頃は自分で買うなんて～わけにはいかないかいから、おっとつあんのとこにきた手紙だとか、あるいは またオネ～チャンのとこにきたラブレタ～なんてものを、またラブレタ～なんて～ものは なんですな なんとか 相手の気にとりこもうと 思うから なるべく、近頃は使われてないような古くてめずらしい記念切手みたいなのを ベタバタ貼りあわせて まずそこから取り入ろうなんてんで、もっとも、たいがいこういったラブレタ～は成功したタメシはないようですが、そういうのが来るんですな そうつすと、これ オネエチャンのいない間に失敬して台紙ごと切り取ります。おっとつあんの封書も台紙ごと切手を切り取ってそれからその～ガラスのコップの中に水を満たしてこれへ こ～つけておくんです。水が滲みくるてえ～と切手と台紙がだんだん こお～はがれてきます。早くはがれないかな～ と無理やりはがすて～と ベリベリとやぶけちゃう それで 自然とはがれるのをじ～と待っている。ガラスのコップ越しに見ているうちに小さなあぶくが切手の角のところにちよいとどまったりする。これを台紙ごと掴んでちよっとゆすってやると ゆすられて あぶくがブクブクと上へのぼってく、ああ～ 早くはがれないかな～ なんて 待っている。そういうところが まあ～、一つの楽しみですな。ですから、楽しみというのはなんにでもあるんです。なんでも、みんな楽しみになるんです。切手を集めりゃいいってんでなく、それで、やっときさ、ガラスの中のコップ あの、その、なんですな コップの中の 早いはなしが コップの中の切手が



はなれてくると いそいそと こいつを つまみ出して ガラス窓のどこへもってって、ペタッと はっつけておく はっつけておきたって、これなかなかむずかしいですな 絵のほうをはっつけておく、のりのほうを はっつけておくと えと こうなるってえと ガラスの窓ごと コップにつけなきゃ～なりませんから  
こりゃ～絵のほうをはっつけておく これを 乾くてえ～と、自然に ハラッととはがれます。はがれた時に ちょうどそこに 居合わせなくて 窓から風がふきこんで その風に乗っかって どっかへ飛んでちゃったりなんかして どこまでいったのかな～なんてきがしに歩く、これもひとつの楽しみですな ですから 楽しみって～のは どこにでも あるんです。こいつを え～なんてしょう 乾かしたやつは ボール紙の上にブーブ～紙をはっつけたような、なんていうですか、切手蒐集帳っていうんですかな、ああいうののために 友達に見せ合ったりする。これも一つの楽しみです。

釣の好きという。この釣好きの人・・・  
このはなしのいくつかの部分になつかしさを感じる方が多いと思います。自分もコップに切手をつけて、母から不潔なことと、おこられたことを思い出します。

更に、この柳家小三治が切手収集をまくらに話しているものがありました。女道楽で勘当された若旦那が船頭になり引き起こす噺「船徳」のこれも道楽から本題に入るまくらのところで  
・・・と 勘当ってことになります。勘当される道楽ですから、こりゃもう おんなの子って相場はきまっています。そのほうがたちがよろしいですね。勘当された時に おんなの子の方が  
”おまえ勘当だっていうじゃない”  
”なんで え？” ”これか？” (小指を立てる)  
”えっ これ！”  
”これだってよ～”  
”やったね～”  
なんてえなこといいましてね。  
これでないといけません。  
”勘当だっていうじゃない”  
”なんで？”  
”切手を集める趣味が高じて・・・”  
なんてえのは なんか どうも・・・

柳家小三治落語全集 DVD 第3巻

永らく落語に親しんでいるが高座で切手収集に触れているのはこの小三治師匠しかいないようです。この小三治師匠が おや？ もしかすると我々収集癖？を持つ者に近い生活を送ったことがあるのではと、強く思わせた落語会に出くわしました。本年4月に「粗忽長屋」のこれもまくらで、二つ目時代、板垣退助の百円札が百円玉に切り替わる時、北陸のいくつかの町を歩いて百円の札束をやっと4束(4万円)手に入れた。ところが、今となっては少しも苦勞が裏らないという愚痴とも反省ともつかぬ話。

このようなことから、小三治師匠は現在はお～トバイ、はちみつ、お塩等かも知れぬが、若かりし頃、切手収集に熱を上げたのではないかと思います。

もし、小三治師匠に切手収集に熱心な少年時代があったとすると、新宿柏木が住まいであったことから、戸塚スタンプ、原宿のフクオあたりで知らずに顔をあわせていた諸先輩がいたのではとも考えます。

また、落語にのめり込んでいると思わぬ郵便関係の珍事を知りました。

処は大阪阿波座中通り壱丁目に寄留する島根県人菅原という者、郷里の者に大阪朝日新聞を第三種郵便物として五厘切手を貼り送るに際し僅かの郵税を俟約しそのしたたみあらわ帯紙の裏へ信書を認め、発覚されては一大事と薄き朱にて交叉の線を引き、こうさへして置けば発覚しても大事はないと両度まで送りしを郵便局にて発見されて告訴の末五月九日大阪地方裁判所に於て重禁鋼二十五日罰金五円監視六ヶ月を言い渡され…  
(『団団珍聞』明治二十九年五月二十三日付)

落語手帳 江國 滋 ちくま文庫

この事件を著者は「ケチの酬いの最高傑作の記事ではなからうか。重禁鋼二十五日、罰金五円、監視六カ月。これが一文惜しみの報酬というのだから恐れ入った判決である。何よりも、実際に起った出来事である点がたまらなくおかしい。落語の誇張も、現実の面白さの前には、ついに及ばないとぼくは思うのである。」と書いている。この貼られた切手は旧小判ではと考えたりするのも楽しい。これからも、落語的な生活を送りながら、切手をそれとなく気にかけていこうと考えます。

「野ざらし」の噺が聴きたい方は y-ogawa@wine.plala.or.jp まで連絡下さい。





# 稲門フィラテリー

第 38 号

2010 年 12 月 1 日発行

## 人力車が教えない浅草の 1 年

住吉 忠男

2010 年 5 月に偶然の出会いが 2 つありました。1 つは 16 日に三社祭で町会神酒所に詰めていたとき、そこに私がいることを知らないで野島君が神酒所に寄ってくれたこと、もう 1 つは 31 日に J R 日暮里駅構内で、これから南イタリアへ旅行に行く大年君ご夫妻と会ったことです。この日は 5 月申告の提出最終日で、お話も出来ず「元気？いつてらっしゃい。」でお別れしてしまいましたが、半月のうちに二度も数秒・数分の一致でこういうことがあるのだと実感しました。

ということで、会報では 50 年ぶりにお祭りとのこと、浅草のことを書かせていただくことになりました。ここでも切手研究会のコンパのときに、大谷先輩と「浅草は見る街、買う街、食べる街」と浅草の PR をしていたことを思い出しています。



ふるさと切手 浅草雷門とゆうペーン

三社の氏子は、お祭りが終わり、直会（なおらい）が終わると、その日から来年のお祭りはどうなるのだろうと考えています。1 年のカレンダーは 5 月 19



日に始まり、5 月 16 日に終わります。17・18 日は祭以外のことは何も考えていません。ただ、本来の御祭礼は 5 月 17・18 日なのですが、交通規制の関係で、現在はこの日にいちばん近い土・日曜日に行われています。2011 年は 5 月 20 日（金）・21（土）・22 日（日）です。



御神酒所前で 野島会員と記念に

2010年は

5月14日(金)

午前 8時00分 神酒所の飾り付け  
午後 1時00分 三社大行列 東京浅草組  
2時20分 びんざさら舞  
拝殿・神楽殿  
3時30分 各町神輿神霊入の儀 社殿  
5時00分 近隣町会挨拶回り  
6時30分 宵宮・無事に出来るよう  
祈って宴会

5月15日(土)

午前 10時00分 浅草神社大祭式典 社殿  
11時00分 各町神輿連合渡御  
午後 3時00分 振袖学院奉納舞踊  
神楽殿  
5時50分 宵渡御

5月16日(日)

午前 5時00分 浅草神社本社神輿渡御  
集合  
5時20分 浅草神社本社神輿渡御  
担手(かつぎで)入場  
6時00分 浅草神社本社神輿渡御  
宮出し  
午後 7時30分 浅草神社本社神輿  
一之宮宮入り  
8時00分 浅草神社本社神輿  
二之宮宮入り  
8時30分 浅草神社本社神輿  
三之宮宮入り

5月17日(月)

午前 8時00分 神酒所の後片付け  
午後 4時00分 直会・反省会という宴会

というスケジュールで行われました。例年ほぼ同じです。

本社神輿は一之宮・二之宮・三之宮があり、日曜日に東部、南部、西部の各町に分かれて渡御します。順路も1年おきになるので、同じ宮神輿が同じ方向に向かうのは6年周期です。

2000年1月12日発行のふるさと切手に三



ふるさと切手 21世紀に伝えたい東京の風物

社祭がありますが、この図を見ると神輿に鳳凰がついているので一之宮だということが分かり(二之宮と三之宮は擬宝珠)、提灯に雷門とあるので神輿が仲見世から出てきたことが分かります。提灯の裏側には風雷神門と書かれています。もう1つ付け加えれば、この日は提灯の下を神輿が通れるように提灯が上げられていて、切手のようにはなっていません。提灯が上がっているのは御祭礼のときと、台風のときだけですので、1年のうち数日しかありませんから気をつけてご覧下さい。この切手の場面が見られる一之宮が南部各町を渡御するのは、今度は2012年、その次は2015年になります。

また、平成24年(2012)は、三社祭が正和元年(1312)に斉行されてから700年に当たりますので、3月18日に船渡御が予定されています。これは、明治の時代からでも昭和33年(1958)の浅草寺本堂落慶のとき1回行われただけの行事ですので、きわめて珍しいことです。

浅草寺に伝存の「浅草寺縁起」によると、推古天皇36年(628)3月18日に郷族檜前浜成、竹成兄弟が江戸浦・宮戸川で漁労中、一体の仏像を投網の中に発見しました。その像を郷司土師中知が拝し、聖観世音菩薩の尊像であることを知り、お堂をつくって供養したのが浅草寺の草創と言われています。この三名を主祭神としたのが浅草神社・三社様で、社殿は慶安2年(1649)再建、重要文化財に指定されています。

氏子は44ヶ町から構成され、今も地名で残る雷門・駒形・寿・花川戸・千束のほか、仲見世・浅草公園・芝崎・光月・清島・馬道・象潟・猿若・聖天など由緒ある名前が町会名として残っています。

雷門東部町会でいえば、年間会費収入500万円と祭礼奉納金250万円のうち370万円がお祭りの費用で、2日間で使い切ります。どこの町会も同じようなことをやっているのです、これに町会数である44倍したのが、おおよその三社祭礼費です。

7月になると9・10日に四万六千日 ほおずき市、最終土曜日に隅田川花火大会があり、どちらも切手が発行されています。

四万六千日は、この日に観音さまにお参りすると46,000日お参りしたと同じ功德がある日



ふるさと切手  
入谷あさがお市 浅草ほおずき市



ふるさと切手 隅田川花火大会

で、この日数は126年になります。境内にはほおずき店が並び賑わいますが、本堂ではこの日だけ雷除けのお札が授与されますからお求め下さい。

2002年6月28日発行のふるさと切手は、6-8日の入谷あさがお市、9-10日の浅草ほおずき市が連刷されていて、どちらも下町夏の風物詩です。

隅田川花火大会は桜橋の第1会場、駒形橋下流の第2会場2カ所で打ち上げられます。1999年7月1日発行のふるさと切手は、厩橋と蔵前橋の間から上流の第2会場を見ています。地元町会では、役員が手分けをして警備をします。今年の開催日も暑かったので、街中「ゆかた」であふれました。おいでになる方は、皆さん川縁に座って花火見物できているらしく、ケータイが混雑で全く通じなくなること相まって、大混乱になりました。でも、いくら今年が暑かったからとはいえ、ゆかたを1982年8月5日発行「あやめの衣」のように着ているお嬢さんが現れたのには、かなりびっくりしました。



近代美術シリーズ 岡田三郎助  
おやめの衣・古き昔を偲びて

8月最終土曜日に浅草サンバカーニバルがあります。暑いさなか、見物人が朝9時から道路に座っていて、大丈夫かと心配です。どうしてもご覧になりたいときは、午後2-3時頃から馬道通りへおいで下さることをお勧めします。

10月秋の観光祭、11月3日の東京時代祭・白鷺の舞、12月17・18日の羽子板市・歳の市と続き、大晦日弁天山の除夜の鐘で1年が終わります。

年が明けて初詣。最近どこの寺社でも同じですが、お参りするのに長時間行列します。浅草に着くのが、元日午前0時お昼過ぎになるときは、かなり時間の余裕をとっておいで下さい。浅草公会堂では、新春浅草歌舞伎を公演しています。

2011年2月27日に東京マラソンがあります。マラソンの折返点は、普通同じ道に戻りますが、東京マラソンの浅草雷門折返点は、日本橋方向から来て、駒形→雷門→吾妻橋西詰→駒形と一周して折返します。このため、わが家の前でマラソンを見物できますが、当日は約6時間地下鉄の駅構内か地下駐車場を通らないと外へ出られない陸の孤島になります。この日だけは火事を出すなど、きついお達しが消防署からあります。

3月春の観光祭、18日は浅草寺本尊示現会・金竜の舞です。

4月お花見、早慶レガッタ。1981年3月10日発行の日本の歌シリーズ「花」は切手の図柄には出てきませんが、歌詞から浅草の切手に入れてよいでしょうか。早慶レガッタは、毎年学校から総長が応援にみえて、終了後台東稲門会主催の「勝っても負けても祝勝会」をやっています。2005年には古怒田先輩が漕艇部O



日本の歌 花

Gで漕がれました。

29日(2010年は26日)に泣き相撲があります。本堂の裏手に1986年11月3日九代目市川團十郎(切手は文化人切手として1950年9月13日発行)の「暫」銅像が復元されました。その法要に併せて、子供が鎌倉権五郎のように力強く健康に育ってほしいという願いをこめて行い、十二代目市川團十郎も審判として参加します。元気よく泣いたほうが勝ちです。

5月5日には宝の舞があり、もう浅草の街はお祭り一色です。



九代目市川團十郎



大谷先輩からの昭和33年用年賀切手犬はりこ 実遞初日カバー



昭和33年用年賀切手犬はりこ 初日カバー



仲見世・助六で販売する江戸趣味小玩具宝珠の猪がデザインに採用された平成19年用年賀切手

浅草に関連した切手は上記のほかには、まず1996年8月8日発行のふるさと切手浅草雷門があります。雷門は、いまや東京・日本を紹介するときに度々登場するシンボルですが、慶応元年(1865)に焼失してから、昭和35年(1960)に再建されるまで95年間ありませんでした。

1957年12月20日発行の昭和33年用年賀切手犬はりこも浅草の切手です。市販の初日カバーと、当時雷門郵趣会を主宰していた大谷先輩作成の初日カバーをご紹介します。

2006年11月1日発行の平成19年用年賀切手宝珠の猪も仲見世・助六で販売している江戸趣味小玩具がデザインに採用されました。

この他に浅草が地下鉄と縁が深いことを示す切手があります。

1977年12月6日発行  
地下鉄50年 浅草駅

2000年1月21日発行  
20世紀デザイン切手第5集  
地下鉄開業



地下鉄開業時の4駅（浅草、田原町、稲荷町、上野）のうち、上野駅はホームがカーブしているので図と合わない。まさか途中駅ではないでしょうから浅草駅と考えられます。



そして、昔の浅草が描かれた

更に、浅草が東京一賑やかであったことを偲ばせる切手も発行されています。

- 1999年 8月23日発行  
20世紀デザイン切手第1集 電気館開業
- 1999年 12月22日発行  
20世紀デザイン切手第4集 関東大震災

- 1982年 4月20日発行  
切手趣味週間 待乳山の雪見
- 1997年 10月 6日発行  
国際文通週間 隅田川堤雪の眺望
- 2007年 8月 1日発行  
ふるさと切手 名所江戸百景 浅草金竜山  
など、いろいろな切手があります。



2010年11月に浅草寺本堂平成大営繕も終了し、2012年にはスカイツリーも完成して、浅草の至る所、特に隅田公園からよく見えますので、あの切手はここからの景色だと発見しながら、浅草の街をお楽しみ下さい。お待ちしております。



三社祭をお楽しみ在住吉会員とお孫さんとおかあさん  
野島会員撮影

# 切手に描かれた建物

占野 靖長

切手には数多くの建物が描かれているが、これを整理、分類するにはどうするか。

建築を学び、建物を実際に作る施工に従事してきた私なりに、日本切手に描かれた建物を整理してみた。

建物切手の発行状況を見ると、普通切手、記念切手、国立公園・国定公園切手、ふるさと切手には、古い寺院から現在の最新のビルまで、非常に広い分野の建物が描かれている。

私は欧米の近代技術が入って来てから建てられた近代・現代の建物切手を収集の目的とし、日本在来の木造建築の神社・寺院等の宗教建築、城、民家等は除く事とした。

この様な考えで発行された切手が普通切手、記念切手、国立公園・国定公園切手、ふるさと切手に何枚あるかまとめて見ると次のようになる。

発行状況から見ると戦前のものは少なく、戦後の記念切手、ふるさと切手の分類が主な作業となった。

表1 種類別にみた建物切手数

普通切手	4種	水力発電所 ガランビ灯台 3種
記念切手 (戦前)	11種	通信省庁舎、日本赤十字、赤坂離宮 関東庁庁舎、国会議事堂
記念切手 (戦後)	132種	
国立・国定公園切手	6種	すべて灯台切手
ふるさと切手	71種	



普通切手では貴重な建物切手  
ガランビ灯台・台湾(他に2種)

表2 記念切手に描かれた建物所在地の都道府県

記念切手	東京 56	大阪 7	神奈川 5	北海道 4	他 22 府県
ふるさと切手	東京 16	神奈川 5	北海道・大阪・沖縄 4	他 23 府県	

建物の所在地は東京が圧倒的に多く、特に記念切手は東京に集中している事が判る。

記念切手で一番多いスタイルは建物の完成・竣工を記念したもので、最初の切手は帝国議会議事堂竣工記念(昭11)で、その後昭和35年の尾崎記念館から昭和60年頃まで18枚発行されたが、その後この形は影をひそめた。

次に多く発行されたのは組織の創立・開設・政策開始〇〇年記念という形で関連建物を図案に



最初と最後の建物の完成・竣工切手



最初の建物切手

取り入れている。大正10年の郵便創始50年(通信省庁舎)が最初で、25年、30年、50年、75年、100年、150年、350年、500年記念というものもある。

この種の切手には100年記念切手がかなり発行され、慶応義塾100年、北海道、灯台、科学博物館、商工会議所、中央銀行など明治以後の100年を祝って発行されたものである。

議会開設70年記念切手(昭35)が発行され、その後80、90、100、110年と同一テーマで10年ごとに5回も発行された。図案はすべて国会議事堂が使用され、このような連続発行には意味があるのだろうか。(この会報が発行される頃は120年とい



う6回目の切手が発行されるという)

この他に国際会議開催の記念切手、博覧会、スポーツ大会の切手があるが、建物切手としてあまり良いものは無い。戦後50年メモリーシリーズ、20世紀デザイン切手シリーズの中に建物が描かれているがシリーズ自体の意味がはっきりせず、建物切手として楽しめる物が少ない。「近代洋風建築シリーズ」は建築をテーマにしたよい切手である。

ふるさと切手は地方自治体単位の発行なので記念切手とは異なり地域を代表する建物、古い建物、最新の建物が描かれているが、発行の目的が希薄なものが多い。国体の競技の背景の体育施設はまだ良いが、花切手の背景の建物や灯台などは、その地域と花とどう関係があるのか疑問に思うものが数多くある。



記念切手で一番多く使われた建物は国会議事堂であった。・・・19枚

切手の整理にあつては、建物の種類も種々雑多で系統的な分類は無理なので下記のようにした。

国会議事堂 国所有建物 天文・気象 劇場 美術館・博物館 大学 空港 灯台 電気塔(タワー) スポーツ施設 博覧会 超高層ビル 丸ノ内エリア 東京湾エリア 外国建物 その他



**私の選んだワースト切手**

- ・大阪城とビジネスパーク (平 4).
- ・FDC を見て初めて図案の意味が判る。
- ・14 回世界観光機関大阪大会 (平 13)
- ・1 枚の切手に南大門と道頓堀川とビル街を描くことに無理がある。



**私の選んだベスト切手**

- ・東京開都 500 年 (昭 31)
- ・日本開港 150 周年横浜港夜景 (平 21)
- ・さいたま新都心 (平 12)

東京開都 500 年記念切手は印刷も素晴らしいが、戦後の丸の内有楽町の民間のビル街が描かれ、図案的にも優れている。国の施設が多い



下 開都 500 年切手の半世紀後の景観



建物切手の中で数少ない街区を描いた切手である。日比谷交差点にある日比谷日活ビル (現ペンシエラホテル) の新築時、当時はめずらしいケーソン工法 (地上で地下の外壁部を造り中を掘りながら自重で埋めていく工法) を子供の頃に見て、高さ 10m もあるコンクリートの箱が次に見た時無くなっており、私が建築への興味を持った原点の建物である。



大学は建物が象徴？

# 稲門フィラテリー第11回総会報告

額賀 健

総会会場の外には相変わらず食べ物の屋台が並び、活動資金を期待し学生が声をからし、海老茶色の紙製角帽をかぶった老人達が若き頃の思い出を求め歩いている例年のホームカミングデーのキャンパス。銅像の横、7号館2階で稲門フィラテリー11回総会は30名弱の出席者で始まった。

配布資料 ①総会次第 ②平成22年度活動報告、23年度活動計画 ③平成22年度会計報告(平21・10・1～平22・9・30)、23年度予算(案)、監査報告書 ④役員(案) ⑤会員名簿(全99名 新会員 榎沢祐一) ⑥その他(稲門フィラテリー10周年記念 i. 手彫切手の楽しみ ii. カラーCD 稲門フィラテリー1号～37号)

## 総会次第

1 開会宣言(諸田幹事)  
2 小西会長挨拶(要旨) 切手蒐集を趣味とする人は年々高齢化している。切手を扱う商売は今やダイニングビジネスと言われる。しかし、若いころ熱意を持って切手を集めた仲間がこうして集まってお互いの健康を祝し、人とのつながり確かめ合えるのはうれしい。切手蒐集は一人でも楽しめるし、また、大勢でも楽しみ合えるものである。切手蒐集を趣味に持ってよかったと思っている。

## 3 議事

①平成22年度活動報告(会長)(概要)・講演会「早大切手研究会と私の切手人生」(稲葉良一) 21/10/18 ・会報発行4回(第34号～第37号) ・見学旅行「群馬の近代産業遺

産見学の旅」(旧富岡製糸場[国の重要文化財・世界遺産暫定リスト登録]や土屋文明記念館など見学) 22/4/16,17 ・切手教室開催9回(現在、話の種切れ状態で、講師募集中) ・稲門フィラテリー常設展開催5回(新宿北郵便局ロビー) ・10周年関係「早大切手研究会会報」全号、「早慶合併号」全号、「稲門フィラテリー会報」1～30号を大学図書館に寄贈 「稲門フィラテリー会報」1～30号の製本合本を切手博物館に寄贈 ・新宿北郵便局風景印図案変更提案(磯野さんの尽力で藪野健氏の図案にて変更成り、10月15日より使用、17日のホームカミングデーで大隈講堂の切手に15日付けで押印されて発売)

②平成23年度活動計画(会長)(概要)・

講演会「日本切手データベースで切手偏見」(小川義博) 22/10/17 ・季刊4号発行(現在、特定の2～3人が書いている状態で、このままでは年2～3回に減らすことになるかもしれない) ・見学旅行開催1回 ・切手教室開



大隈講堂前での応援部のデモンストレーション

催9回 ・常設展開催 年5回展示替え ・10周年関係「都の西北 郵便から見た早稲田大学史」展 22/10/17～11/7(早稲田ギャラリー) 「手彫切手の楽しみ」(坂下泰一)の冊子、「稲門フィラテリー会報」(全号)のカラー電子化CDを会員に配布 「早大切手研究会会報」(全号)を電子化し保存

③平成22年度会計報告(石井) 収入220,030円(うち、寄付金 藤原忠夫8000円、小熊忠三郎3000円) 支出295,954円

前年度繰越金 108,0521 円 次年度繰越金 1,004,597 円

④平成23年度予算(案)(石井幹事) 収入 200,000 円 支出 505,000 円

⑤平成22年度会計監査報告(坂下幹事)

⑥役員 会長(小西) 顧問(大杉・花本・金井) アドバイザー(吉沢・小熊) 総務(磯野・諸田・青柳・稲田・木元) 会計(石井・小川) 編集(吉沢・池澤) 部会(宮鍋・野島・府川・村井) 会計監査(坂下・住吉)

※稲田・村井は新役員、小川は編集から会計へ以上、異議なく承認されました。

#### 4 閉会宣言(諸田幹事)

#### 講演会

演題 「日本切手データベースで切手偏見」

(講師 小川義博)

(概要)「日本切手データベース 2010年版」

現在までの日本切手の発行は約5600種。今年の発行予定は367種。



小川会員によるデータベースの講演風景

検索方法 基本検索(四つの文字または言葉)と特定検索(印刷様式や発行年など)。

例えば、基本検索で、「国際文通」と四文字を打てば、関連する画像のすべてが確認できる。

1年で1種発行の年もあれば、6種発行の年もある。額面も24円～150円とバラツキが確認できる。広重の「東海道五十三次」は34種、北斎の「富嶽三十六景」は17種が発行されている。今年から美人画も発行されるようになった。このように知りたい情報がたちどころに分

かる。

また、絵画などの美術品を図柄とした切手はその原画と比べることによりいろいろなことが見えてくる。屏風絵の一部分を採ったもの、更に原画をいじって改変したもの、例えば蝶と花の空間を縮めて切手の枠に収めるようにしたもの、また、部分と部分とを切手の一つの枠の中に収めるようにしたもの、などなど。もちろん、原画も見られるようにしてある。

次に、特定検索で、発行年、「1956年」と打つと、その年に発行された全切手が出る。このころの切手はデザインも手作りで、切手の形も1:1.6の黄金比なども考えられているようだ。それに比べて最近の切手は写真をちょっといじっただけのようなものが多く、切手の形は長方形でも正方形に近いものが主流のように思われる。

その他、シート構成のいろいろ、気になる目打ちの問題、ふるさと切手の発行形態、印刷方式、横文字表記のある切手など、いろいろ検索して楽しめる。

(雑感)年1回の総会にも出たり、出なかったり。今年は同期の小川が講演をするということで、重い腰を上げてきた。来た甲斐があった。電子画像の話が面白く、これがあればいろいろな楽しみ方が出来ると思った。小川自身、後日、最近、切手を見るよりも電子画像を見る時間のほうが多くなったと言っていた。パソコンを駆使する彼ならではの作品で、パソコン初心者の私には思いもよらない。

このところ切手蒐集もご無沙汰で、山歩きの趣味のほうが先行している。4月、エベレストの展望台カラパタール、5月、中国の泰山、6月、スイスのアルプス、9月、カラコルムのK2ベースキャンプへとトレッキングに夢中。でも、原地から切手を貼って自分宛に出したり、国内では山行きの途中、郵便局を見かけると車を止めて風景印をおしてもらったりなど、そういう習性はいまだに抜けない。このようにあまり熱心でない会員である私に、小川が総会報告を書けという。任ではないと思いつつ、パソコンに向かったしだい。ご容赦ください。

## 「都の西北 郵便から見た早稲田大学史」展から

池澤会員が2007年のスタンプショーに展示し、会報25号で紹介した「都の西北 早稲田大学125年のあゆみ」展示内容に新たな展示品を加えたものと早大切手研究会を回顧する切手研究会時代の会報、展覧会の案内、写真の展示、それに加えて、毎度おなじみ早稲田祭記念絵はがきを展示した。展示内容が地味であることもあり学生諸君の関心を引くことはかなり難しい展示会であった。一方、かなり年配OB,OGの方々や大学職員には興味を持つ方もおられ、熱心に鑑賞される姿も見られた。しかし、全般に来訪者は少なく日に14、5名といった感であった。期間中4日ほどあった大学見学会キャンパスツアーの待機場所になるときはあふれんばかりの人であった。この中で若い人の漫画絵はがきに対する反応は今後の展示を考

えさせるものであった。有名な漫画家の絵はがきの漫画のかもしれないが、雰囲気を知っている世代は感じ取れても大部分の来訪者には感じ取ることにはできない。漫画家の漫画を2、3でよいから絵はがきと一緒に展示するなどの工夫が求められているように感じた。また、10周年記念を銘うっているのであるから、現在の稲門フィラテリーの活動の紹介、切手収集の面白さ、楽しさを伝える展示がもっとあってもよかったかと思われた。

省みることはいくつかあったが、この展示会を開くにあたり努力された会員、そして、19日もの長期間の開催を支えた多くの会員の協力は素晴らしいもので、稲門フィラテリーの力を感ぜさせるものであった。これからの稲門フィラテリー10年の礎となる展示会となったと感じた。  
(編集子)



早稲田ギャラリー前の立看板



初日は会員でにぎわい そして 空きぬ話は懇親会へ



約30名集う高田牧舎の懇親会  
年々天井の明るさが.....

稲門フィラテリー長老の方々  
お話が長くなるようで



大学見学会キャンパスツアー時の混雑





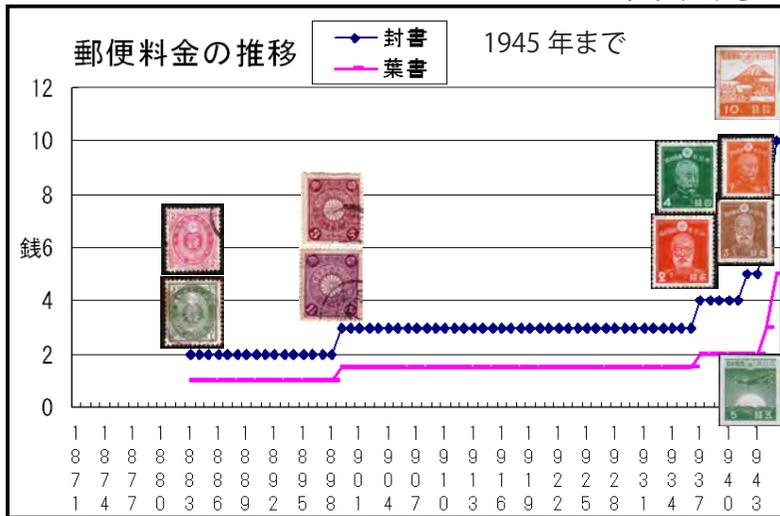
切手教室で宮鍋会員が配付された郵便料金変遷表を参考に左下のようにグラフにしてみたが、手彫切手初期の料金は統一されていないので換算は難しい。そこで、消費者物価指数、公務員給与、うどん料金等から換算を考えたが、明治初期の資料が存在しなかったり、比較が昭和30年代であったり、意図する資料が見つからなかった。江戸、明治から現代までの価格資料が存在するのは米価であるので米価を明治初期の換算に使用し、米価と封書郵便料金の2つの側面から手彫切手均一料金時期以降の換算に使用した。(参考資料 三条信用金庫発行「天明後米1俵価格表」ほか)

会報37号坂下会員の原稿を編集する中で美しい手彫鳥切手45銭を見ながら、ふと、この切手は今の貨幣価値に換算してどのくらいの額面価格の切手なんだろうかと、また、外国料金表をみて今と比べるとかなり高額になるであろうことを想像し、現在の料金と具体的に比較してみたくなった。また、明治後期から戦前までの高額切手のイメージを把握したいと思った。

現在の貨幣価値に換算する方法としては郵便料金表から換算する方法があることから27回

封書郵便料金が現在の80円の料金に決まった1994年の米価1俵16392円と封書郵便料金80円を基本として過去のそれらの価格を何倍したら基本の値になるかを計算してみた。但し、明治初期の米価の変動が大きいので7年間の移動平均を算出した値を含めて右のグラフにしてみた。

グラフから1910年代始め(大正初期)まで



は米価に比べて郵便料金は低くなっていたのが、それ以後は一貫して郵便料金が米価より割高な料金になっていることである。当初は国策として郵便事業の発展のために後年と異なる料金に対する配慮をなしたのか興味ある傾向が見られた。

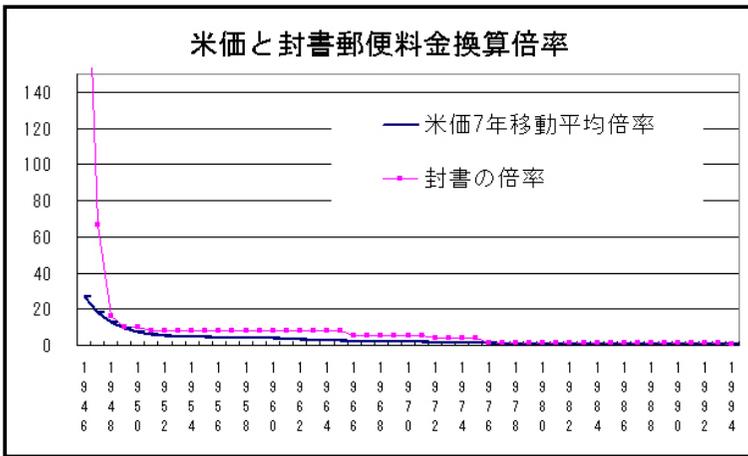
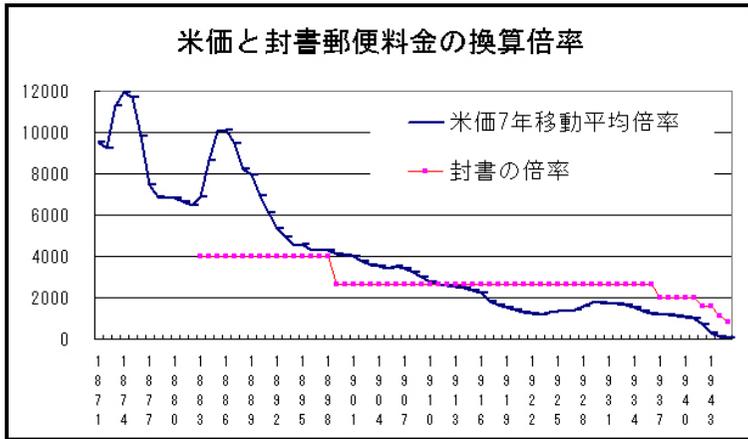
この2つの価格の倍率を主だった手彫、旧小判切手の額面を発行年の倍率で現在の価格に換算してみたのが表1である。

米価が非常に変動しているため移動平均でもやや矛盾する結果であったが、この時期の切手を見たとき、おおよそ数値を100倍した円を額面と考えておけばかけ離れたイメージを抱かずに済むのではないだろうか。

この結果を坂下会員の「創業期の郵便料金の変遷」の中に示された料金にあてはめてみた。

宛先別料金制時、東京-神奈川が90円から300円、静岡までが500円から700円、大阪までが1500円から2000円見当と考えられ、かなり高額な郵便料金だったと





と考えられた。  
距離別料金制になって、東京-大阪間は 400 文で 400 円から 550 円となるのであろうか。

これが 1873 年からの全国均一料金制では最低 2 銭であるので 200 円から 300 円が最低一律料金と考えらる。

次に、前号でふれられている外国郵便料金を考えてみたい。会報 37 号の 17 ページの表 1 外国郵便料金表をお借りして換算金額を記入してみたのが表 2 である。

当初はかなり高額であったものが UPU 加盟の時点では低額になって、わずか 2 年間で三分の一になっており、国内郵便の料金に照らすとやや低い感を抱くものである。またこのように換算してみて、あらためて現行料金表と比べヨーロッパへの料金が非常に割高になっていることを強く感じた。

次に、新小判切手以降に発行された高額切手の額面を換算してみたのが表 3 である。

表 1 主だった手彫、旧小判切手の額面換算結果

48 文		発行年	1871 年	換算額面価格		12 銭		発行年	1875 年	換算額面価格	
		米価倍率	14636	73 円				米価倍率	7996	959 円	
		平均米価倍率	9514	47 円				平均米価倍率	11678	1401 円	
		封書料金倍率	無し					封書料金倍率	無し		
5 銭		発行年	1872 年	換算額面価格		45 銭		発行年	1875 年	換算額面価格	
		米価倍率	20490	1024 円				米価倍率	7996	3598 円	
		平均米価倍率	9236	461 円				平均米価倍率	11678	5255 円	
		封書料金倍率	無し					封書料金倍率	無し		
4 銭		発行年	1873 年	換算額面価格		5 銭		発行年	1876 年	換算額面価格	
		米価倍率	13660	546 円				米価倍率	13891	694 円	
		平均米価倍率	11296	451 円				平均米価倍率	9826	491 円	
		封書料金倍率	無し					封書料金倍率	無し		
6 銭		発行年	1874 年	換算額面価格		5 厘		発行年	1876 年	換算額面価格	
		米価倍率	8765	525 円				米価倍率	13891	69 円	
		平均米価倍率	11922	715 円				平均米価倍率	9826	49 円	
		封書料金倍率	無し					封書料金倍率	無し		
30 銭		発行年	1874 年	換算額面価格		50 銭		発行年	1875 年	換算額面価格	
		米価倍率	8765	2629 円				米価倍率	6209	3104 円	
		平均米価倍率	11922	3576 円				平均米価倍率	6849	3424 円	
		封書料金倍率	無し					封書料金倍率	無し		

表2 外国郵便料金表を換算

この表は書状1通15グラム(4匁)以下の主要国宛の料金を示す。

あて先	米国	上海	英国	ドイツ	仏国	イタリア
明治8(1875).1.1 ~ 8(1875).6.30	15 銭 1200 ~ 1800 円	6 銭 500 ~ 700 円	21 銭 1700 ~ 2400 円	21 銭 1700 ~ 2400 円	25 銭 2000 ~ 2900 円	25 銭 2000 ~ 2900 円
明治9(1876).1.1 ~ 9(1876).3.31	12 銭 1200 ~ 1600 円	6 銭 500 ~ 700 円	17 銭 1700 ~ 2400 円	17 銭 1700 ~ 2400 円	17 銭 1700 ~ 2400 円	17 銭 1700 ~ 2400 円
明治9(1876).4.1 ~ 10(1877).6.19	5 銭 500 ~ 700 円	5 銭 500 ~ 700 円	10 銭 1000 ~ 1400 円	10 銭 1000 ~ 1400 円	10 銭 1000 ~ 1400 円	10 銭 1000 ~ 1400 円
明治10(1877).6.20 (*2) 以降	5 銭 350 ~ 600 円	5 銭 350 ~ 600 円	10 銭 12 銭(*3) 700 ~ 1200 円			

\*1. U.P.Uの成立による \*2. 日本のU.P.U加盟による \*3. 香港經由料金

表3 新小判切手以降の切手のからの換算

3 銭		発行年	1883 年	換算額面価格	5 円		発行年	1914 年	換算額面価格
		米価倍率	13113	262 円			米価倍率	2251	11258 円
		平均米価倍率	6891	137 円			平均米価倍率	2479	12397 円
		封書料金倍率	4000	80 円			封書料金倍率	2666	13333 円
1 円		発行年	1888 年	換算額面価格	10 円		発行年	1924 年	換算額面価格
		米価倍率	11543	11543			米価倍率	1071	10713 円
		平均米価倍率	8253	8253			平均米価倍率	1306	13063 円
3 銭		発行年	1906 年	換算額面価格	5 円		発行年	1937 年	換算額面価格
		米価倍率	3104	93 円			米価倍率	1280	6403 円
		平均米価倍率	3510	105 円			平均米価倍率	1183	5919 円
		封書料金倍率	2666	80 円			封書料金倍率	2000	10000 円
10 円		発行年	1908 年	換算額面価格	10 円		発行年	1939 年	換算額面価格
		米価倍率	3331	33317 円			米価倍率	1002	10025 円
		平均米価倍率	3231	32316 円			平均米価倍率	1095	10952 円
		封書料金倍率	2666	26666 円			封書料金倍率	2000	20000 円
3 銭		発行年	1913 年	換算額面価格	500 円		発行年	1949 年	換算額面価格
		米価倍率	1970	59 円			米価倍率	9.5	4751 円
		平均米価倍率	2514	75 円			平均米価倍率	9.5	4750 円
		封書料金倍率	2666	80 円			封書料金倍率	10	5000 円

現在では考えられない2万、3万円に相当する額面の切手が発行されていたことになり、重量便、電信消印の多いことから納得いく面もあるが、そのほかの使用目的を調べてみたい気持ちにさせる金額である。更に、興味深いのがこれら高額切手未使用のカタログ値があまり高くないことである。例えば、1908年発行の神功皇后は額面を約3万円とすると今年のカタログ値が30万円と10倍程度の評価である。当時の封書料金3銭である菊切手3銭を換算80円としてとらえるとカタログ値は50倍の4000円となっているのが理解しにくい。高額

切手の未使用が多く残されているとは考え難いので、この切手の不人気によるのであろうか。いづれにしてもこのようなことを考えること自体、滑稽なことであるのかもしれない。

次に、前述したように表3の田沢切手の時期より戦後の時期まで米価に比較して封書郵便料金に限定してみる限り非常に高くなってきていることが明らかである。この傾向が郵政民営化が変化する中でどのように変化していくか留意して見ていくと同時に、もっと適切な換算尺度があったら、会員の皆様から教えていただきたい。(編集子)

# サマーペックス '10 見学記

諸田 志郎

夏休み切手まつり「サマーペックス '10」が8月21日(土)22日(日)の二日間開催された。今年の会場は東京を離れ横浜産貿ホール・マリネリアとなった。

8月21日土曜日、稲門フィラテリー会員5名は猛暑のさなか見学会を行った。会場は遠くなり不便となったが、例年より幾分狭くなった感じもあり大変な混雑であった。

今回は、会員の甲斐正三氏がサマーペックス '10 実行委員会委員、池澤克就氏が全国ユース切手展審査委員長に就かれていたため会場でお迎えいただいた。

まず、池澤会員の審査委員出品「正岡子規の世界」を拝見解説を受けた。いつものことであるが収集の情熱と努力に感じ入った。作品はまさに「坂の上の雲」の世界であった。

その後各自、フリースタイル1フレーム展、全国ユース切手展を見学あるいは切手商のブースをのぞいたりし見学会は終わった。



会場は小林彰氏の研究で紹介された「旧居留地」内にあった。隣接するシルクセンタービル前の歩道に「英国一番館」跡地の表示と解説の碑が建っていた。

また、大栈橋が徒歩5分ほどのところにあり幸運にも豪華客船「飛鳥Ⅱ」が停泊していた。まだ午後の暑い日ざしが残るなか「飛鳥Ⅱ」を見学することとなった。

さすがに大きい、みんなびっくり感激のまなざしで見上げる。船尾に飛鳥Ⅱ、YOKOHAMAと記されている。横浜を船籍港とする初め

ての客船だそうだ。総トン数50、142トン、全長241メートル、乗客定員700名。暑いからちょっと見て帰ろうとの約束だったが、もう少し前へ行こうとなった。とうとう船首まで歩いてしまった。飛鳥Ⅱは大栈橋を占拠していた。

スカイツリーが見えるかもしれないと某氏が言ったので、大栈橋の先端で探したが見えなかった。どちらの方向にあるのか分からないのだから見つけるのは難しい。

大栈橋の乗船入り口前では、クルーズの案内に目を奪われた。費用も豪華であった。食事、飲み物の費用は含まれているか、真剣に質問していた。ちなみに2011年世界一周クルーズの費用は4、350、000円～25、000、000円だそうだ。横浜、神戸ではワンナイトクルーズという格安なプランもあるようだ。

大栈橋を後にして、今回のもうひとつの目的である中華街へ歩いて向かった。N氏の案内でこじんまりした店に入った。まだ早いせいか先客はなかった。

定番の料理を注文し、まずビールで乾杯、うまかったこと。次いで紹興酒も注文、某氏の紹興酒の蘊蓄に耳をかたむけた。女性店員が料理を運んでくると、元商社マンの某氏および第二外国語が中国語の某氏が中国語で話しかけた。時間がかかったが通じたようだ。だけど、彼女日本語話せます。

話題は尽きることなく多方面にわたり盛り上がったが、もちろん切手の話も・・・、料理が



# 2010年日本切手発行状況

2010年は日本の切手発行が一つの壁とも思われていたものを越えた年になった。それは年間発行切手の種類数が年間日数を上回ったことである。毎日発行しても発行しきれなくなってしまう。郵便局の窓口周囲は切手展より多くの美しい切手が飾りたてられてる一方で、求められる切手を局員が分厚いシートホルダーから探すのに苦労されているのが気の毒である。これではお小遣いを貯めて切手を集めだす子供達を期待できないし、収集を続ける年金老人にも見放されてしまうのではないだろうか。

## 発行件数と種類

発行を整理してみると、43件367種類の切手が発行された。日本切手カタログの分類でみると表1のように、件数は特殊、ふるさと切手で毎月約4件20種類発行される勢いである。

種類	件数	種類
ふるさと切手	20	162
特殊切手	22	200
年賀切手	1	4
総計	43	367

これを更に、発行内容別に整理すると表2のようになり、シリーズ切手が特殊切手において件数、種類

表2 内容別にみた切手発行件数と種類 網点部分シリーズ切手

切手種類	発行内容・目的	件数	種類
特殊切手	グリーティングシリーズ	3	36
特殊切手	アニメシリーズ	3	30
特殊切手	ふみの日・手紙を書こう切手	2	23
特殊切手	2020 FIFA World Cup	1	22
特殊切手	APEC	1	10
特殊切手	サンマリノ共和国	1	10
特殊切手	航空100年記念	1	10
特殊切手	生物多様性条約第10回締約国会議記念	1	10
特殊切手	日本・ポルトガル修好150周年	1	10
特殊切手	平城遷都1300年記念	1	10
特殊切手	干支文字切手	1	9
特殊切手	日本学士院賞100年記念	1	5
特殊切手	2010年切手趣味週間	1	4
特殊切手	第3回UNI世界大会	1	4
特殊切手	2010年国際文通週間	1	3
特殊切手	議会開設120年記念	1	2
特殊切手	日米安全保障条約改定50周年	1	2
ふるさと	旅の風景シリーズ	4	40
ふるさと	ふるさとの花	3	30
ふるさと	地方自治法施行60周年記念シリーズ	6	30
ふるさと	ふるさと心の風景	2	20
ふるさと	ふるさとの祭	2	17
ふるさと	江戸名所と粋の浮世絵	1	10
ふるさと	国土緑化	1	10
ふるさと	第65回国民体育大会	1	5
年賀切手	平成23年用年賀郵便切手	1	4

とも約45%、ふるさと切手においては85%を超えるものである。消えた北方領土、そして北海道まで消えた「心の風景シリーズ」再発行の件が無ければもっと多くなっていたことであろう(図1)。このようなシリーズ切手の発行に占める割合をどう評価していいものか悩むところである。



図1 ふるさと心の風景第7集 北方領土を描かず再発行。そして北海道が消えた

## 発行面での留意点

今年発行の中で従来と異なり注意しておく点がいくつか散見された。一つは種類数の変化である。国民体育大会切手で従来4種類であったのが5種類、ふるさと祭シリーズで10種でなく7種で発行されたことである。蛇足であるが国体切手5枚2列構成、シートで縦1列を購入して5種類そろったと思うと、とんでもないこと3種しかないのである。どうしてこのような購入者泣かせ、局員の手数を増やす配慮してくれるのか理解に苦しむ。二つ目は国際文通週間切手がまた描画内容を変更したことである。これでこのシリーズ10回目の変更になったと考えられる。そしてグリーティング切手に初めて90円切手が発行されたことである。

更に、デザインのとらえ方にもよるかと思うが、これだけ多くの切手を発行するためであろうか、1950年代の切手のように切手のためにデ

デザインをしたと強く感じさせる切手が少なく、文化財、風景写真の利用が多くなっているように感じる。また、今後に向けて留意しなければと感じるのが、横文字表示の問題である。切手自体とシートへの表示も含めて横文字の表示目的が統一されて無いように感じてならない。安保50年には横文字が日本語より大きく表示されているのに、生物多様性条約切手にはシートにすら表示が無く、ふるさと旅の風景切手のシートには横文字がすべて表示されているという、横文字表示目的がわかりにくい。昨年発行の300円普通切手のようにデザインとして横文字を使用することが無いように願うものである。



図2 横文字は何のために使われているか

表3 切手の種類と印刷方式

種類	オフセット	オフセット・エンボス加工	グラビア	グラビア・凸版	総計
ふるさと切手	92		70		162
特殊切手	165	10	26		201
年賀切手			2	2	4
総計	257	10	98	2	367

### 印刷と印刷機関（銘版）

今年も凹版切手は発行されずオフセット、グラビア印刷の2種だけで全切手の主要部分が印刷、発行されている。これを切手種類別に見ると表3のようになり、70%がオフセット印刷で、特殊切手に限れば87%がオフセット

表4 印刷方式と印刷機関（銘版）

銘版	オフセット	オフセット・エンボス加工	グラビア	グラビア・凸版	総計
Cartor Security Printing	186	10			196
国立印刷局	10		98	2	110
凸版印刷	61				61
総計	257	10	98	2	367

印刷であった。次に、印刷機関で整理すると表4のようにオフセットを印刷するフランスCartor Security Printing社が日本切手全体の53%の切手を印刷している。ふるさと切手の地方自治法施行60周年記念シリーズの記念硬貨のデザインが他のものであれば国立印刷局でなくなり、他の機関のオフセットになった可能性もあろう。

### 切手額面と購入必要金額

額面では海外へのクリスマスカード用を想定してか冬のグリーティング切手に90円切手が5種発行されたことが注意される。50円と80円の比率は2：8、ふるさと切手に限定すると3：7となっている。

発行された切手を1枚ずつ購入すると27440円（シール切手はシート）を要する。もし、祭シリーズ、切手趣味、世界サッカー、国体、UNI世界大会を重複を承知でシートで購入すると、さらに1600円が必要となり年間必要金額は昨年と同じく約3万円という額である。これでは子供達に切手趣味を働きかけることはできない。

### 発行枚数

発行枚数はシート枚数で発表されているが、個々の切手ごとの発行枚数で整理した。世界サッカー大会JULES RIMET CUP切手の場合は他の切手の3倍として計算した。

表5 切手の種類別発行枚数

種類	万枚			合計発行枚数
	最小発行枚数	最大発行枚数	平均発行枚数	
ふるさと切手	60	200	144	23300
特殊切手	50	600	177	35500
年賀	380	2000	1190	2380
総計	50	2000	168	61180



上 最大600万枚 他に4種  
右 最小50万枚 他に4種



図3 最大、最小発行枚数切手

### ふるさと切手のふるさと

162種発行されたふるさと切手のふるさとを整理すると50、80円切手の両方が16の県で2種～12種発行され、15都道県で50、80円いずれか1種の切手が発行されていたが、16府県ではふるさと切手は発行され

てない。中でも埼玉県、福岡県の2県のふるさと切手は昨年に続いて発行がなく、今年もふるさとに偏りのあるふるさと切手の発行であった。

### 10年をふり返って

さて、このような今年の切手発行の状況を踏まえて、過去10年間の日本切手の発行状況を整理してみたい。この10年間には留意すべきことがいくつか存在する。郵便事業の公社化、民営会社移行と、それにとまなうふるさと切手発行形態の変更等である。この点をふくめ、発行件数、種類数を整理したのが表6である。件数、種類とも肥大化傾向は明らかである。ここで注意されるのが発行1件当りの種類数である。公社化、民営化を期に数値が目立って高



図4 懐かしい1件1種類発行最後の特殊切手とふるさと切手

表6 切手の発行件数と種類数の推移

年	件数	種類	1件平均	件数				種類				備考
				ふるさと	特殊	年賀	普通	ふるさと	特殊	年賀	普通	
2001年	62	195	3.1	38	23	1		72	119	4		
2002年	49	146	3.0	25	23	1		50	92	4		
2003年	36	130	3.6	19	16	1		34	92	4		公社化
2004年	36	161	4.5	18	17	1		61	96	4		
2005年	33	156	4.7	16	16	1		72	80	4		
2006年	30	195	6.5	15	14	1		79	112	4		
2007年	36	293	8.1	17	16	1	2	117	170	4	2	民営化
2008年	36	317	8.8	14	20	2		119	192	*6		ふるさと変更
2009年	41	351	8.6	19	20	1	1	152	194	4	1	
2010年	43	367	8.5	20	22	1		162	201	4		

表8 印刷方式割合の推移(種類数割合) \*小型シートの切手をデザイン、サイズから別の切手とした。

年	オフセット	グラビア	グラビア凹版	グラビア凸版	グラビアエンボス	オフセットエンボス	平版エンボス	平版	平版ホットS	平版凹版
2001年	19%	79%	1%	1%						
2002年	10%	86%	2%	1%						
2003年	14%	83%	2%	2%						
2004年	12%	79%		1%	6%					2%
2005年	8%	62%		1%	6%			15%	6%	
2006年	9%	66%		1%	5%			11%	8%	
2007年	16%	48%		1%			3%	28%	3%	
2008年	7%	75%		1%		3%		13%		
2009年	65%	30%		1%		3%				
2010年	70%	27%		1%		3%				

くなってきていることである。ここ数年は平均1件8種類ずつ発行されているようである。なつかしき1件1種類の発行は特殊切手で2005年の中部国際空港開港記念切手、ふるさと切手で2007年62回国体切手を最後になっている(図5)。また、表から見落とされがちなが見えてくる。過去、百花繚乱、狂い咲きのような発行を印象づけられていたふるさと切手、発行方法の変化か、少なくなった思いであったが、表7 50,80円切手の発行割合 数値は民営化後、

年	50円	80円
2001年	19%	75%
2002年	26%	71%
2003年	24%	71%
2004年	28%	68%
2005年	41%	56%
2006年	19%	78%
2007年	10%	88%
2008年	15%	84%
2009年	15%	80%
2010年	19%	78%

倍になっている。

このような発行状況は切手が実際に使用されることを考慮されたものなのか、切手の額面別の発行種類数から検討してみた。整理したのが表7である(50,80円のみ)。発行数は需要、供給を考慮したものであるべきと考えるが、年によって30%も異なることがあってもよいのであろうか。発行枚数も加味して検討されなければならないが、使用でなく収蔵を意図した発行を考えざるえないものである。

次に、量的な面でなく切手の質的な一面とも言える印刷方式の10年間の推移を整理したの



図5 凹版印刷が最後に見られる  
2004年文化人切手3種のうちの2種

が表8である。2003年以降にそれまで主流であったグラビア印刷が徐々に平版印刷になり、民営化後が平版印刷はオフセット印刷に、そしてグラビア印刷も大きく減じ、オフセット印刷に移行していったことが明白である。これをもって質の評価はできぬが、一部を凹版印刷し

図8 気になる切手の発行種類数の推移

年	シリーズ切手	ふみの日切手	シール切手	変形切手	グリーディング切手
2001年	50	13	10	16	0
2002年	50	14	0	25	0
2003年	41	14	20	5	10
2004年	59	14	15	9	25
2005年	43	14	10	5	20
2006年	50	15	16	0	26
2007年	60	15	30	6	40
2008年	115	15	30	7	60
2009年	149	15	25	2	31
2010年	177	15	44	7	45

た切手が2004年文化人切手を最後に発行されていないことが切手の深みがなくなってきたことも加味して考えたい。

最後に、今後の切手発行を考える上で参考となる事項の10年間の推移を表9に整理してみました。これからの10年の切手発行が幾分見えてくるような感じがします。(編集子)



大正12年木造客車に属する郵便緩急車  
内部 室内仕分棚  
鉄道省



上下 戦前の郵便車の内部 仕分棚



昭和3年半鋼鉄製郵便手荷物車  
南海鉄道



郵便創業100年鉄道郵便  
児童画



昭和54年護送便専用郵便車  
縮切郵袋室、休憩室、車掌室がある 郵政省



昭和23年郵便車 運輸省



白紙部分が出来てしまいましたので遊ばせていただきました、ご容赦を。

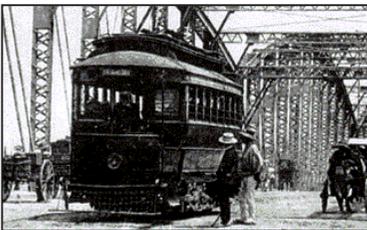
出典 鉄道車両100年CD

## 切手教室

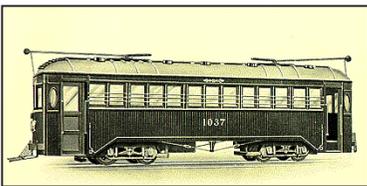
- 72回 7月3日  
横浜にあったフランスの郵便局と外国人居留地  
小林 彰氏
- 73回 8月7日  
新宿北郵便局物語  
磯野 昭彦氏
- 74回 9月4日  
櫛型日付印  
野口 喜義氏
- 75回 10月2日  
オリンポスの神々  
福元 勝治氏
- 76回 11月6日  
北海道郵便印  
長野 行洋氏
- 74回からは他の郵趣会の方の講演を御願している。

## 新しい新宿北局風景印

前号でお伝えしました新宿北局の新しい風景印が10月15日より使用開始されました。大隈講堂切手の原画を描いた数野画伯原画のデザインです。大隈講堂とビューゲル式集電機以前のポール式の戦前？大正期？の荒川線都電？市電？と波線は神田川の流れを表現している。レトロ調でじっくり考える時を過ごす、他の風景印と異なりやや難解な風景印となっている。



新風景



上のような電車を印影に想像下さい。



## 編集後記

野島会員の多くの写真から会員の楽しい日々の様子の記事がいくつか生まれました。会員の思わぬ出会いを大切にしたいと思います。

稲門フィラテリー10周年記念企画も無事に終り、新たな10年を歩みだしました。4年間、会報の編集をしてまいりましたが、若い会員の新たな視点からの編集の必要を感じ、編集幹事を辞させていただきます。4年間、会報発行へのご協力、御助言等にお礼申し上げますと共に、多々の失礼を深くお詫び申し上げます。

(おがわ)

## 稲門フィラ常設切手展

- 第12回 第2次世界大戦終結して65年  
開催日時：2010年9月11日～12月8日  
今年は第2次世界大戦終結して65年になり多くの国からこれら戦争を物語る切手が数多く発行されています。その一部を紹介しました。
- 第13回 新しくなった新宿北郵便局の風景印  
開催日時：2010年12月9日～3月上旬  
場所：新宿北郵便局

## 新入会員

- 榎沢 祐一 2003 政  
155-0033 世田谷区代田3-34-10-105  
会員総数は11月現在99名

## 大隈重信 切手に

ふるさと切手「地方自治法施行60周年記念シリーズ 佐賀県」5種が2011年1月14日に発行されます。その中の1種に大隈重信の肖像が有田、伊万里焼の皿を背景に描かれています。なお、同じデザインの1000円銀貨(11月24日締切)と500円硬貨も発行されます。



## 稲門フィラカラーCDに

ついて

38号に同封しましたCD、ページとして印刷はできますが、切手等の画像は郵便切手類模造等取締法を考慮し個別には複製、印刷できぬ様にしてあります。また、早慶両校の校歌、塾歌、応援歌が聞かれるボタンを作っております。

## 訃報

湯川 宗昭会員、佐藤 隆之会員が逝去されました。ご冥福をお祈りいたします。

発行日：2010年12月1日

発行：稲門フィラテリー

発行人：小西 邦彦

〒150-0002

渋谷区渋谷1-11-3 正栄ビル4F

(株)英国海外郵趣代理部内

稲門フィラテリー事務局

編集担当：吉沢 忠一、池澤 克就

(小川 義博)

# 稲門フィラテリー 第39号

2011年3月1日発行

## 大杉先生有難うございました



大杉徴先生が亡くなりました。長い間、早大切手研究会会長としてご指導いただき、稲門フィラテリーの生みの親でもありました。残念という他ありません。

しかしながら、通夜の席でご長男の理(さとし)様に伺ったところによれば、亡くなる前日の夜、コーヒー片手に「百歳過ぎて生き続けるのは格好悪いな」と冗談を飛ばされたそうです。翌朝、気分が悪いと訴えられ、その一時間ほど後に旅立たれたとのこと。それまで、注射を打つことも、薬を飲むこともなく、医者知らずのまま百歳までであともう少しというところで、大往生を遂げられました。

早稲田大学に早大切手研が誕生してほどなく、一会員として入会され、以後、教育学部長としての多忙の日々を含め、1981年に定年退職の日を迎える迄30年間に亘り切手研会長として尽力され、その後も稲門フィラテリー顧問として我々の面倒をみてくださいました。その長い歳月は日本切手界の勃興期、隆盛期そして衰退期と重なっています。

長い間、有難うございました。



井の頭公園にて（撮影者：佐藤隆之氏）

次号の稲門フィラテリーは、大杉徴先生を偲んで追悼特集号を発行したいと思います。「あの日あの時の大杉先生」「大杉先生とのあんなこと、こんなこと」etc.、諸兄姉の若き日のひとこまを切り取って送ってください。一冊にまとめ、先生の墓前に捧げます。

原稿締め切りは4月末日、枚数は自由、特集号原稿送付先は事務局、発行予定日は6月4日です。皆様のご協力をお願いします。

稲門フィラテリー会長 小西邦彦

# 上海万博 2010 を訪ねて

和田 文明

2010年10月26日から29日の4日間、仕事の取材で私の住む福岡の地から、KAL（大韓航空）を利用して、釜山で開催されたITS（Intelligent Transport System）の国際会議である「第17回ITSワールド会議釜山2010」の参観と併せて、釜山を經由して万博終了間際の上海を訪ねた。

上海への旅行は、2003年3月以来、今回で2度目である。僅か7年ではあるが、上海の中心部は高層ビルの建設ラッシュや地下鉄網の整備、大型シティホテルの林立など急速に都市機能を拡充させている（写真1）。1970年に開催され、私が高校1年生の時に友人と一緒に夏休みに行った“大阪万博”を超え、上海万博は参観者7,300万人と来場者の規模で世界最大の万

博となった。万博の入場券システム（図1）には日本のIC交通カードであるJRの“Suica”と同じ“RFIDタグ”や携帯電話機が用いられていた（写真2）。

## 上海万博郵便局

上海万博の会場には時間の関係上1日のみ、それも17時から20時までの僅3時間の短い見学であった。会期末の万博会場のパビリオンはいずれも長蛇の列で、企業館のエリアの保険に関するパビリオンのみ見学し、他は外から中国館やテーマ館、日本館、上海企業館などを精力的に見て回った。特に、兩岸に隔てられた万博会場を結ぶ連絡船（フェリー）からの会場の夜景は最高であった。

こうした短い時間の中での慌ただしい万博見物であったが、“万博郵便局”には忘れずに足を運んだ。320ヘクタールにもおよぶ広大な万博会場にはテーマパビリオン内や上海世



写真1 発展を遂げた上海浦東と“東方明珠塔”



図1 万博入場カード



写真2 駅の改札と同様の万博入場ゲート



写真3 中国邮政(China Post)の万博郵便局

界文化センター内など5つもの万博郵便局が会期中朝9時から夜の10時30分まで連日開局していた(写真3)。

韓国企業館の隣の万博郵便局を私が訪ねたのも夜の7時を過ぎていた。来客数は数名と少なく、局員の数の方が多かった。万博の記念絵葉書や巨大のシール切手など数点を購入し、オフィシャル銀行である上海の交通銀行で今回買い求めた中国銀聯対応の「上海万博

記念のプリペイドカード」(図2)で支払った。また、宿泊したホテルの封筒を使って作成した実遞カバーが、(写真4)の私の上海万博入場記念カバーである。万博郵便局のメータースタンプを局員が手配してくれて、よい出来栄の記念カバーとなった。10月27日に航空郵便扱いで万博会場の郵便局で投函したが、自宅に届いたのは10日後の11月6日で、行方不明になったのではと心配した次第である。



図2 中国銀聯の「上海万博記念のプリペイドカード」

### 上海雲洲古玩城

インターネットで上海に「書画・骨董」、「古銭・紙幣」、「切手」、「カード」に関する一棟まるごと“専門店ビル”があることを知り、投宿したホテルからタクシーを飛ばして15分程でこのビルに着いた。この骨董ビルは「上海雲洲古玩城」(写真5)といい、1階から3階は書画、骨董、貴金属を取り扱う店が軒を並べ、4階はコイン、古銭、紙幣、メダル、カード(テレ



写真4 上海万博入場記念カバー（私製）

ホンカードなど各種プリペイドカード）、5階は切手を販売する店が多数入居していた。

5階の切手フロアには“上島コーヒー”のラウンジもあったが、薄暗く客は誰もいなかった。間口1.5メートル程の小間に区切られたおよそ50もブースと2～3坪の小部屋の20店程の切手商が軒を並べていた。取扱っている切手は、小型ブースの切手商の多くが現代中国の切手やカバーが中心であったが、小部屋の切手商の中には清国時代や民国時代、解放区のクラシックものを取り扱っているところもあった。

私は中国切手を集めていないので、4階のコイン、古銭、紙幣、メダル、カードのフロアで、もっぱら仕事の分野である(図3)のような上海のプリペイドカードや電子マネー、IC交通乗車券などを買求めた。また、「集郵」(2010年10月号)(図4)という中国郵趣のクラシックからモダンを対象にしたオールカラーの立派な中国の切手誌をカードを購入したお店で頂いた。

5階の切手フロアでは、(写真6)の上海万博の開幕の記念カバーを20元(約280円)で購入したが、他の店では同じカバーが5元(約70円)で売られていた。良心的な店もあるが、多くの店は外国人には値段を聞くと必ずとてつもない金額を吹っかけてくるので、店頭プライスが表示されていない切手や古銭、骨董品などを買求められる際は、言い値では買わないように注意されたい。



写真5 骨董ビル「上海雲洲古玩城」



写真6 上海万博の記念カバー



図3 上海のプリペイドカード



図4 「集邮」(2010年10月号)



写真7

上海の中国郵政の郵便ポスト



写真8

大清郵政時代の郵便ポスト

### 上海の郵便ポスト

上海の街中を歩いていると(写真7)のような中国郵政の郵便ポストを見つけた。中国の郵便ポストは未だこのタイプが主流のようである。日本のポストは「赤」であるが、中国のポストは「緑」(グリーン)である。ちなみに私のコレクション対象であるアメリカは「青」である。帰りの上海浦東国際空に大清郵政時代の郵便局(朱家角郵局)とその郵便ポストが再現されて展示されていたので、写真に収めてきた。この時代も郵便ポストも「緑」(モスグリー

ン)であったようだ。

2011年11月11日から15日までの5日間、上海から新幹線で1時間あまりの距離にあり、多くの日系企業が集積している無錫市でF I A Pの第28回アジア国際切手展「China2011」が開催される。2月のインド国際切手展、7月に横浜で開催が予定されている日本国際切手展に続くアジアのイベントであるが、願わくばこのChina2011に私のコレクションを出品して、もう一度上海を訪れたいものである。

# 正田幸弘著「文献散歩道」

小林 彰

慶応郵研三田クラブ所属で本会会員でもある国内外の文献研究・収集の第一人者、正田幸弘氏が「文献散歩道」を上梓された。同氏は多くの郵趣誌で稀品・珍品や話題の外国切手の記事を連載し、加えて文献の紹介や書評を著し、さらに国際切手展の審査員でもあり、その審査や

関連団体について発表されるなど幅広い活躍をされている。また、ご自身の「ブラジル郵便史」は国際展で大金賞を受賞。同氏の既刊著作は「郵趣雑誌に見る外国切手記事」、「各国一番切手列伝」、「新・紙の宝石」、「ブラジル郵便史概説」など多くを数える。

さて、本題である。「文献散歩道」は2003年刊行の「文献に魅せられて」の続編というべきものと「まえがき」で述べられている。本書は下記の5章で構成される。

- 第1章 文献散歩道(II) 参考図書類
- 第2章 中国郵趣文献史
- 第3章 日本で開催された国際切手展
- 第4章 国際切手展関連論考
- 第5章 書評 その他

第1章は海外の著名な郵趣家などによる切手収集の基礎知識満載の文献紹介。すでにこれら文献を読まれている会員諸氏も、本章で熱収していた往時を思い出されるだろう。第3章は日本で開催された国際切手展の紹介。日本で最初に国際展が開催されたのは切手発行100年に当たる1971年、以後10年ごとに開催されているが、本章では2001年までの概要が纏められ、2011年の予告をされている。その2011年は7



本書23ページより

月28日から8月2日までパシフィコ横浜で Phila Nippon 2011 が開催されることはご存じのとおり。第4章は国際切手展関係で、Phila Nippon 2011 への出品予定者は勿論のこと、出品しないが会場に足を運ぶ人も、運ばない人も国際展がどのように運営、開催されているのかなどを知ることができ、日本人の入賞者も分かる第3章と共に通読されるとより理解が深まるであろう。第5章の書評、その他には、本会会員にとっては懐かしい「早大切手研究会々報」や「早大切手研50年」が図入りで紹介されている。同氏と早大切手研との繋がりには古くて深い。郵趣家にとって、文献は収集の指針となりまた重要な情報源でもあるが、とかく収集品優先で軽視されがちである。本書にて文献の重要性を再認識されるに違いない。稲門フィラテリー会員諸兄姉にはぜひ一読をお勧めしたい良書である。

本書128ページより  
早大切手研50年誌紹介ページ

本書は著者から直接購入可能。  
前掲「文献に魅せられて」も若干残部がある由。  
頒布価格：1冊3000円（送料とも）  
振替口座：00240-4-6061  
加入者名：正田幸弘  
なお、「文献散歩道」と「文献に魅せられて」の2冊購入の場合は頒布価格5500円（送料とも）

とも直接お会いできるようになりました。

「とづくに会」では、お医者さんの伊東由巳氏や文献に詳しい牧野正久氏、長谷川達郎氏等のお世話になり、私にとっての「切手の大学」課程でした。大学卒業後のことも色々心配していただき、「もしも切手をやりたいのなら、医者か坊主か教師だ」「はやらない医者ほど楽な商売はないぞ」等の伊東先生のアドバイスは真剣に考えました。私は法律を勉強していたので、大学入学時点では教職という発想はなかったのですが、結果職業としては高校教師を選ぶに至ります。これは正解であったと、人生の先輩方の慧眼に感謝の念でいっぱいです。

一方、町田氏は関西に勤務していた際に、金井宏之氏（早大切手研創立者）の「外国切手研究会」に所属していたので、有馬温泉の古泉閣での合同例会等で金井氏をはじめ関西の外国切手収集家とお知り合いになりました。また、関東では、1981年の国際切手展にむけて実行委員長予定の石川良並氏を会長とする Collectors Club of Tokyo という収集団体が作られ、「とづくに会」のメンバーは殆どがこれに加入しました。毎月の例会では、市田左右一、小泉運之助、谷藤、山本謙一、近藤一郎、松本純一といった方々のコレクションを拝見し、ご本人の解説を聞いていました。

Phila Tokyo の実行委員会は、社会人となった1979年に作られ、各部長による毎月の会議は銀座の帝産ビルで行われていました。私は伊東先生のコミッショナー部と松本氏の渉外部に属していました。開催直前は作品部員として町田さんと2人で郵送作品を保管場所に受領

に行ったり、会場でひたすら海外からのコミッショナーの到着を待ちわびていました。町田さんが伊東先生の代理、私が松本さんの代理で出席していた時の会議の席上、空席だった作品部長のポストが、委員長発言で町田さんに押しつけられる光景を目の当たりにしました。

10年前の Phila Tokyo '71 は普及協会が事務局となって仕切ったが、あまりに大変だったので今回は降りてしまった、という話でした。帝産グループが事務局とはいっても、専任は古屋さん位といった印象でした。実行委員会のメンバーには皆さん本職があって、趣味として切手に時間を割いているわけで、末端にいる私から見ても？の連続でした。結局、開催の半年くらい前から、金井重要工業の社員数人が東京で事務局として仕事をこなして、開催にこぎ着けたという印象でした。

その後の収集界で私がやって来たこと等は、既に『文献に魅せられて』(2004)で書いているので、そちらをご覧くださいと思います。私の活動母体であった「とづくに会」では、根岸昭二氏や西村寿一郎氏のお世話になりました。

1975年の大学入学以来、もう30年以上になります。収集界でお世話になった方のお名前をここで思いっきり挙げてみましたが、慶応の方に比べ、早稲田の方が圧倒的に多いことに改めて気づきました。どの世界でも、人を色分けして派閥を作り、排除の原理を振りかざした方がいますが、私はどうしてもそういう人は好きになれません。勿論私は、収集家以外の慶応OBの方々にも、色々とお世話になっています。ただ、切手収集家としての今現在を考えると、出身大学といった派閥など気にしないで、慶応出を指導してくださった早稲田OBの方々の方々の度量の広さに感謝の気持ちで一杯です。自身の行動原理としても、かくありたいと思っています。

早稲田大学125周年を機会に慶應、早稲田大学の切手研OB、OGが久しぶりに懇談しました。今後の交流の発展の礎に懇談会員の正田様から話を聞かせていただきました。（編集）




-128-

# 平成22年秋 「都の西北～郵便から見た早稲田大学史～」展 ワセダギャラリーで開催（報告）

磯野 昭彦

稲門フィラテリーは、早稲田大学から多大の支援を受けて、平成22年10月17日～11月7日、ワセダギャラリーにて早稲田大学校友会設立125周年・稲門フィラテリー設立10周年記念「都の西北～郵便から見た早稲田大学史～」展（以下、都の西北展という）を開催することができた。その経緯を以下に報告する。



展示会場風景

スタンプショウ'07のオープン切手展でグランプリを獲得した池澤会員作品を早稲田大学内で展示できないものかという会員の声があがっていた。

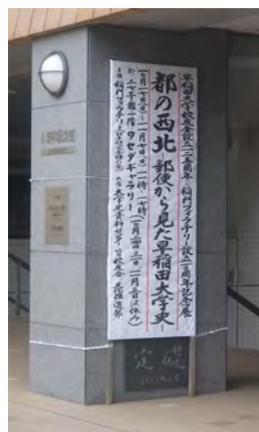
平成21年秋、作品のコピーを大学史資料センター浅野隆事務長に提出、趣旨を説明したところ、浅野様から「大学史資料センターの企画展示の1つにしてもいい内容なので、開催に向けて大学内で検討したい」と前向きな話をいただいた。

平成22年1月、浅野様から「今年の秋、ワセダギャラリーを仮押さえたので、具体化打合せをしたい」と電話があった。開催期間はホームカミングデー、稲門祭、早稲田祭に跨る長期間であった。

稲門フィラテリー2月幹事会で展示内容など実施計画が決まった。

大学史資料センターの取り計らいで、本展示を早稲田大学校友会設立125周年行事にし、早稲田大学校友課名でワセダギャラリーを借用することが決まった。さらに、文化推進部が早稲田文化芸術週間2010企画展示のひとつにすることにもなった。そして、それぞれから予算計上をいただいた。

以上のことから、早稲田大学校友会設立125周年・稲門フィラテリー設立10周年記念展とし、稲門フィラテリー主催、大学史資料センター共催、早稲田大学校友会、早稲田



会場前の立看板



ポスターおよびチラシのデザイン

大学文化推進部協力として開催することが正式に決定した。

5月になって、ポスター、ちらしの作成、配布要領、広報活動、開催期間中の警備などの検討に入った。ポスター、ちらし原稿は稲門フィラテリーが電子データで作成、大学側で印刷することになり、ポスター150枚、ちらし3500部を作成した。稲門フィラテリーは郵便局、郵政、郵趣界にポスター100枚、ちらし2000部を配布、期間中会場用に500部を準備した。早稲田学報掲載、大学内掲示など学内広報は大学史資料センターに一任した。

ポスターは、藪野健画伯が早稲田大学創立125周年記念のときに稲門フィラテリーのために描いて下さったはがき、カバー(封筒)用の原画を使用することを画伯の了解を得て決定した。



展示品より(早慶6連戦チケット)



展示品より(東京専門学校の地図)

期間中警備は、稲門フィラテリーが2名、大学史資料センター手配の受付嬢1名(早稲田キャンパスから派遣)とした。立て看板、展示場内の大型パネルは大学史資料センターが手配・作成とした。開催前後の会場設営、撤去は大学史資料センター、文化推進部、稲門フィラテリー共同で行うことになった。展示のための額、アクリルケース、備品、



展示品より  
(理工科の手紙)

展示のための額、アクリルケース、備品、



展示品より（切手研究会通信）

照明、大型ディスプレイを用いた音響、映像設備は文化推進部の提供となった。

新宿北郵便局、大学周辺郵便局ではホームカミングデー当日臨時出張所を開設、早稲田大学校友会設立125周年を記念した新風景印押印用タトウ（切手貼付台紙）を作成、頒布した。稲門フィラテリーでは、このタトウ500部を譲って貰い、来訪者への記念品とすべく準備した。

ワセダギャラリーでの展示準備は開催前2日間、大学から7名と稲門フィラテリー延9名で行った。

16日展示準備完了の5時過ぎに3名が来



新宿北郵便局作成のタトウ  
（左：表面・右：裏面）

訪、展示を是非見せて欲しいと言い、1時間近くも熱心に見て帰っていった。

開催初日10月17日(日)は稲門祭、ホームカミングデーでもあり、また稲門フィラテリー総会の日と重なり、96名の来訪があった。

11月6,7日の早稲田祭期間中は両日とも100名前後の来訪者、特に六大学野球早慶戦に勝って優勝した直後だったこともあり50年前早慶戦6連戦の学生券、写真の展示を見に来た人も多く見受けられた。

期間中、会場が早稲田大学キャンパスツアー集合場所となった日は、ほとんどのツアー参加者(合計139名)が待ち時間に展示を楽しんでいた。そのうち1名はツアーをキャンセル、都の西北展を長時間かけて見ていた。

平日は、平均20名程度の来訪だった。期間中来訪者総数は684名、平均36名(開催延日数19日)が連日訪れたことになる。期間中、この都の西北展を見て稲門フィラテリーに興味をもち、入会案内書送付を希望した来訪者が8名あった。

展示終了後は、最終日閉館後5名で1時間かけて額とアクリルケースから展示品の撤去のみを行った。翌日、大学から7名と稲門フィラテリー7名で、撤去、現状復帰作業を行った。

後日、全展示品を電子化した画像データで保存するために、A3版展示品の画像データ化を大学史資料センターに依頼した。その他は稲門フィラテリーで画像データ化した。

展示した内容は以下の通り。

- 1 池澤克就会員が所有する早稲田大学にち

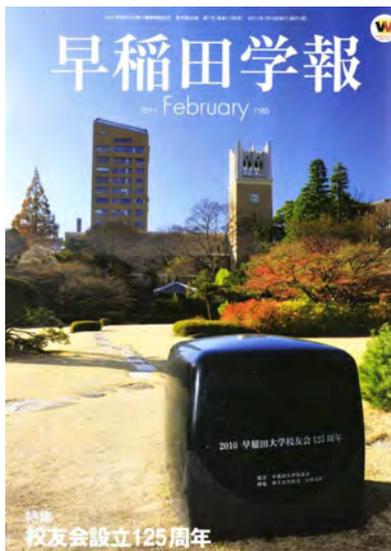


大学関係部署に贈呈した記録CD

なむ著名人の直筆書簡、原稿、絵葉書その他、歴史的資料を約80リーフに、解説を付してまとめたもの。

2 早大切手研究会が昭和32年以降の早稲田祭に発行した著名漫画家原画の漫画絵はがき13セット（絵はがき2枚で1セット）。

3 早大切手研究会が昭和24年に発足（現在は消滅）、平成12年OBたちが集まって発足した稲門フィラテリーが大学や郵政に多くの役割を果たしたその実績を35リーフにまとめて紹介。



『早稲田学報』平成23年2月号に掲載された都の西北展開催報告

稲門フィラテリーでは、平成23年1月、全展示の画像データ、記録写真、都の西北展開催の経緯など全記録をまとめ、CDにして大学（協力いただいた部、課）に提出、報告した。

『早稲田学報』平成23年2月号（校友会設立125周年特集）の校友会125周年イベント報告のカラーページに、新宿北郵便局風景印リニューアル贈呈式とともに都の西北展の報告が掲載された。

都の西北展を開催したことで、早大切手研究会、稲門フィラテリーの存在を大学の歴史に、より大きく残せたことであろう。

今回の都の西北展では、早稲田大学、郵便局のお陰で、無事故で無事に終了することができた。関係いただいた皆さまに深く感謝する次第である。

以上

## 校友会125周年イベント

### 西東京稲門会―田原新一郎氏の講演会を開催

楽伏見キャンパスで社会連携推進室と共催



田原市と保津市の合併により、稲門会も合併し、西東京稲門会は発足した。西東京市には東京見キャンパスがあり、体育各部の活動拠点となっています。また、学生も増えることから現役学生との交流も活発だ。

校友会設立125周年にあたる今年、本会は創立100年を記念して、その記念として「政治とメディア」と題する講演会を11月13日に開催した。講師は大隈塾の塾生である田原新一郎氏。会場は東京見STEP22の大教室（300名収容）で半数を市民開放、入場料無料で開催した。

系なり、市民をはじめ多くの市民が参加。活発な質疑応答が交わされ、熱気があふれる講演会となった。



### 都の西北―新館から見た早稲田大学史

今よみがえる 書籍に秘められた早稲田の歴史



稲門フィラテリー（早稲田大学切手研究会OBの会）主催のユニークな展示会が、早稲田ギャラリーで10月17日から11月7日まで開催された。

切手のはかにも切手研究会が稲門会で開催していた著名漫画家による絵葉書など、さまざまな貴重な資料を展示して訪問者を魅了させた。なかでも全日学年券でそめえた丸え、入場整理券まで造られた早稲田6連紙のシャットはコンディションもすばらしく、注目の的だった。

### 新宿北郵便局風景印ラウンド開催

主な展示である「新館にある早稲田」では、大隈東社、辰田早苗、坪内道高、相馬朝風、菅津六一、野口清博といった早稲田ゆかりの人物の書簡から、早稲田の歴史を振り返ることができる。また、書簡や



6/7 2023年稲門会報

# 新しい図案になった新宿北風景印が 使用開始に至るまでの経緯と解説

磯野 昭彦

平成22年2月2日、数字「2」並び日付の風景印(正式名称：風景入通信日付印)押印依頼に新宿北郵便局を訪れたとき、試し押印してもらって驚いた。古くから使用しているため印は目詰まりをおこして極めて汚い風景印となっていた。そこで、歯ブラシと虫ピンを持って再訪、局員に断って風景印をていねいに清掃したところ、ゴムの劣化はあるものの見違える風景印にすることができた(図1)。

清掃していて疑問がひとつ湧いてきた。それは、新宿北郵便局風景印で大隈講堂屋根の形状が違う印があったような気がしてきた。

そこで、新宿北支店ゆうゆう窓口で別の風景印をみせてもらったところ、予感的中。大隈講堂屋根は波打っていた(図2)。

以前から、新宿北郵便局風景印の図案は何か怪しく思っていた。まず、矢と三重丸の的である。局員に尋ねるとほとんどの局員は「高田馬場の流鏝馬でしょう」と教えてくれていた。しかし流鏝馬の的は四角形の板で三重丸なんかない。次に下方に植物らしきものがある。これも局員の誰もが「わかりません」でした。

疑問解消のために、目白にある切手の博物館に行って調べてみたら、矢と的は中井御

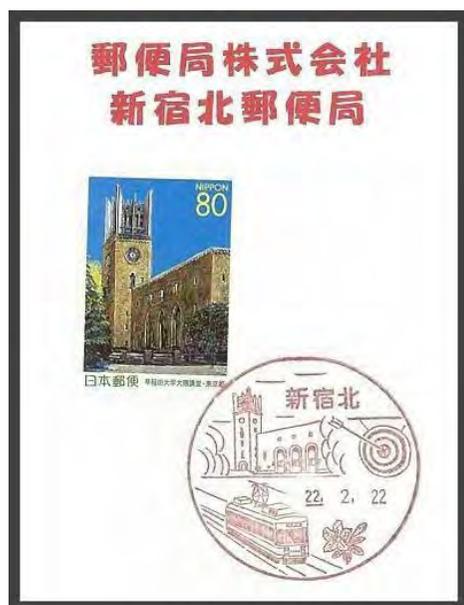


図1 郵便局株式会社  
新宿北郵便局の旧風景印

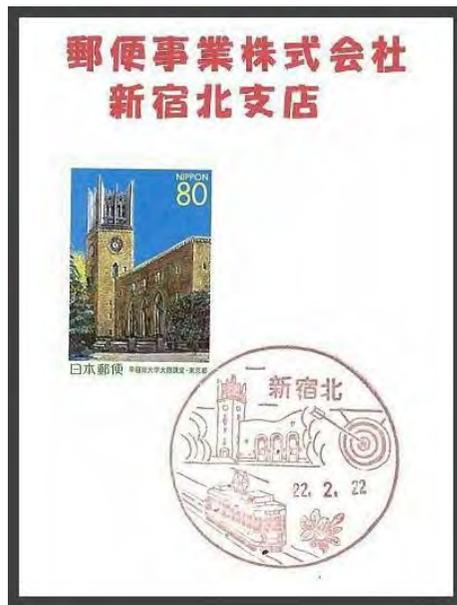


図2 郵便事業株式会社  
新宿北支店の旧風景印  
(大隈講堂の屋根の形状に注目)

霊神社お備射（びしゃ）祭の的、植物は新宿区の花ツツジであることが判明した。

なぜ、新宿北郵便局の集配エリア外にある落合郵便局エリアの中井御霊神社があるのか。この風景印は平成1年から使用されていて、このときは落合郵便局がなく、新宿北郵便局がこのエリアを集配していたので、中井御霊神社を風景印に採用したのです。そして、平成7年落合郵便局が開局したので、このときから中井御霊神社は新宿北郵便局の集配エリアでなくなった。本来、この時点で新宿北郵便局の風景印図案を変更しなければならなかったのです。

これでは、新宿北郵便局の風景印として、よろしくないのでは、この際図案変更を申請してはどうかということを知り、4月になって局担当者に持ちかけた。

局担当者が図案変更の可能性を調査したところ、理由が明快なら変更できそうだと返答があった。変更は新宿北郵便局のお客様である稲門フィラテリーからの提案とするのがいいとのことだった。

そこで、稲門フィラテリーがお客様代表になって提案することにした。稲門フィラテリーは6月幹事会で、この提案を稲門フィラテリー設立10周年記念企画のひとつに加えることを決めた。

6月16日、新宿北郵便局井出薫局長に面会を申し入れ、稲門フィラテリー小西邦彦会長名で「新宿北郵便局風景入通信日付印図案改訂の提案書」を手渡し、図案変更すべき理由は、

1：図案にある矢と的は、中井御霊神社お備射



図3 藪野健先生の新風景印原画

(びしゃ)祭の的で、落合郵便局の集配エリアなので削除すべき

2：新宿区の花ツツジは、図柄がツツジであるか判別しかねるので削除すべき

3：使用中の大隈講堂屋根の形状が、郵便局と支店では異なっている

4：使用開始後20年以上になり劣化が激しくきれいに押印できない

であることを説明したところ、即刻「図案変更します。図案は大隈講堂と都電にし、新しい図案の原画は磯野さんをお願いします」という回答になった。

早速、新宿北郵便局のすぐ南の早稲田大学理工学術院表現工学科藪野健教授の部屋を訪ね、教授に原画作成を依頼、快く引き受けてもらった。(藪野教授は早稲田大学大隈講堂切手(平成13年10月19日発行)の原画作者)。新しい図案は、大隈講堂、都電、神田川イメージの波線となった(図3)。

7月28日原画が完成、すぐに、郵便局株式会社新宿北郵便局、郵便事業株式会社新宿



平成22年10月14日まで  
使用していた風景印



平成22年10月15日から  
使用開始した風景印

図4 新旧風景印（郵便事業株式会社 新宿北支店）



平成22年10月14日まで  
使用していた風景印



平成22年10月15日から  
使用開始した風景印

図5 新旧風景印（郵便局株式会社 新宿北郵便局）

北支店は、それぞれの東京支社に使用開始日を10月17日として図案変更の申請書を提出。9月22日校正用原画が完成した。即日、藪野教授が承認し郵政の公式発表待となった。

早稲田学報10月号（9月中旬発行）では、早稲田大学校友会設立125周年記念イベン

トのページに、稲門フィラテリーの働きかけで新宿北郵便局風景印がリニューアルされることが稲フィラ都の西北展の案内とともに、カラーで紹介された。

10月8日付郵政ホームページにて、新宿北の風景印図案変更が公表された。使用開始日は10月15日となっていた。

10月15日新宿北郵便局、新宿北支店で新しい風景印が使用開始された。新風景印使用開始の郵政発表が8日だというのに、想像を越える数の郵頼による初日印押印依頼が殺到し、局、支店ともに押印に忙殺されたそうだ(図4、図5)。

新宿北郵便局、大学周辺郵便局ではホームカミングデー当日臨時出張所を開設、早稲田大学校友会設立125周年を記念した新風景印押印用タトウ(切手貼付台紙)を作成、頒布した。

10～11月にかけて開催した稲フィル都の西北展でも、新風景印の原画を展示して来訪者の目を楽しませた。

10日28日には早稲田大学総長室で、新風景印の贈呈式があり、郵便局株式会社山口一弥東京支社長から早稲田大学白井克彦総長に手渡された。過去、郵便切手の贈呈式はよく行われているが、風景印の贈呈式は例がなさそうだ。

余談をひとつ。7月7日新宿北支店の図案変更前の風景印が新しくなっていた。大隈講堂の屋根がまっすぐになっていた。6月15日から使用されたとのこと。どうや



風景印贈呈式

(平成23年10月28日 総長室にて)  
右：郵便局株式会社 山口一弥東京支社長  
左：早稲田大学 白井克彦総長

ら稲門フィルアタリーが北支店の大隈講堂屋根がまちがっていると指摘したので急遽作り替えたようだ(図6)。せっかく作ったのに10月14日で使用終了になった。

ついでに、もうひとつ余談。新宿北郵便局は昭和51年開局、そのときの風景印図案は、国立競技場と四谷見附橋で(図7)、当時はこのあたりを新宿北郵便局が集配をしていた。

以上



図6 修正された事業会社の風景印



図7 北局開局当時の風景印

# 東北新幹線青森へ初乗り

甲斐正三

初乗りを考える

秋田県赴任中に何回も乗った東北新幹線が青森まで開業するという。東北は疎開した地、また仕事で関係が深かったので特別な想いがある。初日に乗ろうかと一寸迷ったが、結局、切符発売の数日前、“びゅうぶらぎ”に申込みに行った。希望の9時56分発の列車がとれた、有難い！

八戸まで開通した日、大学のクラスメートと初乗りに行ってから、もう8年が経っている。その時のことをJPS 杉並支部報に書き、最後は「青森開業の日、来られるかどうかは神のみぞ知る」と結んだが、それが現実のものとなった。ノリテツとは言い難いが、鉄道に乗るのは好きである。旧国鉄時代の路線は2万キロ強と聞いたが、1万2千キロは乗っているであろう。

「乗る」の次は郵趣である。青森で友人に投函する記念のカバーを10数通作り、自分用には乗車券をカシエにしたカバーを用意した。秋田新幹線「こまち」、八戸まで開業の時と同じである。(図1、図2) 東京発9時56分は、前の2回と同時刻である。

出発、そして大遅延

12月4日、早目に家を出て東京中郵便局へ行き黒活印を押してもらい、すぐに新幹線乗車口へ向かう。乗車口はかなり人が多いのは初日のせいかなと思ったら、「山形新幹線は強風のため運転を中止」とアナウンスがある。青森は？と不安に思ったが、何もないので一安心。と思ったが、そうは問屋が卸さなかったと知るのは、後の話である。

「はやて21号」は定時に出発、快調に列車は走り、大宮あたりでは富士山も車窓に見られ気分は最高である。郡山駅のほんのわずか手前で列車は止り20分くらい動かない。福島郡山間が強風で運転を見合わせているという。ようやく郡山駅に入ったが、停車駅ではないので「ドアは開けません」とアナウンスがある。しばらくすると「強風が吹き荒れて見通しが立たないのでドアを開けます」とアナウンス。ホームへ降りると、テレビ福島のカメラマン3人が周辺の状況を撮影している。喫煙室は入りきれず外まで黒山の人だかり、私も遅れてその仲間入りをする。ようやく発車、142分遅れと放送される。大自然の

猛威の前には文句を言う人は誰もいない。その日の午後行くつもりだった三内丸山遺跡は諦める。

新青森の郵便局

新青森駅に郵便局の臨時出張所が出ることは分っていて、記念小型印と黒活印を押してもらおう準備をしてきたが、5時を過ぎても開いているのだろうか不安が大きくなる。

新青森到着予定13:19のところ、



図1 「こまち」デビュー記念カバー

16:40着、5時まで時間が少ない。改札口は大混雑、乗車券に払戻しのハンコを押してもらって、すぐ郵便局を探す。出口が4ヶ所、どこに向えばいいのか全く分からない。ようやく大型テントの一番奥にある郵便局にたどりついた。一安心と思ったら、なんと新幹線開業の小型印もF切手も何もない。JRがウンと言わなかったそうだが、なぜだろう？「青い森鉄道全線開業」(従来の東北本線がこの日から第3セクターになる)の記念印しかなく、ともあれその印を押してもらおう。黒活印を青森西局で

問題は黒活印であった。土曜なので開いている局は青森中央(一駅JRで移動、さらに徒歩15分)と青森西(徒歩15分)の2局だけと聞いたが、風は冷たく強く、外はもう薄暗い。ふと思いついて実通便は？聞くと、青森西局まで運ぶと言う。厚かましいとは思いつつ、その車に乗せてもらえないかと聞くと、上司とおぼしき人と相談し、すぐに「いいですよ」との返事、実に嬉しかった。18:00前の黒活を押してもらい、これで当初の目的は達成した。(図3)

次の問題は帰りである。来る時の様子から推測すると歩くと優に30分はかかりそう、加えて冷たい風ともう真っ暗、しかも初めての道、思いあぐねて乗せてくれた局員に相談すると、バスがあると、道路の反対側のバス停



図2 「はやく」デビュー記念カバー



図3 東京 - 新青森開業記念カバー

まで調べに行ってくれたが、もうバスはないので乗せて行ってあげましょう、と言ってくれた。他に方法はなく、またまた乗せてもらったが、本当に有難かった。帰ってお礼の手紙をしたためたら、それにまた返事をいただいた。実に嬉しく、親切が心に染み込ませた時であった。

JRに乗り青森駅に向う。新幹線の終着駅「新青森」から在来線の「青森」迄は一駅5分である。特急を見送ったのだが、すぐ後に駅員から青森 新青森間の料金は不要と聞いた。見た限りではどこにもそんな表示はな

く、早く言ってよと言いたくなる。

青森駅前のホテルに泊まり、名物の帆立料理を食べて身体を温める。風はますます強く冷たい。

### 三内丸山遺跡

翌朝の地元の新聞は開業の記事で埋め尽くされ、期待の大きいことが分る一方、懸念される事柄についての記事も少なくない。

ホテルを出て三内丸山遺跡に行く。バスで片道30分300円、バス停で待っていたら、隣の人から休日用の1日フリーカードが500円と教えられ早速購入した。カードには「新青森駅開業記念」の文字が入っているのも嬉しい。JRでも、青い森鉄道でも記念入場券を出したそうだが両方とも売切れで、手に入れたのはこのカードだけというのはちょっとさびしい。(図4)

遺跡は広い高台にあるようで相当寒いのではないかと心配したが、風は弱くなって昨夜ほどの寒さではない。縄文時代のムラが再現され、高い櫓(大型掘立柱建物)と沢山の堅穴住居が復元されていて大変興味深く一見の価値がある。幸い青空も見えてきたので、ゆっくり見学して青森へ戻る。(図5)



図5 三内丸山遺跡



図6 餅つき

### 青森から弘前へ

青森駅前には開業を祝って沢山のテントが出ている。十和田牛の丸焼きが無料で振る舞われていて有難いதாக。なかなか美味しい。周辺をしばらく散歩して戻ると、餅つきをやっている。一杯200円でお汁粉を賞味するが、大きなお餅が二つ入っていてお腹がいっぱいになる。(図6)

奥羽本線に乗り弘前へ向かう。「鉄道」、「郵趣」に次ぐ三番目は「城」である。弘前駅構内には「2011年：弘前城築城400年」の看板があり、10月に越前大野城を訪ねた時「2010年：築城400年」とあったのを思い出す。弘前駅前の案内所で、冬季は天守閣を公開していないと言われてガッカリ！新幹線開業記念に公開して欲しいなと思う。弘前城まで歩き、隣接する市立博物館、藤田記念庭園を訪れる。

一泊して翌朝、また弘前城へ行く。樹木に雪囲いがほどこされた美しい庭園をグルッと一周したがすれ違う人は少ない。30分も歩くとウッスラ汗ばんでくる。(図7)

二十年ほど前の一月、この公園に来たことがある。雪が数センチ真っ白に積もった公園を歩くと、雪がまっすぐ下に静かにゆっくり降りていき、シンシンと降るとは、こういう光景を指すのかと実感したことは今も鮮明に覚えている。



図4 バス一日乗車カード

駅へ戻る途中で郵便局へ寄り、風景印を押してもらおう。発行されたばかりの「地方自治法60年：青森県」にある弘前城の切手を使う。(図8)友人から頼まれているフォルムカードを購入し、頼んだらミニ・カードも譲ってくれた。



図7 弘前城

ずっと歩きっぱなしだったので、駅へ戻って一休みしてから新青森へ向う。子供の頃にもどって運転席をずっと見ていたが、列車は津軽平野をまっすぐ長く伸びた線路を走りぬける。

旅も終りに

午後の新幹線で仙台へ行き、4年ぶりの友人と語り明かす。一泊して翌朝、在来線で白石へ向う。新幹線の新白石では目的の白石城が遠いからである。仙台赴任中に白石へ行った時、天守閣再建の話を目にしたが、完成してからは初めてである。駅からちょっと歩くと天守閣がポツンと立ち、いささかさびしい。



図10 はやぶさ小型印 (昭和33年)

武家屋敷を見たり寄り道をしながら、ここでも郵便局へ行き風景印をもらう。(図9)もちろん宮城県のフォルムカードも買い、ミニ・カードも1枚譲ってもらった。

在来線で郡山まで行って新幹線に乗り換え東京へ向かう。3月5日に新型車両「はやぶさ」が運転を開始するが、この初乗りは多分ないだろうと思いつつ。

最後に

余談。特急「はやぶさ」が昭和33年10月、鹿児島まで運転を開始したことは、東京中郵便局へ行って作った小型印で分る。(図10)鹿児島行特急の名が、時を経て反対方向の青森行特急に使われることを不思議に思い、鉄道に詳しい友人に聞いたら、国鉄が分割されJRになった時からは、そういう制約はなくなったそうである。



図8 弘前局官白



図9 白石局官白

3月12日、博多 熊本間がつながり九州新幹線が全通する。いつかは乗ってみたいと思っている。

## 切手教室

第77回 2月5日 「旧約聖書物語 - 天地創造からバビロン捕囚まで - 」

講師：福元勝治氏  
JAPEX'10 銀賞受賞作品の解説を通して、旧約聖書の世界を紹介いただいた。

第78回 3月5日 「都市の公共交通 - 発展の背景と役割 - 」

講師：榎沢祐一氏  
JAPEX'10 大金銀賞・小倉謙賞受賞作品の解説をしていただいた。

## 稲フィラ常設切手展

第13回 新しくなった新宿北郵便局の風景印  
開催日時：2010年12月9日～3月上旬  
場所：新宿北郵便局



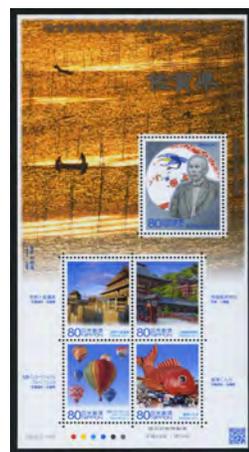
展示風景



新宿北郵便局掲示板のポスター

## 大隈切手発行

2011年1月14日に、「地方自治法施行60周年記念シリーズ」佐賀県版として5種類の切手が発行された。そのうちの一枚に大隈重信の肖像がデザインされている。あわせて、1000円銀貨、500円硬貨も発行された。



## 編集後記

大杉先生の突然の訃報により、急遽紙面の構成を見直しての発行となりました。巻頭ページにもありますように、今回は大杉先生の追悼特集号としたいと思います。皆様からの原稿をお待ちしております。

昨年12月に上海へ出張した折、和田さんの記事にある上海雲洲古玩城に、私も足をのびしました。建物周辺の路上では骨董市が開催されており、焼き物や書籍、民具などが所狭しと並んでいました。骨董市は見ただけでも楽しいものです。

今月号から編集作業を引き継ぐことになりました。より読みやすい誌面となるよう、レイアウトを工夫してまいりますので、感想などお寄せいただければと思います。(池)

発行日：2011年3月1日

発行：稲門フィラテリー

発行人：小西 邦彦

〒150-0002

渋谷区渋谷1-11-3 正栄ビル4F

(株)英国海外郵趣代理部内

稲門フィラテリー事務局

編集担当：吉沢 忠一 池澤 克就

# 稲門フィラテリー 第40号

2011年6月1日発行

## 大杉先生追悼特集号

### 大杉徴先生略歴

1911年(明治44) 静岡県生まれ

1949年(昭和24)～1981年(昭和56) 早稲田大学在職

早大常任理事、教育学部長

1981年(昭和56) 早稲田大学名誉教授

1951年(昭和26)～1981年(昭和56) 早大切手研究会会長

2011年(平成23)1月29日 逝去



## 大杉先生の思い出

橘 喬一

大杉先生の訃報の電話を幹事の方からいただいた時、思わず「お年は九十二、三歳になられていらしたのでしょうか」とお聞きしました。「いえ、あと2ヶ月で満百歳とのことです。しかも前日までとてもお元気だったとのことですよ」とのことでした。

初めてお会いした時から長い間先生は私より10歳ぐらい年上と思い込んでいたので、18歳も年長だったと知り驚いた次第です。(この話は前にも書いたのですが、ご存知の方も多と思うのだが...)

大杉先生と初めてお会いしたのは昭和24年(1949年)4月か5月の事で、早大切手研究会の創部から1・2ヶ月後のことだった。

当時、文学部地下に文化団体連合会所属の「クラブ」や「会」の部室が十数室並んであり、

切手研はそのうちの一つ早大童話会の部室を間借りして、毎週1回会合を開いていた。

創部以来何回目かの会合に、部員募集のポスターを見たといって、一人の学生が入部を希望して来た。早速、申込書を書いてもらうと、所属学部欄を見て驚いた、「早高教諭」とあったのだ。

その時の会則には「部員は早稲田大学の学生及び附属学園の生徒」となっていたと思う。先生や職員は部員にはなれない。そこで「顧問」ということで入部していただいた。

この時、収集範囲等色々うかがったと思うのだが、そのことは全然おぼえていないで、若い先生という印象ばかりが強かった。

この時こちらが20歳、先生は大学院を出てすぐ早高の教職に就かれたとして30歳前後と思い込んでいた。その後先生のお歳をう

かがうチャンスもなく、今日に到った。

× × ×

昭和40年(1965年)頃のたしか秋、先生から一葉の葉書を戴いた、「今度、会長をしている早稲田のアメリカンフットボール(フットボールだったかも?)チームを引き連れ、関西学院チームと対戦のため西下する。宿泊は阪急電車今津線甲東園駅前の椿荘」

甲東園駅は大阪(梅田)からいうと神戸本線西宮北口で今津線に乗り換え、2つめの駅で、その次が私の住居のある仁川駅です。

当日、会社の帰り甲東園駅で降り、椿荘を訪れた。丁度、選手達の夕食の時間らしくざわざわしていた。先生があのにこやかなお顔でわざわざ玄関まで出て来られ、上がるようにとうながされ応接室に通された。すでに2・3人の先客がいた、関西在住のアメリカンフットボールのOBだった。

この時どういいう話をしたかは今、全然おぼえていない。先生は恒に卒業生を心にかけられて下さっていたと思う。

(椿荘は阪神大震災で半壊したうえ、再開出来ず、今はない。)

× × ×

平成4年(1992年)カメラ・スタンプ商会(旧金井スタンプ商会)を閉じるまでの過去約25年間オークションの下見会のため毎月1回東京に出ていた。銀座の東芝ビルのタカハシ・スタンプオークション会場、新宿の日本郵趣協会のオークション会場、新橋のサン・フィラテリック・オークション会場と、その時、その時で開催場所は変わったが、先生はよく会場に来られ、あのにこやかなお顔で「ヤア」と声をかけられ、2・3言葉をかわすこともあったが、ほとんどは、お話ししないうち、いつの間にか帰られてしまった。そこには切手研のOBも来ていて、時には先生とお話し込むこともあっただろう。しかし多くは私の顔を見にわざわざ来て下さったと私は思っている。

指折り数えると、20年近く先生にお会い

していない。しかし、今でも、あのにこやかなお顔で「ヤア」と片手を半ば上げられたお姿が眼にうかがふ。

大杉徴先生のご冥福を心より祈り上げます。  
合掌

大杉先生の葬儀は下記の通り行なわれました。

場所：代々幡斎場 渋谷区西原 2-42-1

日時：お通夜 2月4日(金) 18:00 ~

告別式 2月5日(土) 11:00 ~

喪主：大杉理(さとし)殿 (ご長男)



# 大杉先生を偲んで

根岸 昭二

日本人男性の平均寿命を越えている私とはいえ、お元気な大杉先生は憧れの存在でした。

そして、まともなく満百才になられる大往生であったとは、まさに驚きですし、殆ど医療と無縁の生活を過ごされていたとは、羨望の的でした。

2年間の病気休学から解放されて、何とか復学が叶った切手研時代が先生とのお付き合いの始まりでした。

先生に対しての私の印象は、温厚な感じにつきます。たまたま年齢が一番上であった関係から、学生生活最後の一年間は、会の責任者をつとめさせていただき、先生のご指導いただいた間に、その思いを深くしました。

過日先生のご訃報に接した時に、永く忘れ

ていた一人の後輩を思い出しました。

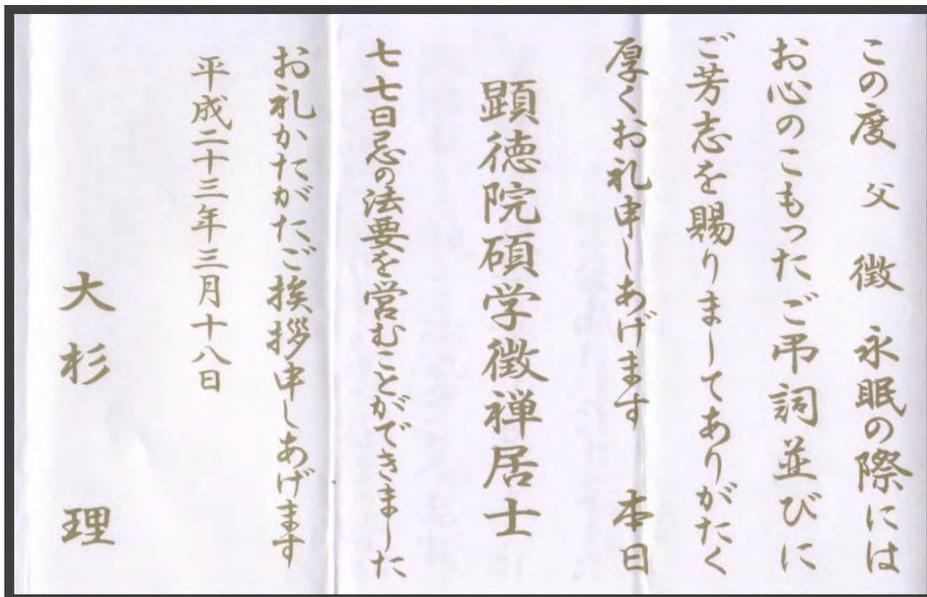
未だ春秋に富む歳を残して、他界してしまった辻嶋君です。

切手研の創生期に未だ学院生のまゝ入会した彼は、確か大杉先生が学院で教えられた生徒の一人だったと思います。

そのために、先生が、彼を辻君とお声をかけられるおだやかな音声が耳に残っています。

彼には会報の編集をお願いして世話をかけました。ですから、彼は切手研内での、大杉先生の教え子第一号でなかったかと思えます。

そのお二人とも旅立たれてしまったとは、残された私にとって、悲哀と無聊感を切に味わう昨今であります。



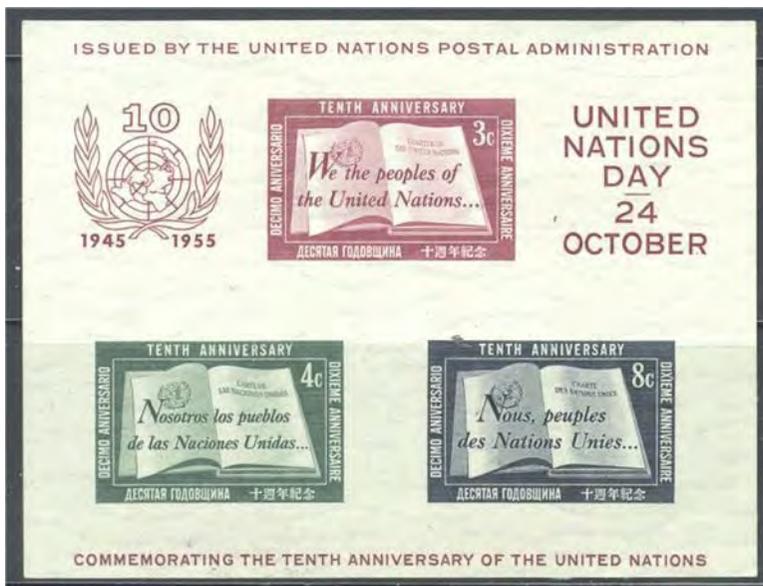
# 大杉先生の叙勲

黒川 清知

1983(昭和58)年の春の叙勲で先生は勲3等瑞宝章(当時)を受章された。既に大学は退職されて名誉教授、30年間(1951~1981)の長きにわたって会長をお願いしていたので、多くの会員が先生のもとで切手に明け暮れていたのだ。だから自然発生的に祝賀会をやるということになり、会長(当時)の内田武吉先生始め、金井宏之、明城与一、橘喬一大先輩ほか総勢18人を発起人として、同年7月24日校友会館で早大切手研OB会(当時)の主催で開催された。私も発起人の1人として祝賀会の企画、進行のお手伝いをした。

当日先生は一同の盛大な拍手の中、春子夫人を伴われてご来場、貴重な勲章を披露して下さった。初めて見る勲章にみんな驚嘆の声を挙げた。

出席者は大阪、仙台、名古屋から駆けつけた会員と吉田進幹事長ほか5名の現役会員を含めて62名、午後4時立花卓会員の司会のもと、明城与一会員の開会の辞、会長内田武吉先生の祝辞の後大杉先生より丁寧な謝辞を頂き、橘喬一会員の音頭により一同心からのお祝いの乾杯、歓談に移った。先生は久しぶりに会われるOB、OG会員の中を万遍に回られ、お元気にグラスを傾けておられた。この間切手研究会らしい記念品として、入手が難しいといわれる1955年10月24日(国連の日)国際連合発行の「国連10周年記念3種組み合わせ小型シート」を、プレゼンター高野貴江会員により贈呈した。また叙勲の蔭に内助の功のあった春子夫人に五十嵐丈記会員から花束が贈られた。



記念品として大杉先生に贈呈された国連10周年記念3種組み合わせ小型シート  
(1955年10月24日発行)



1983年7月24日 大杉徴先生叙勲記念祝賀会 校友会館

これと前後して根岸昭二、小熊忠三郎、林輝子、橋浦愛武、杉山光雄、小西邦彦、大年征夫、小林英昭、楠民世、井上武志各会員が、先生叙勲の喜びと思い出の数々のスピーチを披露し、約3時間の宴の尽きることを惜しみながら、佐藤隆之会員の集合写真の撮影、そして元気溢るる現役会員リードによる「都の西北」の大合唱、エールの後渡辺勝正会員による万歳三唱、小針常昌会員の閉会の辞をもって午後7時終了した。

因みに記念品の国連切手は、高馬邦夫会員営むサンフィラテリーの協力により入手、私は新橋の店で対応の猪狩真樹夫会員から受け取った記憶がある。

先生はいつもあの温顔で優しい言葉を掛けてくださり、いろいろご指導を戴いた。。先生のお人柄を慕って30年もの長い間会長をお願いしていたのだ。先生は早稲田OBではないが、お父上が早稲田出身、心から早稲田を愛し、教育学部長も勤められ、そして切手研を愛し、切手を深く愛しておられた。

1999年11月発行の記念誌「切手研50年」に「早大切手研究会々報」の第1号から第55号まで(1950～1997)また「KEIO Philatelist」との早慶合同編集号の全記事、大学郵趣連盟の「Philatelic Journal of UPL」の一部記事の総目次を編まれている。「早大切手研究会々報」はその後切手博物館に全号寄贈されている。

先生は2011年1月29日に亡くなられた。99歳と11ヶ月、あとわずかで100歳、前日までコーヒーを嗜まれ大変お元気のご様子だったと聞く。先生は地学がご専門、この学問は山を含めて徒歩での調査・研究が多い、したがって足が鍛えられる。足は第2の心臓といわれる。先生のご長命は宣なるかな。

大杉徴先生長いこと有難うございました。心からご冥福をお祈りいたします。

合掌

# 生涯、集めっ気盛ん

青木 常男

京王・井の頭線、終点吉祥寺の一つ手前が、井の頭公園駅、改札口は終点寄りにある。この駅を頻繁に利用するようになったのは、現役をはなれ、商学部同期生のビジネス＝官庁、企業の機関紙、マニュアルなどの編集、翻訳の手伝い、無給の代わりにパソコンの操作を教えるようになった頃のことだった。

半分自宅でこなせる内容でもあり、当時整理にとりかかっていたタバコ・パッケージには、相当の重複があったことから、先生のご自宅へお届けするのが定例となっていた。

改札を出て、駅前のなだらかな上り坂が平坦になったあたりで右折、閑静な住宅地の中、徒歩4～5分で今度は左に曲がる。T字路の突当たりには日産車(当時)が収まるスペース、さあ、先生とのコレクション談義が楽しみだ。

早大切手研究会の会長と会員の話題は、切手収集にかかわる事柄は勿論、タバコ・パッケージに関する情報などなど、お伺いするたびに時間をおぼろげに忘れることが屢々であった。

本題はこれからである。「青木君、ちょっと待っててね」の一言のあと、先生がお持ちになったのは、濃紺の地に“晴天白日”(中国国民党々章)をあしらった小ぶりの印刷物である。「これはね・・・」とお話が始まる。

日中戦争に突入した当時、先生は日本陸軍航空隊に、青年将校として籍を置いて居られた由、この小冊子は、「伝単」と呼ばれ、中国国民党軍、その支配地域の上空から航空機によって散布され、中国軍人、一般人に降伏を促す目的をもっていたとのこと。

その内の一冊が、「大杉コレクション」に加わっていたのである。

「それからね・・・」と、次にご披露頂いたのは、半月形を2分割したような赤のガラス製

品。これは小生の趣味範囲内、「翼端灯みたいですね」とお答えすると、「機種は何だと思う？」これは守備範囲外であった。

日本軍が、ソ連、外蒙(ソ連支配下の外蒙古)軍との間で惹起した国境紛争、ノモンハン事件の最中、大杉士官は、空中戦で日本軍が撃ち落としたソ連製の戦闘機I-16の残骸を見つけ、外してきたのだとのこと。

印象では、かなり雑な造りのガラス製品だったと記憶している。現在なら、恐らくはプラスチックで作られていたにちがいない。

次の機会では、4桁の数字を記した重厚な銅製のプレートを拝見した。

「昭南島って覚えているかい？」、「シンガポールのことですね」このやりとりからスタートとなった。

「我々がシンガポールに入った時、宿舍の傍に壊れたホテルがあってね、そのホテルのルームナンバーのプレートなんだ」

「ご自分で外して来られたのですか？」、「自分の手でやる所に味があるのさ」

我々の経験とは較べようもないほどに、時には生命のやりとりを伴う局面の渦中において、当時軍籍にあった先生の“集めっ気”には脱帽せざるをえなかった。

先生のコレクション談義の中では、いろいろな知識、智恵を授けて頂いた。

例えば、応接間のデスクに何気なく置かれた一冊の画集、手にとってみると、洋画家・国領経郎の作品集であった。

「私の愛唱歌シリーズ・第2集、砂山」の原画が、彼の作品であり、勿論この画集にも収録

されていたことはいうまでもない。  
「この人とは少々縁があってね」、先生とは、  
ご縁戚になるとのこと。ここからは、美術を  
話題に談論風発の一時を過ごしたのだった。

先生のお宅に、度々お邪魔することになっ  
た訳の一つに、奥様のおもてなしがあった。

お茶と、お菓子、果物など、季節に合った  
一品が添えられる。

ゆったりとした時間を過すに、相応しいし  
つらえであった。

その演出家が奥様であり、その心遣いが居  
心地のよさに繋がったのだろう。

私が手を付けなかったお菓子など、「お家

で、一緒に・・・」と言葉を添えて、小さ  
な包みのお土産を、さりげなく持たせていた  
だいたものである。

先生の学究生活、そしてプライベートライ  
フを、蔭から支えた、いや見守っていたのが、  
奥様の存在だったとも思える今日此頃である。

“幽冥境を異にす”という言葉がある。

大杉先生が、“今猶、集めっ気盛ん”に過し  
ておられると、祈るものである。

合掌



応接室の大杉先生夫妻

# 大杉先生を偲んで

林 輝子

39号の稲門フィラテリーで大杉先生のご逝去を知り、早稲田での恩師の中でゼミの堀江先生の訃報を知った時と同じくらいの衝撃をうけました。

学部が異なっておりましたので先生からは直接ご指導はうけませんでした。OB会の折お声をかけていただいたり、特に昭和58年の先生の叙勲をお祝いするOB会に奥様ご同伴でおいでいただいた時のことを思い出しております。

また、OB会の機関紙「稲門フィラテリー」の命名は、たしか先生だったように記憶しております。

長期に亘り私共をご指導いただき、白寿で天命を全うされた先生のご冥福を心からお祈り申し上げます。

合掌

# 大杉先生の思い出

藤田 弘道

大杉先生には大変お世話になりました。出会いは昭和31年4月、教育学部1年の一般教養の「地学」の講義でした。50年前のことで講義の内容はまったく記憶しておりませんが学生の私語に例の大きな声で叱責されたことを覚えております。その後、私の専攻は「日本教育史」であったため先生との接触はありませんでした。私は切手研で熱心に活動した訳ではないので尚更です。

昭和50年頃、私は東伊豆の「南熱川東映ホテル」で支配人をしていましたが、切手研同期の石井道久さん、宮盛潤さん達の計らいで切手研の懇親会をホテルで開いてくれました。大杉先生も参加されました。大杉先生はホテルを大変気に入られ、その後、十数年、お正月はご家族で過ごされました。奥様とも親しくさせて頂き、色々先生のエピソードを聞きました。「主人が夕食後、部屋に籠って真夜中まで出て来ない、さぞ研究に没頭しているの



娘の披露宴にて（平成7年）

だろうと思ってコーヒーを入れて持って行ったところ机一杯に切手を拡げているんですよ。」思わず笑ってしまいました。数年ご利用頂いたある年、先生より「藤田君、毎年使っているからもう少し安くないかね」と注文がでました。当時、お正月の伊豆は売手市

場で部屋売りが主流、先生には特別価格で提供していましたし、責任者としては営業陣を叱咤激励している身ですからそう簡単に引き受ける訳にはいきません。丁重にお断りしたところ「他をあたってみる」ということになりましたが、数日後、再度連絡があり「やっぱり藤田君のところにするよ。料理も良いし、仲居さんも何時も同じだし」とそれからはずっと懇意にさせて頂きました。お正月は殆どホテル勤務でしたので老いて益々元気な先生の警咳に接するのは大きな楽しみでした。

平成7年、私の娘が結婚することになり彼氏も慶應だしその兄達も慶應、仲人を名誉教授の小名木栄三郎先生に依頼することが判りました。私としては娘のため主賓として釣合いのとれた人をお願いしなければならず困惑しました。

大学の主任教授、高校の恩師は既に亡くなっているし、会社の上司は気が進まないし。そこで大杉先生に恐る恐るお伺いしたところ二つ返事で出席を快諾して頂きました。当日、大変素晴らしい祝辞を述べられましたし、小名木先生とも和やかに懇談をされて流石だなと感銘しました。娘も彼氏も三越だったため出席者も慶應出身者が多く早慶戦は完敗でしたが和やかな良い披露宴でした。



娘の披露宴にて（平成7年）

又、大杉先生のお嬢さんのお婿さん、六川二郎さんをご紹介頂きました。六川さんは東京銀行から株式会社東横インの副社長に転じられご活躍されました。たびたびお会いしてホテルの運営についてご教示頂きました。

大杉先生は切手研の仲間のなかでも大変お世話になったし又面倒かけた一人だと思いません。ありがとうございました。

大杉先生の心よりのご冥福をお祈りします。

合掌



娘の披露宴にて小名木先生（右）と談笑される大杉先生（平成7年）

# 大杉先生の思い出

住吉 忠男

切手研との出会いは、学院1年生の秋に第1回早稲田祭が行われていて、学生ホールの展示会で早稲田大学に「切手研究会」があり、学院生でも入会可能ということを知ったときから始まります。

入会したのが昭和29(1954)年11月ですから、56年も前で、このときすでに会長は大杉先生でしたから、半世紀を十分にこえる期間ご指導いただいたこととなります。

当時の学院は、科目を選択する範囲がきわめて少なく、いわゆる理科では物理・化学・生物・地学をすべて履修することになっていて、大杉先生は榎山欽四郎院長のもと、教務副主任を務められていて、理科組(いまはこの制度がなくなっていました)が、その頃は3学年になると、第一理工学部に進学する理科組と、その他の文科組とに分けていました。地学の授業を持たれていました。

切手研では、どんなときでもニコニコと学生に接して下さった先生も、学院では厳格であつたらしく、卒業アルバムにある九州旅行のページで、東京駅15番線で見送る列車を見送って下さった場面のタイトルは「あんまり嬉しい見送りでは・・・」となっています。

でも、切手研の展覧会・コンパなどに参加して下さるときは、いつもそのようなことはなく、学部になって「今日の地学の試験、全くできませんでした」と自白したときも「心配することはないよ」とおっしゃって、単位を下さいました。ここで落としていると4年で卒業するのはかなり大変だったので、この意味でも切手研に入会してつくづくよかったと思っています。

これももう40年以上前のこととなりますが、夏休みに家族で志賀高原へ行くことにしていました。暑中見舞いを出したところ、すぐお返事がきて、志賀高原郵便局の風景印を見るだけで涼しさが感じられると書いて下さいました。これに気をよくして、2010年7月・祇園まつり山鉾巡行当日の京都中央まで毎年続けています。なるべく違ったところにしようと、出張の帰りに投函に行った盛岡八幡、盛岡材木町、宮沢賢治生誕100年記念童話村・花巻、岩手田野畑、宮古、気仙沼、未来の東北博覧会・仙台東、うつくしま未来博・須賀川など今回の東日本大震災で被災されたところも多くあります。地学を研究された先生から関連したお話を伺うことが出来ず残念です。

たくさんのお話を伺いいただき、ありがとうございました。私たちの結婚式にご出席下さったとき、お祝いに頂戴した青磁のお皿は今でも現役であることをご報告して、謹んでご冥福をお祈り申し上げます。

# 大杉先生の思い出

渡辺 勝正

昭和31年4月、月曜日の午前10時、教育学部最初の授業が大杉徴先生の「地学」ではじまった。背筋をぴんと伸ばし、いかにも大学教授らしい威厳のある容姿が強く印象づけられた。

その一ヶ月後だったか、「早大切手研」の新生歓迎会が「茶房」で行われ、会合に出席されたのは「早大切手研・会長」としての大杉先生だった。まったくの奇遇である。振り返ってみるとあれから随分歳月が流れたことになる。

私は社会に出てデザインの仕事を担当していたので、切手をあしらったカレンダーやポスター、書籍などを制作して、先生にお届けした。切手関係の制作は多岐にわたり、取り分け『早大切手研50年』の特別号「祝・大杉先生卒寿」の出来栄を、大変喜んで下さった。

「卒寿」の紙碑ともいえる『早大切手研50年』特別号の制作のため、私は井の頭公園に隣接している先生のお宅に伺った。公園の散歩にお伴

して感じたのは、卒寿を迎えられた90歳の先生の足取りの方が、60代の私より軽かったことである。池に架かった太鼓橋を渡るときも乱れることなく、さっさと歩かれた。

「若いころから“地学”を勉強するためによく歩いたためか、脚だけは丈夫だね」とにっこりされた先生の横顔が忘れられない。

また、鉄道ファンでもあった先生に、私は鉄道関係書を出版するたびお送りした。いつも弾んだ声でお礼の電話をいただいたが、特に『都電百景百話』『都電の消えた街』など「都電」関係の本が気に入っていただいたようだった。切手の趣味とは異なる、鉄道という別次元の趣味でも先生と触れあうことができた。

学生時代から今日に至るまで、公私ともにご教示賜り幸せであった。切手趣味、鉄道趣味を堪能され、生涯ご健脚で天寿を全うされた大杉先生。大変お世話になりました。

合掌



# 大杉先生との出会いと思い出

小林 彰

大杉先生に初めてお目にかかったのは半世紀以上も前の昭和31年のことでした。場所は上石神井の早稲田大学高等学院の教室。当時、先生は同校で地学の教壇に立たれており、私はその生徒だったのです。間欠泉とか玄武岩、石灰岩、水成岩などの岩石の生成過程や成分などを熱く語っておられたことを今でもはっきりと覚えています。ひじょうに厳格な一方、人情味にあふれた世話好きな先生と生徒から慕われておりました。私はこの時代すでに切手収集に熱を上げていましたが、先生が収集家であることはまだ知りませんでした。

その後、先生は早稲田大学教育学部で教鞭をとられるようになり、私は理工学部に進学したため授業を通じての接点はなくなりました。ところが早大切手研究会に入会すると、なんと大杉先生が会長だったのです。このとき初めて先生が大収集家であることを知ったのです。

商社勤めでアルジェリア駐在となり、サハラ砂漠で採取した「砂のバラ」を差し上げるとたいへん喜ばれ「砂の中のわずかな水分が乾燥し

た地表付近で蒸発するとき溶けていた硫酸カルシウムは硫酸バリウムが結晶して砂のバラをつくるのだ」と専門的に解説いただいたことも懐かしい思い出です。

また、先生はタバコの箱の著名な収集家でもあり、映画会社から撮影用にこの時代のタバコの箱を貸して欲しいとの依頼がよく舞い込むと嬉しそうに話されていたお姿も目に焼き付いています。

マダガスカル駐在時にはマダガスカル郵趣家協会への支援を行っていましたが、稲門フィラテリーの会員の皆さまからもアルバム、カタログ、紙付切手の提供など協力をいただきました。大杉先生は稲門フィラテリー以外の会合でこのことを紹介くださっており、思わぬ方から郵趣品の提供を受けたりもしました。

先生、学院時代以来の長きにわたり、多方面でご指導いただき、ありがとうございました。どうか安らかにお休みください。合掌。

# 浜松の人 大杉先生

井上 武志

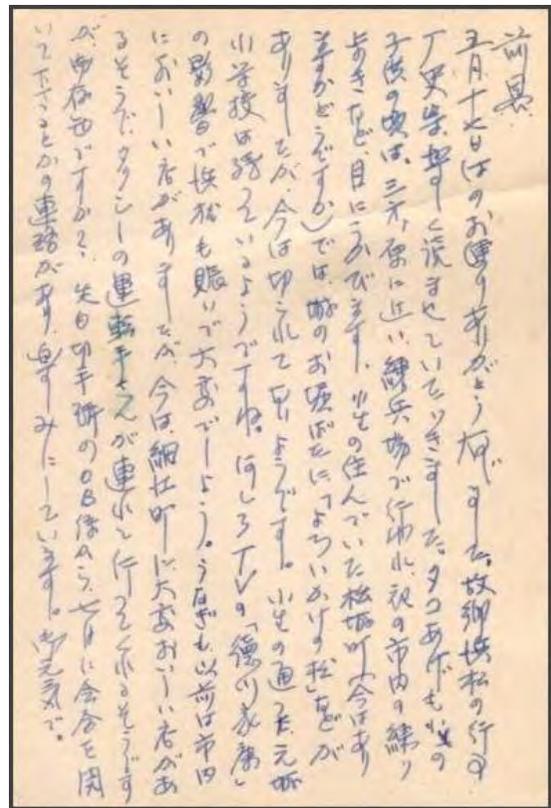
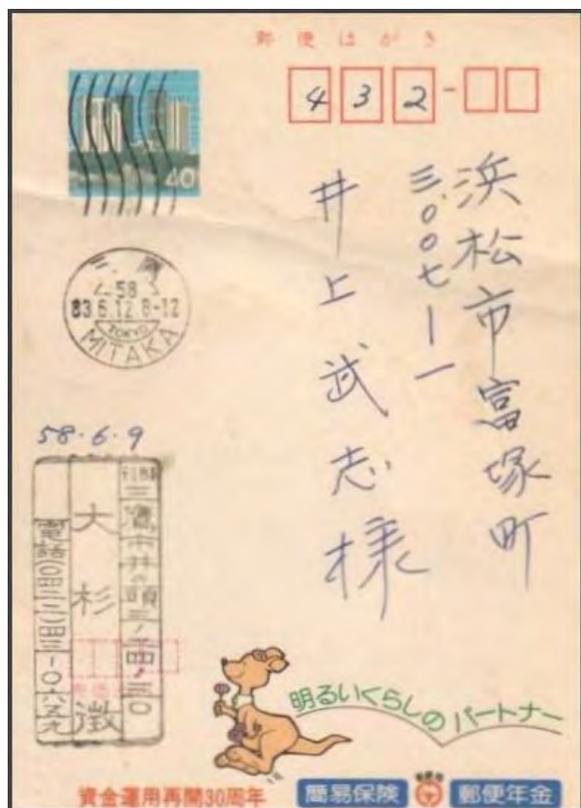
昭和58年6月12日付で、大杉先生からいただいた葉書を紹介します。当時私は、転勤で銀行の浜松支店に勤務していました。

驚いたことには、大杉家のルーツは浜松市の隣りの「磐田市」であること、小学校は浜松城の近くの元城小学校で、「大杉家のお墓は今でも磐田にあるので」と毎年墓参に来られているとのことでした。

昭和のはじめに上京され、リンドバーグの大西洋無着陸横断飛行の記事を新聞でご覧になってとても感激されたことは、皆様ご存じの通りです。その後この航空切手（1927年6月18日

発行）が欲しくてたまらず、目白の切手趣味社の吉田一郎氏に依頼して、アメリカから取り寄せていただいたそうです。大学も北海道帝大理学部に進学されたことからわかりますように、科学方面に関心の高い少年であったようです。

葉書の文面を拝見しますと、当時の温容が目には浮かびます。どうぞ安らかにお眠りください。大杉先生、有難う御座いました。



# 大杉先生と共に

稲葉 良一

## 1 先生との出会い

早大切手研の出身者であれば、コンパ等で、いつもニコニコされている優しい大杉先生のお顔を思い出されることと思います。

私も当然ありふれた部員の1人なのですが、他の早大切手研の方々とたった1つ違うのは、私が教育学部理学科地学専修であったことでしょう。そうです、大杉先生のお膝元で学生時代を過ごしたのです。大杉先生曰く「私の長い教員生活で、地学で切手研は君だけだ！」

私が早稲田大学に入学したのは、昭和47年の春。入学式の後、記念会堂を出ると多くのクラブ勧誘が待ち受けていた中、切手と天文のクラブを探し、天文のクラブは見つけて入部出来ましたが（早大天文同好会で、1年後輩には宇宙飛行士の土井隆雄君がいた）、切手研はついに見つけることができませんでした。郵趣等でクラブの存在は知っていたので、何とか部室（あの学生会館19号室）へたどり着きましたが、部室には同居していた児童文学研の人ばかりで、もう少しで児童研に入部させられそうになったものです。その後例会の日時を知り出席。そこで地学専修であることを話すと、大杉顧問に挨拶に行くことになり、数日後先輩たちに連れられて大杉先生の研究室へ。そこで初めて大杉先生にお会いすることとなったのです。第1印象は「優しくそうなおじいさん」でした。

## 2 大切なお仕事

すっかり大学生活にも慣れた1年の秋、私は井上先輩の勧めで、新橋スタンプでアルバイトをしていました。そしてアルバイトが終わると、新橋駅の反対側にあったサンフィラテリックセンターに顔を出すようになっていました。当時サンフィラには、高馬先輩、猪狩先輩をはじめ根岸先輩や近藤一郎さん、沢護さんなど郵趣界をリードする方々が集まっており、多くの知識を吸収することができました。そんな折、クラブ員として重要な仕事が廻ってきました。それは、サンフィラから大杉先生の所へ新発行



図1 譲っていただいたU小判切手

の日本切手を運ぶことでした。何しろ、大杉先生からは「いい加減なことをすると、地学概論の単位はあげないよ」と言われていたので大変です。大杉先生の授業も大変で、先生の手前悪い成績は取れず、しっかり勉強もしました（当たり前？）。たまに欠席すると友人より「稲葉の返事が無い時は、大杉先生は必ず聞き直して確認する。お前の代返は絶対できない」と言われたものでした。

このようなプレッシャーを受けながらも、がんばった甲斐があったのか地学概論は「秀」をいただきました。

## 3 大杉研究室での例会と切手譲渡

3年の頃だったと思います。何度か例会を大杉先生の研究室でさせていただきました。目的は、大杉先生からの切手譲渡です。先生は、戦前の記念切手を多く持っておられ、それもシートで購入されていたようでした。我々部員の前に広げられたのは、シートの一部が欠けた大きなブロックで、希望の切手は、カタログの半値で譲ってもらえました。この例会で、図入りアルバムの中の戦前記念切手の部分がずいぶん埋まったのを覚えています。また、当時集め始めていた小判切手の、U小判赤2銭の三河・西尾消やU小判緑1銭の東京ボタ消などを、カタログの半値の1枚数十円で譲ってもらったりしていました（図1）。

#### 4 最大のピンチ

地学専修では、大学3年の夏休み中に約1週間の北海道巡検があります。このときは、切手研の幹事長をしており、幹事長としての最大の仕事は、早大切手研創立25周年記念行事を成功させることであり、大杉先生からも記念切手展・記念OB会・記念部誌をしっかりと行うように強く言われておりました。切手展（新宿の郵趣会館で実施）とOB会は9月中旬に実施予定で準備を進めていましたが、その切手展の初日と北海道巡検のレポート提出日が重なってしまいました。巡検レポートは地学の者にとっては非常に重要な課題であり、図や採集した標本を整理して数10ページにはなるレポートです。もちろん8月下旬から準備をしていたのですが、切手展やOB会の雑務も入って、なかなかはかどらずにいました。提出数日前になってもレポートは完成せず、切手展に出品する作品作りも進まず、どう考えても間に合いそうもない。大杉先生の顔が脳裏に浮かんだのはこの頃で、切手研関係と巡検レポートのどちらかでも手を抜くと先生の顔に泥を塗ることになるので必死でした。結局最後の3日間は、ほぼ徹夜状態でレポートと作品を仕上げることになりましたが、何度も弱音を吐きそうになったものです。もし大杉先生が顧問でなかったら、きっと違った結果になっていたでしょう。

このようにして実施した切手展(写真1)とOB総会(写真2)には、多くのOBの方からも出品をいただき、OB会も多くの方々に出席していただきました。大杉先生をはじめ多くのOBの皆さんにも喜んでいただくことができ、本当にやりがいのある幹事長時代でした。

#### 5 卒業そして教員として

こんな私も、無事大杉先生の単位もいただき(それもいい成績で)卒業をひかえた追い出しコンパで、楽しかったクラブの思い出を話すと、大杉先生からは「そんなに楽しく、卒業するのが嫌なら、今からでも単位を落としてあげ



写真1 創立25周年記念切手展会場にて  
大杉先生と当時の現役クラブ員

るから留年すればいいよ」とのお言葉をいただきました。もちろん丁重にお断りしましたが…。

卒業後は、千葉・市川にある昭和学院の教員となり、そこで中学校のバスケット部顧問となりましたが、大杉先生も早稲田大学バスケット部顧問をされておられたので、不思議な縁を感じられずにはおられませんでした。

大阪に帰ってからは、大杉先生とお会いする機会もすっかり減ってしまいましたが、そんな中で、早大切手研創立50周年で先生とお会いしたのが最後となってしまいました。(写真3)



写真3 創立50周年会場にて



写真2 創立25周年記念OB総会会場にて(於新宿)

それでも、1999年のIBRA国際切手展(ドイツ)のコミショナーとして参加した折など、先生には記念カバーを送ったりしていました。そうすると、先生からはいつも丁寧なお礼の手紙をいただきました。こちらとしましても、機会あるごとに教員として、切手収集家としてがんばっている報告をして、先生に喜んでいただけることが本当に楽しみでした。これからは空の上から、あの優しい笑顔で見守ってもらえるものと思っています。

## 6 追記

最近第3回早大切手展(昭和27年)のパンフレットを入手しました。(図2)そこには、切手研のあゆみとして、

大杉先生が会長に就任された記載があるので参考までに記録させていただきます。

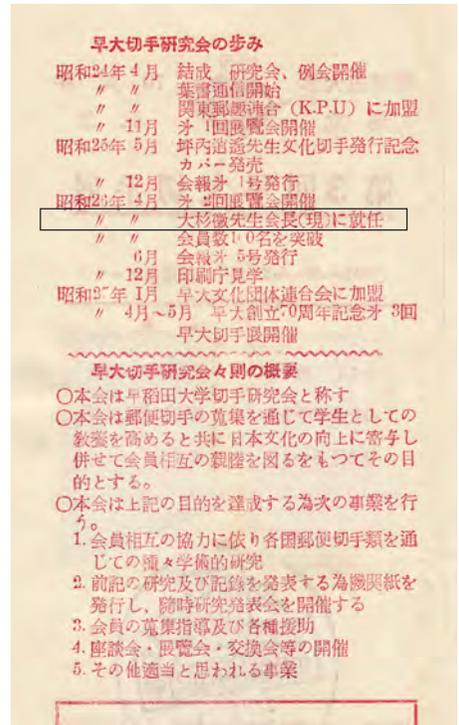


図2 第3回早大切手展パンフレット (右:内側)

# お世話になった大杉先生

- 夫婦でありありがとうございました -

鎌倉達敏・さゆり

## 1. 早大切手研究会会長の存在感

昭和48年に早稲田大学入学と同時に、切手研究会に入会しました。その時の会長は大杉先生で、教育学部の要職にあり、新入生にとっては、大変近寄り難い大きな存在でした。しかし、歓迎会、OB会、送別会等の席では、大変温厚で、柔らかな振る舞い、親しみのある笑顔には、人間的な大きな魅力を感じる大先輩でした。

## 2. 先生から譲って頂いた貴重な切手

大学に入って震災切手を本格的に集め始めました。その話が、稲葉先輩から大杉先生に伝わり、震災切手の「樺太」消があるから、必要ならば、譲って頂けるとの事でした。震災切手の「樺太」消など学生の身分では大変貴重で、感激した覚えがあります。その時譲って頂いたのが、図1の切手で、30年以上経った今でも、私の震災切手コレクションの重要なアイテムとして、大切にしています。

## 3. 会員同士の結婚と式への出席

切手研が縁でしたので、結婚するにあたり、大杉先生に是非とも式に出席して頂けないか、お願いに伺った所、心温まるお祝いとともに、主賓としての出席を快諾して頂きました。お忙



結婚式にて  
(大杉先生：左から2番目)

しい中での出席であり、感謝感激でした。昭和56年4月の結婚式では、素晴らしい祝辞とともに、皆さんと一緒に校歌「都の西北」を写真のように元気に歌っていただきました。あれから30年の月日が流れ、私ども夫婦の2人の娘も、社会人と大学院生になりました。切手は集めていませんが、出品した切手展には家族全員で来てくれます。

早大切手研の長い歴史の中で、会員同士で夫婦になったのは、結局我々夫婦だけでした。

## 4. 大杉先生への御礼

その後、OB会の会合で、お会いするたびに、我々夫婦について、色々お気遣いを頂きました。

大杉先生、頂いた切手大事にして行きます。また、夫婦ともども大変お世話になり、本当にありがとうございました。



図1 震災3銭切手  
樺太・豊原（大正13年9月）



# 大杉先生の思い出アルバム

- 早大切手研 50年誌より -

井の頭公園にて



このページの写真（撮影者：佐藤隆之氏）



1981年3月28日 大杉先生退官記念パーティー 銀座東急ホテル



1983年7月24日 大杉先生ご夫妻（叙勲記念祝賀会 校友会館にて）

## 切手教室

4月に予定していた切手教室は、東日本大震災の影響で6月に延期しました。

第79回 6月4日「フランスの女性像 - マリアンヌにまつわるお話 - 」

講師：甲斐正三氏

第80回 7月2日「切手と文学」

講師：池澤克就氏

当会会員木辺円慈氏が門主の錦織寺、

東日本大震災義援金募金活動

「稲門フィラテリー」37号で紹介されておりました、当会会員木辺円慈氏が門主を務める真宗木辺派本山「錦織寺」で親鸞聖人七百五十回御遠忌法要が昨年11月に営まれました。木辺派は浄土真宗各派に先駆け昨年営みましたが、今年が750回忌の年になっており、浄土真宗本願寺派(西本願寺)真宗大谷派(東本願寺)は今年に行事を予定していました。

しかし、東日本大震災により延期あるいは中止を決め、被災地の救援活動、義援金の募金を行っている」と新聞等で報道されました。

木辺派でも東日本大震災義援金募金活動を行っています。



木辺円慈氏

## 稲フィラ総会(予告)

2011年度の第46回ホームカミングデー・稲門祭の開催にあわせ、稲フィラでは以下の日程で総会を予定しております。詳細は次号にてお知らせいたします。

開催日時：2011年10月16日(日)

## おわび

稲門フィラテリー39号 15ページの写真の日付は、平成22年10月28日の誤りでした。お詫びし、ここに修正します。

## 稲フィラ常設切手展

第13回 新しくなった新宿北郵便局の風景印  
開催日時：2010年12月9日～2011年3月8日  
場所：新宿北郵便局

第14回 世界の国から兎年切手  
開催日時：2011年3月9日～6月7日  
場所：新宿北郵便局

第15回 ウィリアム王子とキャサリンさんのご成婚切手

開催日時：2011年6月8日～9月上旬

場所：新宿北郵便局



## 編集後記

今月号は、皆様から寄せられた大杉先生の思い出を中心に、追悼特集号としてまとめました。お忙しい中、原稿を執筆いただいた皆様、ありがとうございました。

節電や原発対策など、これからも震災の影響がまだまだ続きそうですが、日本の新しい未来を見据えながら、前向きに進んでいきたいものです。(池)

発行日：2011年6月1日

発行：稲門フィラテリー

発行人：小西 邦彦

〒150-0002

渋谷区渋谷1-11-3 正栄ビル4F

(株)英国海外郵趣代理部内

稲門フィラテリー事務局

編集担当：吉沢 忠一 池澤 克就